

同志社創立150周年記念 同志社大学能楽部創部100周年記念 新作能「庭上梅」 —未来に繋ぐ新島襄の志—

2025年4月19日(土)、「栄光館」にて開催されました。約450名の一般観客と100名の同志社大学生の来場があり、新島の意志を継承した建学の精神を能という日本の伝統芸能によって深く感じる一日となりました。

能の最後(キリ)の部分では、客席の学生、卒部者も共に謡に参加しての大連吟となりました。同志社の校舎名(栄光館、有終館、彰栄館など)を織り成す詞章に続き、「良心我らに充ち充ちて、いざ立て輝け自由と正義を学び伝ふる、同志社の、学び伝ふる我らが同志社の、新島精神ハ永久ならん」と謡って締めくくり、同志社が200年先、300年先延々と輝かしい発展を遂げていることを祈念し、満場の拍手のもと当催しを終えました。



逝去者追悼礼拝

2005年に発生したJR福知山線脱線事故および福島県でのバス事故において犠牲となった本学学生を覚え、毎年4月に追悼礼拝を行ってきた。これらの礼拝には、遺族や友人をはじめ多くの方々が出席され、故人を偲ぶ大切な機会として長く継承されてきた。こうした経緯を踏まえつつ、現在では、直近1年間に志半ばにして在学中に亡くなった学生や、在職中に亡くなった教職員を偲び、その生涯と功績に感謝を捧げ、共に深く祈りを捧げる機会として「逝去者追悼礼拝」を開催している。

今年度は、2025年4月25日(金)、今出川校地の同志社礼拝堂および京田辺校地の同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂にて開催した。当日は、今出川校地に約200名、京田辺校地に約70名が参列し、学生、教職員、卒業生、遺族らがそれぞれの思いを胸に祈りを捧げた。

礼拝では、オルガンの前奏とともに厳粛な雰囲気の中で礼拝が始まり、聖書朗読と祈りに続いて、今出川校地では木原活信副学長が「死ぬ日まで天を仰ぎ」と題して、京田辺校地では玉井史絵副学長が「Present——『今、ここに』あるということ」と題して奨励を担当された。終盤には、賛美歌の斉唱と黙祷が行われ、参列者一人ひとりが静かに故人への感謝と敬意を表した。





創立150周年記念事業 同志社女子大学図書館(今出川キャンパス)改修へ

創立150周年記念事業の一環として、同志社女子大学図書館(今出川キャンパス)の改修を実施いたします。

この改修は「開かれた図書館、人が集う図書館」を基本理念とし、今出川キャンパスの歴史ある景観を大切にしながら、現代の学修環境にふさわしい機能性と快適性を備えた新しい図書館空間を創出することを目的としています。今出川図書館は、図書館建築のパイオニアである鬼頭梓氏によって設計され、1977年に開館以降、全国でも珍しい地下式図書館として、栄光館、ジェームズ館とともにキャンパスの象徴的な景観を形成してきました。

今回の改修では、建物構造や外観の持つ歴史的価値を尊重しつつ、3つの軸での改修を行います。まずは「歴史と調和したキャンパス景観の再構築」として、建築遺産を大切に、前庭やアプローチの整備を通して「同志社女子大学らしい」景観を創出し、記憶に残る場所として生まれ変わります。また、「快適で開かれた内部空間の実現」として、正門や栄光館などからのアクセスを向上させ、訪れやすい動線へと再構築します。地下空間でありながら、明るく居心地の良い環境で学びを促進します。そして「未来を見据えた機能強化」として、設備や建具、内外装を全面的に更新し、快適性・安全性を向上させます。集密書架の導入により収容能力の向上、蔵書スペースの効率化も図ります。

創立150周年を機に、新しい時代の同志社女子大学を象徴する「知の拠点」として図書館は生まれ変わります。全体使用の開始は2026年10月からの予定です。



同志社中高同窓会主催 「ミライへ繋ごう La,La,La Doshisha」

2025年6月21日

2025年6月21日、同志社中高同窓会主催にて、同志社創立150周年記念事業として「ミライへ繋ごう La,La,La Doshisha」を開催いたしました。

同窓会与学校との交流が少なく、在校生が同窓会の存在を意識する機会が無いこと、また同窓生も現在の学校の様子に疎くなっているということを鑑み、同窓生と在校生の交流を主な目的とした事業を行いました。

当日は、同志社中学校・高等学校校長である中澤先生と、同志社中高同窓会森田会長との間にて、学校と同窓会が今後手を携えて事業を行っていく旨の事業締結式を行いました。

続いて、同窓生である4人のパネリストによるパネルディスカッションを開催し、在校生から質問を募るなど、中学生・高校生に向けてのトークを行い、結びには在校生へのメッセージもいただきました。パネリストには、S44年度卒の能楽師であり人間国宝保持者の金剛永謹様、S51年度卒の株式会社モリタ代表取締役社長であり同窓会長でもある森田晴夫様、H10年度卒でびわこ成蹊スポーツ大学教員、在校時にラクロス部を創設した亀本真朱様、H13年度卒の脚本家・作詞家でありラパントラック代表、「映画ドラえもん のび太の地球交響楽」などを手掛ける内海照子様、と年齢層や職業など幅広い方々をお迎えしました。

その後中学高校それぞれの生徒会による学校案内を行い、同窓生は生徒の皆さんと会話をしながら、校内各所の見学を楽しみました。

182名の参加、うち74名は中高生ということで、大勢の方々が話す機会を持ってました。また事業そのものもですが、当日のスタッフにも生徒会の皆さまに入っただき、昼食を共にとるなどを通じ、交流を深められたかと思えます。今後この交流を目的とした事業が、形を変えながらも続いていきますことを願っております。



パネルディスカッション



高校生徒会による学校案内

中学・高校 体育祭

5月8日(木)に高校体育祭が、5月9日(金)には中学体育祭が、本校第1グラウンドでそれぞれ開催されました。

高校体育祭は晴れ渡る青空の下行われ、最初の種目である「宅配便リレー」から最後の「クラス対抗リレー」まで、生徒たちは一つひとつの競技に全力で取り組み、会場には途切れることのない声援と、生き生きとした笑顔があふれていました。

中学体育祭は午後から小雨の予報で天候が不安な中、雨天にも対応できるようにプログラム順を変更して開催されました。選手入場、開会式に始まり、中2学年競技「台風の日」から最後の種目「クラブ対抗リレー」まで、予定していたすべての競技を実施することができました。天候には恵まれませんでしたでしたが、全力で競技を楽しむ生徒たちの笑顔と、1位の選手だけでなく遅れを取った選手にも声援や拍手を送る優しい姿が印象的でした。

両日とも平日にもかかわらず多くの保護者が来場され、中学生徒会・高校生徒自治会の尽力もあり、成功裡に終えることができました。



「芸術鑑賞」

6月11日(水)高校生対象、6月19日(木)中学生対象で芸術鑑賞を行いました。今年度は、大阪四季劇場での四季ミュージカル「ウィキッド」。L・フランク・ボームの「オズの魔法使い」を、二人の魔女の視点から描いた作品で、ものごとは一面からだけでなく、別の角度から見ることで、そしてそれを尊重すること、そのことによって人は心を通わせることが出来る。現代を生きる私たちの心に響くあたたかいメッセージが込められていました。生徒たちは装置や華やかな衣装、劇団員の歌やダンスの素晴らしさに驚きながらも、大切なメッセージを受け取り、帰途につきました。



座席から



パネル

2025年3月 Nueva School 交換プログラム 訪問

3月25日～30日の間、Nueva Schoolへ訪問しました。滞在中、学生たちはパティと一緒に授業に参加し、さまざまなアクティビティを体験しました。英語による学校紹介のプレゼンテーションでは、互いの文化を共有する良い機会となりました。今後もこのつながりを大切に、継続的な交流を通じて互いの理解をさらに深めていく予定です。



2025年5月 Nueva School 交換プログラム 受入

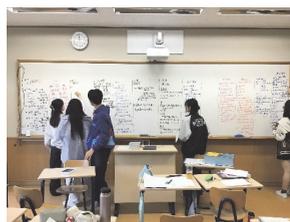
5月10日～17日の間、Nueva Schoolの交換留学生を迎え、日本文化に触れてもらう特別授業を行いました。留学生たちは書道に挑戦し、日本や京都にまつわる単語を悪戦苦闘しながらも、最後まで書き上げることができました。また、茶道体験では浴衣を着て参加し、凜とした雰囲気の中で礼儀作法を学びました。伝統的な服装と所作を通して、日本文化の繊細さや美しさを体感している様子が印象的でした。



5月 WWL(World Wide Learning)クラスの授業風景

WWLの授業では、バラエティー豊かな教員がチームティーチングで担当し、帰国生徒と国内一般生徒が生活の経験を共有しながら、SDGsに関わる環境問題や、日本や海外のまちづくりについて学びます。大学の先生の講義や文献調査、海外高校生との交流、ドイツやデンマークでのフィールドワークなどを通じて、実践的な学びを深めます。学んだことはレポートやプレゼンで発表し、高校生フォーラムや京田辺市への提案を通じて、社会に向けた提言を行っています。

現在、高校1年生は、自分たちの住んでいる(いた)まちを紹介し合うために、スライドの作成方法を学んだり、まちづくりの専門家の先生をお招きして学びを深めています。高校2年生は、専門書を読み解き、要点をまとめて発表を行っています。高校3年生は、これまでの研究を卒業までにリサーチブックとして論文にまとめる予定です。





同志社国際学院
Doshisha International Academy

初等部:『京都府私立小学校連合会合同音楽会』

2025年6月7日(土)

毎年6月に開催されている合同音楽会に、DIAでは初等部4年生とDIA有志アンサンブル(初等部・国際部有志による室内楽団)が出演しました。音楽を通して、京都で学ぶ様々な学校の子もたちと交流する良い機会となりました。初等部4年生は《Walk Through Life》(PINKAEBRA 作詞/作曲・山内美奈 編曲)、有志アンサンブルは《カルメン『前奏曲』》(ピゼー作曲/藤盛祐輔 編曲)を演奏しました。



DIA4年生



DIAアンサンブル

国際部:『The DISK Model United Nations』

The DISK Model United Nations Club was preparing throughout the autumn and winter for a conference in Kobe in February. There, our students were able to practice and develop their communication and collaboration skills by representing countries and debating global issues with students from international schools from all over Japan. The topics were e-waste, child trafficking, affordable housing, and weaponization of artificial intelligence. The students were first deliberating the topics in committees, drafted resolutions, and then debated them in the General Assembly. We had a great time and learned a lot from the experience!





同志社小学校

Doshisha Elementary School

「花の日礼拝」

花の日礼拝が行われました。子どもたちがそれぞれ持ってきた花を捧げ、アリーナ前方の献花台は華やかに彩られました。宗教科の先生から讃美歌「このはなのように」の歌詞についてのお話があり、歌詞の意味を考えながら、小さなことにもそっと感謝を表せますようにとお祈りしました。礼拝後には、児童から日頃お世話になっている方々に花束とメッセージカードをプレゼントしました。日頃の感謝を伝えることができ、みんなが温かい気持ちになれる素敵な花の日となりました。



「花の日礼拝」

6月10日(火)、園内のリチャーズホールにて花の日礼拝をおこないました。子どもたちは雨の中、花を大切に抱えて登園してきました。そして、それぞれが持ってきた花を捧げ、園児全員で合同礼拝の時間を持ちました。

また、当日は、堂腰元園長先生にもお越しいただき、花の日礼拝の由来や季節の歌を教えていただいたりしながら、日ごろお世話になっている人たちに感謝の気持ちをもつことができました。



インタビューの2人

私の志

西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士

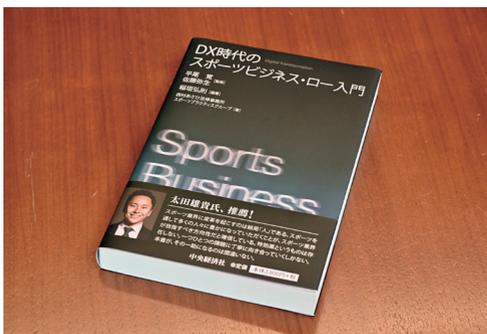
いながき ひろのり
稲垣 弘則さん



スポーツ選手の権利を守り、日本のスポーツ界の健全化と拡大を目指して、スポーツエコシステム推進協議会を立ち上げて活動しています。理不尽な現状を変えたいという強い思いが、私の原動力です。

1984年、大阪市生まれ。2007年、同志社大学法学部卒業。09年、京都大学法科大学院修了。10年、弁護士登録。17年、南カリフォルニア大学ロースクール卒業。同年～18年、Sheppard, Mullin, Richter & Hampton LLP 勤務。18～20年、パシフィックリーグマーケティング株式会社出向。21年～、経済産業省・スポーツ庁「スポーツコンテンツ・データビジネスの拡大に向けた権利の在り方研究会」委員。22年、スポーツエコシステム推進協議会事務

局長。23年、スポーツ庁・経済産業省「第2期スポーツ未来開拓会議」委員、一般財団法人スポーツエコシステム推進協議会代表理事。24年、MLB選手会公認代理人資格取得、スポーツ基本法改正検討委員会委員。編著に『DX時代のスポーツビジネス・ロー入門』（中央経済社）。



Interview

インタビューの2人

私の
志

陶芸家

しよ う こ
SHOWKŌ さん



「読む器」というブランドを展開中です。私の書いた物語を絵柄にした器のシリーズです。言葉には豊かな余白がありますね。器も物を乗せて初めて完成すると考えれば、それも余白。余白をどう扱うかというところで、言葉と工芸は繋がっているんです。



京都市生まれ。2001年、同志社女子大学 短期大学部日本語日本文学科卒業。京都府立陶工高等技術専門学校、京都市産業技術研究所で技術を学び、佐賀県で修行した後、創作活動に入る。国内で出展をするとともに、ミラノサローネには2011年より3年連続で出展するなど海外にも展開する。その後、「読む器」をコンセプトにした陶磁器ブランド「SIONE（シオネ）」を主宰し、2016年に銀閣寺界隈に直営店をオープン。2025年

には直営店の中に、「感性のひろく宿」として「うたひ」を開業した。

メディア出演・掲載多数。著書には『感性のある人が習慣にしていること』15版 55,000部（クロスメディア・パブリッシング）など多数。

Interview

私の志

日本のスポーツ界に法の支配を

スポーツ界の変革と拡大を目指して新たな時代を法で紡ぐ

……………稲垣

弘則さん

4

伝統工芸の継承と新たな価値の創造

日本の心を器と哲学に込めて工芸の未来に挑戦し続ける

……………SHOWKOさん

8

特集

教育のDX

教育のデジタル変革と可能性

同志社教育の未来を探る

……………奥野

浩之／佐藤

光友／風間

寛／松野

翔太

12

目次

〈表紙〉 山城の風、心を育む緑の丘、女子大京田辺キャンパス
鎌田伸一

(同志社中学校・高等学校事務長)

辻 英俊

(株式会社上原フォートスタジオ)

〈表紙裏〉

新島 襄の言葉

山下 智子

(女子大学現代社会学部 教授)

〈口絵〉

■法人

同志社創立150周年記念 同志社大学能楽部創部100周年記念 新作能「庭上梅」 -未来に繋ぐ新島襄の志-

■大学

逝去者追悼礼拝

■女子大学

創立150周年記念事業 同志社女子大学
図書館(今出川キャンパス)改修へ

■中学校・高等学校

同志社中高同窓会主催
「ミライへ繋ごう La,La,La Doshisha」

■香里中学校・高等学校

中学・高校 体育祭

■女子中学校・高等学校

「芸術鑑賞」

■国際中学校・高等学校

2025年5月 Nueva School 交換プログラム
受入／2025年3月 Nueva School 交換プログラム 訪問／5月 WWL (World Wide Learning) クラスの授業風景

■国際学院

初等部：『京都府私立小学校連合会合同音楽会』
国際部：『The DISK Model United Nations』

■小学校

「花の日礼拝」

■幼稚園

「花の日礼拝」

「私の志」インタビューの2人

私の研究・私の授業

- 聖書学くキリスト教と聖書について歴史的な考察を行い、批判的な精神を養う…… 大学神学部教授 村山 盛章
留学生の読書技術を高めるカリキュラム・デザイン：大学グローバル・コミュニケーション学部教授 脇田 里子
実験動物を用いた薬物の体内動態解析…… 女子大学薬学部教授 喜里山 暁子
数学って面白い！…… 国際中学校・高等学校数学科教諭 山崎 美幸
ものづくりを足場にした学びのOS
く地に足がついた経験で、未来のインフラを自分事に…… 中学校・高等学校技術科教諭 沼田 和也
個別最適な学びを目指す同志社国際学院初等部の探究型学習…… 国際学院教諭 荒谷 達彦

特別寄稿

- 同志社創立150周年記念シンポジウム
同志社・慶應・早稲田が考える教育の未来
く私学の役割と人材育成
法人事務部 創立150周年記念事業事務局

コラム・エッセイ

- 「プラスチック汚染」ということば…… 大学経済学部准教授 原田 禎夫
「こいつ…今、「芸術」と言ったか？」…… 女子大学表象文化学部日本語日本文学科助教 陰山 涼
「正しさ」について…… 小学校宗教科教諭 中川 好幸

建物案内

- (新) 臨光館 (同志社大学) ……
清心館 (同志社香里中学校・高等学校) ……

同志社の逸品

- 山岡家文書より古写真「先生ト愛犬」…… 大学同志社史資料センター

新刊紹介

公教育における運営と統制の実証分析／田中 宏樹著
 比較のなかの韓国政治／浅羽 祐樹著
 Why the Bank of Japan Has Failed to Conquer Deflation in Japan／服部 茂幸著
 図書館を学問する なぜ図書館の本棚にはうごかないのか／佐藤 翔著
 英国女性ガーター物語／臼井 雅美著
 刑務所に回復共同体をつくる／毛利 真弓著
 糖と脂で体は壊れる／米井 嘉一著
 コンピュータとネットワーク／土屋 誠司著
 精神保健福祉法入門／大谷 實著
 法学教育の四半世紀 ―ある「鎮魂歌」／川嶋 四郎著

幸田露伴の「知」の世界／西川 貴子著
 知的障害者の施設解体の試み ―障害者自立支援法制定期における自立規範の変容と再編／鈴木 良著
 和漢混清文の成立と展開／藤井 俊博著
 奈良・平安彫刻の文化的研究／井上 一穂著
 企業会計の本質を巡って ―プロトタイプとデジタル社会／田口 聡志著
 18歳からの年金リテラシー入門／佐々木 一郎著
 財務会計の思考法／田口 聡志著
 石川能登 里山里海の観光復興／山上 徹著

レクチャー

同志社カレッジ・ソング 解説

女子大学名誉教授 児玉 実英

62

同志社クロース・アップ

同志社創立150周年記念講演会（函館／札幌）…………… 法人事務部 創立150周年記念事業事務局
 リッチモンド・ラグビー・クラブ ラグビー国際交流試合…………… 大学スポーツ支援課
 多世代で生きがいを創造！「ワンダフル・エイジング」の取組：女子大学 現代社会学部社会学科教授 日下菜穂子
 語源俳句時報 Eymology and Haiku Project…………… 中学校・高等学校英語科教諭 Gabriel Frost Johnson
 「中一修養会」新プログラム…………… 女子中学校・高等学校宗教部副主任・国語科教諭 小谷 祐介
 「ビルド・スカラーズ・カップ2025」にチャレンジする生徒たち…………… 国際中学校・高等学校英語科教諭 サイモン・ゴダードウィドゥン
 探究する子どもを育てる：英語イマージョン教育の現場から…………… 国際学院初等部教諭 Robert Kent STUMBLE
 国際交流を通じて―同志社小学校の取り組み…………… 小学校副校長 石川 博三
 毎日が探求活動く見る、触る、作る、試す、考える、一日中探求する子どもたち…………… 幼稚園園長 矢田貴美代

同志社の一貫教育 hitonico-U

同志社一貫教育探求センターダイバーシティ推進に関する検討部会会長 阪田真己子

100

●本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。
 大学＝同志社大学、女子大学＝同志社女子大学、中学校・高等学校＝同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学校＝同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校＝同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校＝同志社国際中学校・高等学校、小学校＝同志社小学校、国際学院初等部・国際学院国際部＝同志社国際学院初等部・同志社国際学院国際部、幼稚園＝同志社幼稚園

●執筆等々の役職・職位は2025年10月1日現在、大学広報課が把握している範囲で表示しています。

53

私の志

日本のスポーツ界に法の支配を スポーツ界の変革と拡大を目指して 新たな時代を法で紡ぐ

いながき ひろのり
稲垣 弘則さん (弁護士)



日本のスポーツ界のさらなる健全化を図り、世界標準の産業へと発展させるために尽力する同志社人がいます。企業・メディアを巻き込み、国に働きかけ、メジャーリーグ公認代理人資格まで取得した背景と、その精力的な活動を伺いました。

スポーツエコシステム推進協議会と 日本のスポーツ界の課題

——同志社大学法学部への入学動機をお聞かせください。
稲垣 高校時代から弁護士志望でした。父が仕事を通じて弁護士と接する機会が多かった関係で、私も弁護士という仕事の面白さを知り、身近な人の役に立ちたいという思いから「町の弁護士」に興味を持ちました。一方で同志社中高ではずっとサッカーをしていて、日本代表サッカー選手の海外移籍を弁護士がサポートしたと聞き、スポーツ選手を支える弁護士になりたいという思いも生まれました。最終的には、スポーツの分野を専門とする弁護士を目指し、東京の大手法律事務所に入所することに決めました。



「スポーツ競技の不正操作に関する条約（マコリン条約）」の日本批准を目指し、欧州評議会の会議に参加（中央が稲垣さん）

——現在代表を務めておられるスポーツエコシステム推進協議会について教えてください。

稲垣 スポーツのDX推進を図る大手企業が集まって2022年に設立された団体です。目的は日本のスポーツビジネスの振興と、スポーツを起点とした持続可能な経済圏の確立で、23年には一般財団法人化されました。海外ではテクノロジーを活用したスポーツビジネスが急拡大しており、日本でもDXの推進とそれに伴う課題の検討が不可欠です。協議会の調査により、諸外国においてスポーツ Betting の市場が急速に拡大する中、日本のスポーツが世界から賭け対象となり、また、日本居住者が違法サイトを利用することで約6・5兆円規模の違法市場が形成されていることが明らかになりました。世界でも同様に違法市場が拡大し、その背後では選手を不正に操作しようとする動きが存在します。これに対抗するため、各国はマコリン条約の下で連携を進めており、現在43カ国が署名していますが、日

本はまだ署名していません。私も日本がこの条約に署名し、違法スポーツ賭博対策について世界と連携できるよう政府やスポーツ団体に働きかけています。

——違法スポーツ賭博と聞くと、大谷翔平選手の通訳の事件が記憶に新しいです。

稲垣 あのような事件を起こす人を生み出さないため、違法スポーツ賭博に巻き込まれる選手を守るために、私たちは対策を進めています。諸外国では、①違法性の明示・周知、②サイト等のブロック、③規制市場の創出・拡大という三段階のステップで違法スポーツ賭博対策を行っていることが明らかになっています。先ほど申し上げたとおり、日本では約6・5兆円規模の違法市場が存在することが判明しました。これほどの規模感が浮き彫りになったのは初めてのことです。今後は、官民が一体となり、海外の事例やノウハウを積極的に収集しつつ、選手・スポーツ団体・関係省庁・企業といったステークホルダーの間で情報を共有し、正面から対策を検討していくことが急務であると考えています。

——スポーツビジネスにおける日本特有の課題として、他にはどのようなものがありますか。

稲垣 先ほど申し上げたとおり、日本のスポーツは、日本居住者だけでなく世界中の人からも賭けの対象になっています。プロ野球、Jリーグ、大相撲、高校野球などに、約5兆円もの賭け金が動いています。試合結果や試合経過と



いった「賭けの素材」となるデータが、スタジアムやアリーナで無断取得されるケースもありますが、スポーツ選手の権利性が明確でないため、こうしたフリーライドに対抗する法的手段は十分ではありません。この「守り」の観点に加え、「攻め」の観点からも権利の明確化は不可欠です。スポーツは本来、放映権、肖像権・パブリシティ権、データに関する権利など、多様な権利を扱う「権利ビジネス」ですが、日本ではそれらが法律で明文化されておらず、企業や団体は十分に活用できていません。権利を活用してマネタイズする発想が希薄だったことが、スポーツ産業の拡大を鈍化させてきた要因といえます。今年、スポーツ基本法が改正され、スポーツ産業の拡大という視点が盛り込まれました。今後は、スポーツに関する権利の明確化を目的とした立法等が進むことが期待されます。加えて、日本のスポーツ界には企業法務に強い弁護士が少ないことも課題です。権利ビジネスを推進するにはリーガルの専門人材が不可欠ですが、ビジネスマインドを持つ優秀な人材を十分な報酬で雇うための資金も不足しています。資金の循環を生み出し、良い人材を確保・活用する好循環を構築できなければ、スポーツ産業の持続的な拡大は難しいと考えています。

選手を支える「志」と未来への展望

24年には、メジャーリーグ（以下、MLB）選手会公認代理人資格を取得されました。動機をお聞かせください。

稲垣 弁護士6年目にアメリカ留学の機会を得たことを機に、事務所にスポーツプラクティス（スポーツビジネス法務）という新しい分野を確立したいと考えました。当時注目したのが、海外に移籍する日本人選手を対象とした代理人ビジネスです。MLBでは代理人が非常に大きな存在で、球団との契約交渉だけでなく、選手の生活全般にまで関与してサポートしています。一方で、日本人選手が海外に移籍する際には詐欺的なトラブルに巻き込まれ、大金を失ってしまうケースも少なくありません。こうした現状を改善するためには、弁護士が防波堤となり、海外のエージェント会社と連携しながら選手を守る仕組みが必要だと考え、MLB選手会公認代理人資格を取得しようと決意しました。その後は、アメリカのエージェント会社との関係構築に奔走し、日本でも選手とのつながりを模索しました。ご縁があり、ある選手からメジャー移籍の希望を聞き、MLB移籍に当たってのサポートを行いました。こうした経験を通じて、弁護士が代理人として果たせる役割の大きさを実感し、スポーツプラクティスを本格的に事務所の中に根付かせていく強い動機となりました。

MLBの代理人資格はどつすれば取得できるのですか。

稲垣 米国の弁護士資格を持っていても取得することはで



南カリフォルニア大学ロースクールでの留学時代

きません。MLB選手会が実施する試験に合格し、さらに3年以内にMLBの登録選手とエージェント契約を結ぶ必要があります。私は留学を機に資格取得を目指し、実際に取得できるまでおよそ8年を要しました。

——原動力は何ですか。

稲垣 私の役割は、日本のスポーツ選手をサポートし、理不尽な状況から守ることです。スポーツ界は人気の高さに比べて選手の給与が低かったり、不正操作を防ぐための法整備が遅れていたりと、さまざまな理不尽を抱えています。こうした現状を変えたい、社会に貢献したいという強い思いこそが、私の原動力です。

——現在の目標をお聞かせください。

稲垣 日本のスポーツ界が違法スポーツ賭博対策に関する国際協調の枠組みにしっかり入っていくことが、当面の大きな課題だと考えています。そして中長期的には、スポーツに関する法制度が整い、権利が明確化されることが必要です。スポーツ界こそ「法の支配」が

求められる分野ですし、スポーツ法務に携わる法律家を増やしたいという思いも強く持っています。さらに、日本の優秀な人材を海外に送り出して経験を重ね、その知見を日本に還元することで、スポーツ産業のさらなる発展につなげたい。そういう循環を作ることが、私の目標です。



——どんなときに大きな喜び、やりがいを感じますか。

稲垣 やはり、人から感謝されたときですね。スポーツエコシステム推進協議会の活動は、関わるステークホルダーが非常に多く、また違法スポーツ賭博対策はセンシティブなテーマですので、1社1社、一人一人の方向性を丁寧に揃えていく必要があります。そのような中で、私の草の根の取り組みに理解を示していただき、感謝の言葉をいただいた瞬間に、とても大きなやりがいを感じました。

——読者の皆さんにメッセージをお願いします。

稲垣 「諦めなければ失敗はしない」とお伝えしたいです。私自身、多くの困難に直面してきましたが、決して諦めなかったことが、今の自分を支える土台となっています。

(2025年6月30日、東京にて)

私の志

伝統工芸の継承と新たな価値の創造 日本の心を器と哲学に込めて 工芸の未来に挑戦し続ける

330年続く窯元に生まれ、新たな形で日本文化の継承と革新に情熱を注ぐ卒業生がいます。器に物語を紡ぐ「読む器」や工芸家の哲学を伝えるリトリート宿の構想など、多岐にわたる活動と、それを支える志を伺いました。

日本文化の継承と革新が志の原点

——ご実家は歴史ある窯元ですね。

SHOWKO 茶道と非常に縁の深い、約330年続く真葛焼の窯元です。茶道も焼き物も日本が誇るべき文化。20代の頃はこれらの文化がどう守られ、また革新していけるのかに興味があり、現在の活動の原点になっています。真葛焼は兄が継ぐと決まっていた、私は逆に親から「焼き物をするな」と育てられました。でも大学時代に、とある方から「実家が窯元なのに、なぜ焼き物をやらないのか」と言われ、考えが変化しました。手に職をつけたいという思いもあり、大学卒業後は父に頼み込んで焼き物の学校に進みました。

SHOWKOさん
（陶芸家）





——他に背中を押したものはありましたか。

SHOWKO 先祖に初代 宮川香山という、明治時代に活躍した陶工がいます。彼は優れた技術を認められ、横浜に招へいされて窯を築き、日本の国力を示すために輸出向けの陶磁器を作り、フィラデルフィア万博をはじめ、数々の万博に素晴らしい作品を出品しました。海外で高く評価されたために日本には作品がほとんど残っていないのですが、2000年頃に再評価され、国内で大きな展覧会が開かれたんです。そこに行き、強くインスパイアされました。こんな素晴らしいものが作れたのに技術が途絶えてしまうと作れない現実を目の当たりにしました。焼き物の学校に入ったばかりの頃で、どのように技術や時代を継いでいくのかを真剣に考えるきっかけになりました。

——その後、ご自身の制作活動だけでなく、日本の工芸品の価値の向上にも努めておられます。

SHOWKO プロダクトの背後には必ず職人がいて、その職人の

仕事に光が当たってほしいという気持ちがあります。伝統工芸の世界は長らく斜陽

産業と言われ、継承者も減っている。しかし、これほど多様な職人さんや文化が残っている国は、なかなかありません。近代化の時代も手仕事の価値は認められ、こうして残ってきました。それを支えてきた職人の営みを皆さんに知ってほしいのです。

——波佐見焼や有田焼の職人さんの仕事に京都の技術を合わせて、新しいメイドインジャパンを創出する活動もしておられますね。

SHOWKO 昔、焼き物は産地で区切られていましたが、今は新しいものが多様な土地で作られています。それぞれの良さを組み合わせることで、また新しいものが作れるはず。佐賀県で修行していた頃、50年かかっても追いつけないような職人さんがたくさんいて、自分一人で作るよりも彼らと一緒に作った方が、絶対に良いものができると感じました。私自身はディレクションのほうが得意だったので、その立場で世の中に貢献できたらと思い、新しい陶磁器ブランドをつくる活動を始めました。

言葉と焼き物が繋がる「読む器」を入口に
工芸家の哲学を伝えていきたい

——現在は「読む器」というブランドを展開中です。

SHOWKO 私が物語を執筆し、その一節一節が絵柄に

なっていて、読み進めてもらえるような器のシリーズです。茶道でお道具やお菓子の銘を知り、すべての取り合わせの中でもホストの気持ち想像するように、コーヒーマップにも物語がついていたら、もっと豊かな時間が過ごせるんじゃないかと思って始めました。まず入口は「かわいい」「素敵」という気持ちで買っていたけど、その後「これって伝統工芸なんだ」「どんな技術で作るんだろう」と興味を持ってもらえればいいなと思います。

——そのような発想はどこから生まれるのですか。

SHOWKO 多感だった中学時代、日記や詩を書くことで、言葉にならない感情を自分の中で消化していました。焼き物より、言葉による表現の方が先だったんですね。それで文学に興味を持ち、大学は日本語日本文学科で学びました。そして大人になってから焼き物と文学が繋がったんです。今では言葉を書く仕事もいたっていて、4冊目の本を執筆中です。すべてが繋がっていると実感しています。

——陶芸を通して広く伝えたいことは何ですか。

SHOWKO 今一番興味があるのは「クラフト×マインドフルネス」というテーマです。職人が物を作る際に何を考えているのか、工芸家が日々をどう過ごし、世界をどんな目線で見ているのか。ワークショップに来られる方も、



2025年に開業したばかりの宿「うたひ」

成果物だけを求めているわけではなく、制作中の没入感や、精神的に平和な空間を求めています。これは工芸家の新しい価値だと思えます。物を長く大切に使う豊かさに価値が見出される時代なので、工芸家の哲学を伝えることが、工芸の存続にとって重要だと考えています。一つには仏教です。私は去年得度して僧侶でもあります。仏教とは生き方だと考えています。工芸家の哲学には、すべての自然物に神が宿るというアニミズム的な神道の考え方も入っています。土を使う焼き物や、木を削って仏を生み出す木工など、信仰なくしては作れないものばかりです。

シヨールームの奥でリトリートの宿をスタート
「自分を開く場所」になれば

——今一番力を入れておられることは何ですか。

SHOWKO 今年の6月から宿事業を始めます。以前書いた『感性のある人が習慣にしていること』という本が口

ングセラーになり、多くの方が「答えのない時代だから、どうしたらいいか分からない」と感じていることに気づきました。そこで工芸家の生き方や考え方が、誰かの役に立つかもしれないと思っただけです。ワークシヨップでは参加者が自己開示をするような体験をされることが多かったので、そうした時間を長く提供できればと思っただけです。元は旅館だったこのシヨールームの奥と下の部屋を改装した客室と、ハーブガーデンもあります。一日一組限定の宿です。

——大きな喜びを感じられるのはどんなときですか。

SHOWKO ここにいらっしやった方が、感度がすごく高くなって扉を出ていかれるときですね。悩んでおられる方、コスパ・タイパという考え方に疲れている方などが、何かしら得て帰られることに喜びを感じます。

——夢があればお聞かせください。

SHOWKO 日本の工芸の哲学が世界中に広がり、争いや、自分の欲のために動く人たちが少しでも減ればいいなと思っています。

——大学時代の印象深い思い出はありますか。

SHOWKO 大親友の女の子がいました。卒業して私は



20年以上書き続けている「明けぐれノート」

私はその日から「明けぐれノート」と名付けたノートを毎日持ち歩き、今では何十冊にもなっています。言葉を綴ったり、打ち合わせ内容をメモしたり、器のドローイングをしたりと、ずっと使い続けています。

——読者の皆さんへメッセージをお願いします。

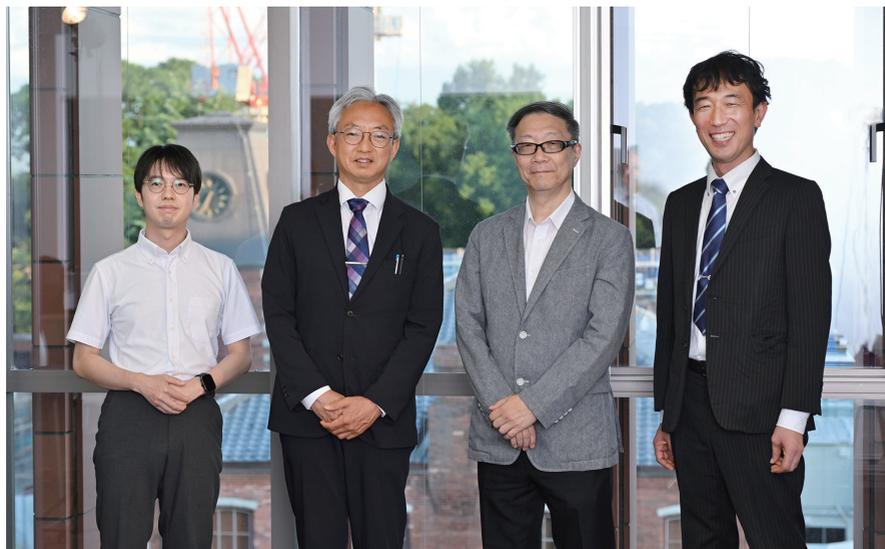
SHOWKO 若い方には、経験のすべてが肥やしになっていくから、好奇心旺盛でいてほしいです。興味を抱いた事は「いつかやる」ではなく、すぐにやってほしいです。そうすれば、すぐにやった自分が未来を生きていけるからです。

(2025年6月26日、京都市にて)

教育のデジタル変革と可能性

～同志社教育の未来を探る

コロナ禍を機に日本の教育機関では、オンライン授業やICTの導入が加速しました。ただ教育現場では、さまざまな課題も生まれています。今回は異なる教育課程の教員が集い、ICTを活用した教育を「教育DX」として取り組み事例や意見を交換しながら、今後の教育におけるデジタルツールの役割と、人が育つ場としての教育の本質に迫りました。



同志社国際中学校・高等学校 情報科 教諭
まつのしょうた
松野 翔太

同志社国際学院 初等部 教頭
かざまひろし
風間 寛

同志社女子大学 教職課程センター 特任教授
さとうみつとも
佐藤 光友

同志社大学 免許資格課程センター 准教授
おくのひろゆき
奥野 浩之

各校における教育DXの取り組み

奥野 ●教育におけるデジタルトランスフォーメーション、すなわち教育DXとは、一般的にデータやデジタル技術を活用した教育を行うことで、学習のあり方や教育手法、教職員の業務など、学校教育のあらゆる面において変革を行うこととされています。しかし、今回の座談会では変革にこだわらず、異なる教育課程の教員がそれぞれの取り組みや考えについて意見交換を行うことにより、互いの実践から学び、今後の教育・研究の発展につなげることを目指します。まず自己紹介からお願いします。私は同志社大学免許資格課程センターで教職科目を担当しています。

佐藤 ●同志社女子大学の教職課程センターで、同じく教職科目を担当しています。

風間 ●同志社国際学院初等部で教頭を務めています。4年前までは学級担任をしていました。

松野 ●同志社国際中学校・高等学校で、情報科の教員をしています。

奥野 ●先生方のご担当授業での、ICTの活用状況について

お問い合わせします。まず同志社大学ではICT活用があまり進んでおらず、例えば電子黒板も導入されたばかりで、活用しきれていないのが実情です。学生が教育実習に行くにあたり、模擬授業での活用を目的に導入したのですが、実習先の母校でのICT活用が進んでいないため、学生もあまり活用できていません。自身の授業ではPowerPointの利用が主です。また、同志社大学では第1回目と第15回目をオンデマンド授業として活用しているため、このオンデマンド授業を反転学習の形で活用しています。学生には事前に動画を視聴してもらい、対面授業でその内容について討論するという形式です。



奥野 浩之

同志社大学 免許資格課程センター

コロナ禍以降、オンライン学習が非常に一般的になったこともあり、現在も感染症などで休む学生にはZoomで授業に参加してもらうなどしています。コロナ

禍を機に、ICTを授業にうまく取り入れようと努めている段階です。

佐藤 ●同志社女子大学では2025年度秋学期から、学内の教務関係システムをUNIVERSAL PASSPORTという新システムに統合する予定です。多くの大学で利用されている大手のシステムで、従来いろいろなシステムが混在していた状況を整理し、運用をスムーズにすることが導入の目的です。これによって学生は情報に一元的にアクセスできるようになり、学習や大学生活がよりスムーズになることを期待しています。教員にとっても、毎年の授業資料、アンケート、学生とのやり取りなどがシステム内に集積されることで、授業の振り返りや改善がスムーズに行えるようになると思います。まだ移行段階ですが、今後の効果に期待しています。

風間 ●同志社国際学院初等部は国際バカロレア（IB）認定校で、教科横断型の探究学習が教育課程のメインです。同時に学校教育法で規定されている一条校でもあり、かつバイリンガル校という特色があります。IBの教育内容を取り入れるにあたり、IB自体がデジタルを推奨していることもあって、1年生からあらゆる場面でデジタルツール

を使うことが多いです。具体的にはiPadを積極的に活用しています。自ら問いを立てて探究していく学習なので、調べものツールとしてiPadを使い、調べた内容を児童同士やクラス内で共有したり、課題提出や討論のツールとして使ったりします。最終的なプレゼンテーションでは、iPadの画面機能を使い、日本人の教員には日本語の、ネイティブの先生には英訳した資料を提出させています。児童はiPadを毎日持ち帰って充電していますので、家庭学習や、例えばリコーダー練習の動画を撮って提出するなどさまざまに活用しています。

松野 ●私は情報科教員として情報教室（コンピュータ室）をベースにしています。授業ではExcelやPowerPointを使い、Wordによるレポート提出を日常的に行うなど、Microsoft系を多用しています。ただ国際中・高は、Microsoft 365とGoogle Workspaceの両方が使える環境にあります。コロナ禍で休校になった際、学校全体でGoogle Classroomのシェアが一気に高まった関係で、情報科と少数の科目以外ではGoogle Classroomを活用しているのが現状です。ハード面では、コロナ禍で導入された電子黒板機能付きプロジェクトアクトがあります。活用度は教員によりです。また生徒



佐藤 光友

同志社女子大学 教職課程センター

には、全員にMicrosoftとGoogleのアカウントを配布し、情報科では両方使えるように指導しています。初回授業ではTeamsとClassroomのチュートリアルも行っています。

Googleフォームの利用はアンケートの回収手段として非常に増えました。また、コロナ禍では感染による欠席者へのケアとして授業の録画映像をGoogle Classroomに掲載していました。現在も欠席者へのフォローや復習用途に授業録画を継続している教員もいます。さらに本校は文部科学省のDXハイスクールに指定されており、情報科が中心となって取り組んでいます。私の工学的な背景も活かし、3Dプリンタやレーザーカッターなどを授業内で使っていきたいと考えています。昨年始

まった指定なので、まだ選択科目を中心に実験的に行っている段階です。生成AIの活用についても、もっと積極的に取り組む必要を感じています。

教育DXのメリットとデメリット そして現場の課題とは

奥野 ●先生方の取り組み事例をもとに、教育DX導入におけるメリットとデメリットについて討論させていただきます。私自身は教育学、特に社会科教育を担当し、各自自治体の各学校に指導助言もさせていただく中で、近年現場では、電子黒板からモニターへ、ロイロノート・スクールから他社システムへと移行する印象が強いと感じています。iPadやホワイトボードの利便性が再評価されていること、そしてGoogleやMicrosoftのサービスがロイロノートの機能を代替できるようになってきたことが背景にあるでしょう。最近特に顕著なのが生成AIの導入です。実際、教育に特化した生成AIができています。進学校では例えば志望理由書などの作成に生成AIで概要を作成し、生徒に推敲させていく例や、教員が生徒たちの推薦書作成に活用する例も出てきています。当初は批判的な声が多かったですが、積極的に利用していく方向にシフトしつつある印象です。ある大きな私立学校でも生成AIを学校全体で契約し、

次年度から取り入れる事例を聞いています。大学でもレポート作成にまず生成AIを用い、推敲していく学生がいるでしょう。教育的な良し悪しは今後の議論が必要です。あとは学校現場でデジタル教科書の導入も予想される中、例えばスウェーデンが脱デジタル化を図り、むしろアナログへ方向転換する政策を取りつつある例があります。そのような中で、日本の教育におけるICT活用をどうするかは、これからの課題です。一方でオンデマンド教材は、教員からの一方的な知識伝達型授業を動画教材に置き換え、対面授業でそれを基に議論を行う反転学習の有効性を示しました。これはカリキュラムの時間数不足の解消につながり、アクティブラーニング推進という国の政策にも合致します。不登校の生徒のために授業のライブ中継を行う学校もあり、良い試みかと思いますが、著作権の問題など配慮すべき課題も生まれています。ICT活用はメリットも大きいですが、弊害も考慮して、バランスを見極める必要があります。

佐藤 ● デメリットとしては北欧の例に見られるように、デジタル化が子どもの学力低下や体調不良につながる可能性が指摘されています。PISA（国際学習到達度調査）の順位の変化から、その影響が議論されていますが、検証は

難しいものがあるかもしれません。ただ読解力などでも非常に評価されていたフィンランドの事例では、紙媒体からデジタルへの移行後に読解力の順位が下がったという指摘もあります。スウェーデンでは紙媒体に戻しつつあると聞きます。視覚や聴覚など身体的、精神的な影響がないか、紙からデジタルへ移行しつつある日本でも今後の検証が必要です。そうは言いながら、現代の学生にとってデジタル機器は必要不可欠です。私の授業ではスマートフォンやタブレットを使った振り返りや感想提出を日常的に行っており、もはやDXのデメリットばかりを強調するようなことはできないと思います。学生が受け身の学習から積極的に



風間 寛

同志社国際学院 初等部 教頭

学ぶ姿勢へと転換する上でも、デジタル化は不可欠という印象です。

風間 ● 小学校でiPadを活用するメリットは、算数や英語などの時間にゲーム感覚で集中して習

熱できるように、ラズキッズ Pan Kids というオンライン型図書シ

テムで子どもレベルに応じて多読を促したり、発表原稿や資料の検索・作成をしたりと、学習の幅を広げられる点です。一方で漢字の習得などは筆順を含め、紙に手で書いて覚えることで記憶に定着します。これは私見ですが、英語はアルファベットが26文字のみで構成されているため、映像やフォニックスで覚えられます。漢字は文字数が多いだけでなく、正しい筆順で書く必要があるため、英単語学習の習慣で漢字を覚えられるとミスがたかさん出ます。筆圧をかけて手先を使うことも、小学生の発達には非常に大事です。脳に刻むという意味では、デジタルはデメリットだと思います。なので本校では、連絡帳も写真を撮って済ませるのではなく、手で書き写させます。デジタルとアナログのバランスが重要だと感じます。

松野 ●デジタル化のメリットもあれば、デメリットももちろんあります。ただ科学的に検証されていないことは非常に多いので、評価は難しい。ICTが社会に広く普及している現状を考えると、学校教育でICTを利用しないのは、目の前にあるものに目をつぶるような違和感を感じます。ICTが社会経済を強く支えている現実を踏まえ、生徒がICT

を使うこなし、その仕組みや背景を学ぶことは、少なくとも自然な流れだと考えています。生成AIのようなツールについては、例えば営利企業で効果的に使って経済的利益につなげられたのなら、その企業は競争に勝ちやすくなり、非常に大きな価値があるでしょう。一方で教育においては、それとは違う観点が必要と考えます。つまり、生成AIに出力させて立派なレポートができたとしても、もし仮に次の技術革新が起こり、現在のような生成AI活用スキルが通用しない段階が訪れたとき、生徒・学生の中にどれだけのものが残っているのか。慶應義塾大学のかつての塾長が「すぐに役に立つものは、すぐに役に立たなくもなる」という趣旨の言葉を残しています。東京都が全都立学校に「都立AI」を導入するなど、生成AIの活用は避けられない流れですが、学校教育では結果に至るまでの過程で得られるものをどう担保していくかが大きな課題です。

授業で大切にしていること
～バランスとコミュニケーション～

奥野 ●これだけ社会がデジタル化していく中で、ICTを

切り離すのはむしろ不自然なことではと思います。ゲーム要素への言及もありました。私はゲーム性を取り入れた、グループディスカッションを促進するアプリを開発中です。グループディスカッションでは、声の大きい生徒など一部の者しか参加していない状況が生まれがちです。そこで討論において発言しにくい生徒や発言力の弱い生徒も、匿名で参加することで積極的に意見を出すことができ、より次元の高い議論を進めていけることを目的としたアプリです。このような形でICTを活用し、生徒の学びを深めたいと考えています。またICT環境が進む中で、パソコンやタブレットなどを開いていて当然というのが今の教育現場かと思えます。今の子どもたちは、セキュリティを突破して好きなコンテンツを見る方法も知っていますので、授業とは無関係のアプリの使用を阻止し、いかに授業に集中してもらうかも課題です。そこで今あるICT環境をどのように使えばメリットになるのかを踏まえながら、先生方が授業の中で大切にされているものをお聞きできればと思います。

佐藤 ●教職員の働き方改革とも関連しているかと思えます。例えばアンケート集計をAIで瞬時に処理するなど、デジタル活用は教職員の負担軽減につながります。しかしその

目的はあくまで、学生に対してより良い教育を行うことです。デジタル化によって課題が増えるなどして、学生が忙しくなるのは本末転倒です。理想かもしれませんが、学生が時間的に余裕を持って深く物事を考え、創造性を発揮できるような教育を試みていきたいと思えますし、そのためデジタル活用であるべきと考えています。

風間 ●小学生は、ICT活用には保護者のサポートも不可欠です。iPadの利用に関しても、低学年のうちには保護者と連携して使い方を指導しています。学年が上がるにつれて自我が目覚めてくるので、子どもたちは自分でYouTubeを見るなど、デジタル機器を使いこなすようになります。同時に、好きな動画ばかりを観て宿題は後回しになるなどの問題も出てきます。そのため学校ではアプリのダウンロード制限をかけるなど、利用制限を設けています。一方で、アナログな学習の重要性も忘れてはなりません。漢字の習得など、紙に書いて覚えることは非常に重要です。易きに流れると、字が覚えられないこともある。算数の概念なら日本語でまず理解させた上で、ゲーム的な要素で習得を図るなどしています。デジタルとアナログのバランスが大事かと思えます。

松野 ● バランスは非常に重要ですね。アナログとデジタルという言葉に集約されがちですが、やはりそれぞれに良さがあります。高校1年生の情報Iの授業では、「ノートは自分の学習に必要なだと思ったら作りなさい」と伝え、高校3年間をかけてアナログでもデジタルでも自分に合う方法を見つけてほしいと話しています。ICTに限らず、世間で良いとされている方法が、必ずしもすべての生徒に当てはまるわけではないからです。テストの成績も重要ですが、私は学習過程のレベルアップを重視しています。例えば今回試した学習方法がうまくいかなかったとしても、そこから「次はこうしてみよう」と考えることが学べればいい。そこにICTが効果的に絡んだらなおよいと思います。例えば単語を覚えるにしても、ICTを使うよりもノートに100回書く方が効果的な生徒もいるでしょう。ICT機器は便利なツールですが、あくまで生徒が成長するために役に立つものの一つだと考えています。

今後の展望と教育者・研究者としての向き合い方

奥野 ● 先生方のお話から、ICTを活用する教育は balan



松野 翔太

同志社国際中学校・高等学校 情報科 教諭

スが非常に重要だと感じました。大学での授業では、例えばディスレクシアの学生の場合、ICTを活用することでスムーズに学習に入っているのであれば非常にメリットだと思います。そのように多様な学生や生徒に合わせた使い方ができればいいですね。その中で一番大切にしているのは、やはり人と人とのつながりの楽しさを学生に実感してもらうことです。その中で思考がどう深まっていくのかを実感してほしい。コロナ禍ではオンラインやオンデマンドの授業が普及しましたが、学生はストレスを溜めていました。その中で対面授業があると、学生たちは非常に喜び、楽しそうに参加してくれました。オンラインで話していた

学生たちが、対面
声を掛け合い、楽し
そうにグループディ
スカッションに取り
組む様子を見ると、
やはり最後は顔を突
き合わせたコミュニ
ケーションによって
思考が深まり、成長

していくのだと感じました。そのため、私の授業ではICTを柔軟に活用しながら、対面でのコミュニケーションを大切にしています。次はこれまでお聞きした先生方の実践を通じて、学生、生徒や教育DXに期待されていることを伺います。

佐藤●繰り返しになりますが、DXの結果、教職員も学生も余裕を持つようになることを期待します。例えば窓口での手続きをデジタル化することで学生の負担が軽減され、その分、深く物事を考える余裕が生まれる。読書アプリで本の概要をつかみ、本当に読みたい本をじっくりと紙媒体で読む時間を確保できる。そのようにデジタル化が学習の質を高めるツールとなることを理想としていますし、そのバランスを考えていくことを期待しています。

風間●小学生に対して私たちはICTの使い方や、正しいこといけないことを指導し、ある程度のルールを敷いてあげる必要があります。しかし、高学年になり大人の手が離れたときには、子どもたち自身が「この場合は紙が良い」「この場合はデジタルが良い」と、自分に合った学習方法を判断できるようになってほしいです。また調べものが多いので、メディアリテラシー、すなわち得た情報が本当に

正しいのかを見極める力をつけてほしいですね。プレゼンテーション資料作成の際には、必ず参考文献や引用文献を付けさせ、情報の正確性を確認するよう指導しています。

松野●昔「デジタルネイティブ」という言葉がありました。コンピュータ教育はいざれ要らなくなるのではないかととも言われていました。しかし実際は、コンピュータやインターネットについて深く理解している子どもは、今も少ないのが現状です。SNSでの炎上事件も起こり続けていることを考えると、スマートフォンやSNSなどの利用が低年齢化している現在、むしろ昔よりさらにICTの基礎知識や「To Do」のアプリを操作できるだけではなく、その背景にあるコンピュータやインターネットなど、ICTに関するしくみや構造を捉えてほしいですね。また、ICTを学習するという観点から言うと、身近にそういうものがたくさんあるという恵まれた環境を存分に活かしてほしい。コンピュータやインターネットの世界というのは、高価な実験器具がなくてもできることが多いんですね。少なくともパソコンがあれば、プログラミングなどさまざまなことにチャレンジできます。授業で教えられることはわずかで

すが、子どもたちにはICTの活用をぜひ積極的に学んでほしい。次々に登場する新しいアプリを使えるようにするスキルは、すぐには学校の学習にはつながらないかもしれない。でも、新しいスキルを身につけること自体はポジティブな経験として捉えてほしいです。紙のノートとiPad、どちらが良いかなどもいろいろ試しながら、自分に合った学習方法を見つけてほしいと思います。

奥野 ●ICTをどのように使えば良いのかを、授業の中で実践しながら学んでいくことが重要であると思いました。また科目横断型の授業では各科目の授業のデータを蓄積し、先生方が共有することで、横断的に授業を進めていくことにもつながるのかなと思います。大学も同様に、複数の教員間で担当する科目では、そのようなデータの蓄積と共有によって円滑な進行に役立っているのかなと思います。最後に教育者、研究者として、これから教育のDXにどう向き合えばいいのかを伺えますか。

佐藤 ●それぞれの学生に合った教育が提供でき、しかも教育効果を生み出していけるのかを課題として、研究も含めて励んでいきたいと思います。

風間 ●例えば文字の認識が難しいなど、特性のある児童に

ついて、一人ひとりに応じた合理的配慮や教育方法への活用を期待します。そういうことも含めて無限の可能性を追究し、メリットとデメリットのバランスも考えながら教育をしていきたいと思います。

松野 ●情報科という教科には、新しいものが非常に多く入ってきます。おそらく教科書の次の版には生成AIという言葉も入ってくるでしょう。それを考えると、教える側も新しいものを積極的に学び、自分で使っていく必要を感じます。その経験が、さらに次のものを学ぶために生きればと思います。

奥野 ●私自身、学校現場に入って研究を進めていく中で、あくまでも教科・科目の本質を忘れず、その中でICTをツールとしてどう活用していくかを大切にしていきたいと考えています。すべての学習に通じることかもしれません。個別の知識の暗記が問題視されてきた中で、概念型の学習を進めるため、それぞれの児童・生徒・学生に合ったICTの使い方を我々がもう一度考え直し、見極め、各学間で研究協力しながら高め合っていくことが必要であると思います。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。



大学

聖書学くキリスト教と聖書について歴史的な 考察を行い、批判的な精神を養う

神学部教授

むらやま
村山

もりよし
盛葎

聖書学とは？

私の専門分野は聖書学・最初期キリスト教です。イエスの言行を記した福音書から歴史的なイエスを探究し、パウロが書き残した手紙から最初期のキリスト教の歴史を考察します。そのためには、キリスト教の聖典である聖書を歴史文書として批判的に読んでいくこととなります。しかし、それは他人の責任を追及する「非難」ではなく、真剣に、徹底して歴史を調べ、自分の責任のもと注意深く解釈を行うことです。聖書学では、聖書やキリスト教に対してこのような心持ちが大切にされますので、クリスチャンである私にとっては自己批判にもつながる挑戦的な学問と言えるでしょう。

聖書はキリスト教の聖典、クリスチャンにとって「信仰

の書」ですので、聖書学と信仰がぶつかり合うのではないかと危惧する方もいらっしゃると思います。正直私が初めて聖書学を学んだとき、クリスチャンホームで育った私は大きな衝撃を受けました。しかし、今となってはその衝撃が信仰を深め、それを堅固なものへと変化していくきっかけを与えてくれました。聖書テキストには種々の人々の思いがあり、それは人間が誰しも抱える実存的な課題や問題であります。また、聖書学を通してキリスト教やその歴史を学ぶと、キリスト教という宗教を手放しで賞賛することはあり得ません。キリスト教を始めどのような宗教にも当てはまる功罪を常に見極め、それに関わってきた人々の愚かさや素晴らしさを知ることになります。私の場合、聖書学を通して、このような人間を赦し生かしている神の存在をいっそう感じることができるようになりました。聖書学と

信仰はつねに緊張関係にあります。私の中では共存し協働しているのです。

キリスト信仰のはじまり

多くの人たちがイエス・キリストがキリスト教の創始者であると思っています。しかし、歴史的に調べると実はそうではありません。ひとことと言うと「イエスの復活」の出来事が重要なターニングポイントとなります。「復活」と聞くと、多くの人たちは非科学的で迷信的であると考える。そのことがキリスト教を近寄り難くさせているかもしれない。歴史批評学である聖書学は「復活」をどのように捉えているのでしょうか。

イエスは、紀元前四年頃にナザレで誕生し、三十歳ぐらいに三年ほど宣教活動を行いました。具体的には、社会の底辺にたらずんでいた人々、社会的弱者と言われる人々(例えば、差別されている人、障がいや病気を抱えている人など)と共に歩みました。そして、イエスはこのような社会からこぼれ落ちている人々こそが最初に神によって祝福されていると説きました。イエスに出会った人々は「こんな私でも生きていいんだ、自分には存在価値があるんだ!」と慰められ癒されました。しかし、悲しいことにイエスは当時のユダヤ社会の上層部から迫害を受け、最後には十字

架上で処刑されました。イエスの死は、弟子たちを始め、イエスに付き従ってきた人々にとって大きな悲しみであり衝撃でした。社会の下層に佇んでいた彼ら彼女らの群れは雲散霧消の運命にありました。ところが、しばらくしてその群れは十二弟子を中心にエルサレムに集結し、次々と新しい仲間を集団に加えて行きました。なぜこのような現象が生じたのでしょうか。ひとことと言うと、復活のイエスに出会うという「復活顕現体験」があったからです。聖書の記述によると、一定の期間、各地で多数の人々がそのような経験をしました。この復活顕現体験は「一種の幻視体験」と表現できますが、同時にそれは深い「宗教的神秘体験」であったと私は考えています。第三者には理解できなくても、その人にとっては、確実にイエスと出会った体験でした。そして、この復活顕現体験は、初期のキリスト信仰者にとって決定的な事実(出発点)となりました。人々は慰められ勇気づけられただけでなく、この出来事を宣べ伝えていったのです。それほどのインパクトがあったのです(無論、イエスの亡骸がゾンビのように蘇生したわけではありません)。この現象や要因については、宗教心理学的、社会学的な分析がなされています。復活顕現体験はフィクションであり、実際は弟子たちがイエスの亡骸を盗んだに過ぎないと当時から復活の出来事を否定する人々もいまし

をとって、Q資料と名付けています。この語録資料をマタイ福音書とルカ福音書はそれぞれ利用してイエス物語を描きました。さらに、マタイ福音書だけの資料（M資料）、ルカ福音書だけの資料（L資料）もありました。

今から約二千年前、パレスチナのガリラヤ地方で「今の社会のままではいけない」と一人の男が立ち上がり、社会からこぼれ落ちていく人々、底辺によどんでいる人々を癒し励ました。この男、すなわち、イエスの生きざまはのちの歴史を大きく変えていきました。聖書学は、イエスの言行、その伝承を担ったキリスト教会の歴史、四つのイエス物語（四福音書）を歴史的に批判的に考察する学問です。この考察力は、現代社会にも通用する批判力や洞察力を養い、私たち自身の人生のあり方も見出ししていくことにもつながると思います。

【イエス伝承の流れとキリスト信仰】

イエスの教え・奇跡（文書はなく口伝承）

史的イエス研究

30年頃 十字架死

「復活顕現体験」＝キリスト信仰の誕生（出発点）



キリスト信仰者の群れ（教会）

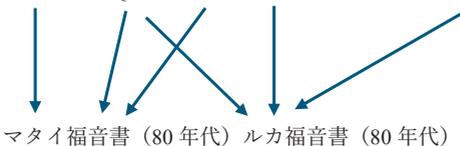
伝承は特定の場面や状況（生活の座）で形成・運用

さまざまな伝承が形成される



M資料 Q資料 マルコ福音書（70年頃） L資料

福音書研究





大学

留学生の読書技術を高める カリキュラム・デザイン

グローバル・コミュニケーション学部教授

わきた
りこ
脇田 里子

日本語・日本文化のプロフェッショナルを目指す

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部日本語コースでは、外国人留学生を対象として、日本語を中心とした高度なコミュニケーションスキルの習得はもちろん、日本の文化や社会について、ワークショップなど多様な科目群を用意し、グローバル化する日本社会に参画するための実践的運用能力を身に付けてもらうことを目的としています。

私は日本語教育の分野でライティングとリーディングの連携について博士論文を書きましたが、ライティング教育に携わる中で、レポートや論文のテーマを決められない、自分が何に関心があるのかわからないという留学生が多いことに気づきました。その原因の一つは、日本語のリーディングスキル（読解力）の不足、つまり資料などを読んでうまく情報収集ができなかったり、適切に引用できなかったりすることに理由があると考えられます。

では、本を読むとはどういうことでしょうか。ただ文字

を目で追うのではなく、テキストを正しく理解・解釈するのはもちろん、読者の知識や経験から価値を判断し、それを活用することが大切です。実は私たち自身、小学校や中学校で「読むスキル」を具体的に学んでいません。英語におけるリーディング教育では、① Skimming（要約）、② Scanning（キーワードの抽出）、③ Extensive Reading（多読）が重要視されます。私は、この三つのスキルの他に、協同学習の一つの枠組みであるLTD（Learning Through Discussion：話し合い学習法）の理論をベースにしたリーディング授業を実践しています。

読書で得た知識を情報発信・活用するスキルを学ぶ

私が担当する日本語科目では、1年次生の春学期に読書術やメディアリテラシー等について書かれたノンフィクションを、また秋学期には日本文化について書かれた著書をそれぞれ3冊ずつ読んでもらいます。読書に対する留学生の敷居を下げるために、難しい漢字や語彙などでも容易に

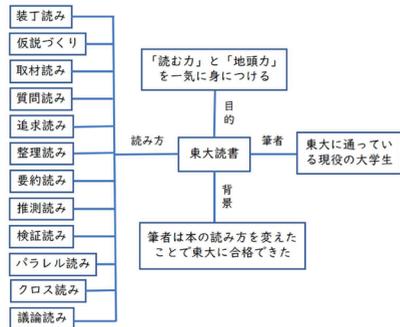


図1 学生が作成した『東大読書』の読書マップ

漢字の読み方や意味を表示できる電子書籍を活用しています。必ずしも全ページを読んでいるわけではありませんが、その本が200ページであれば、1週間に50ページを読むこととなります。

LTＤの学習は、学生が一人で行う予習（個人思考）とミーティング（集団思考）の両輪で成り立っています。特に予習は必要不可欠で、学生一人ひとりが自分で調べ、考えるプロセスを大切にしています。

本を読み始める前に、宿題として、装丁読み（本の表紙やカバーなどから内容を推測する）を行い、その本を読む目標を立てます。そして、本の内容が理解できているかを確認するために、教員が作成した内容理解問題を解きます。さらに、指定された読書範囲の中で、印象に残ったテキスト

トやキーワードはどこか、大切だと思っただのはどの部分か、自分の知識や経験から考えたことは何かなどをオンライン上の読書ノートにまとめます。授業では、グループに分かれて30分程度、内容理解問題の答え合わせと読書ノートに書いた

ことについて意見交換を行い、それをオンライン上の活動報告シート（図2参照）にまとめ、クラス全体に発表してもらいます。

1冊の本を読み終えたあとは、印象に残ったキーワードなどをもとに、そこから連想されるイメージを読書マップとして図式で視覚化します（図1参照）。そして、自分たちが読んだ本を他の人に薦めるために1000字程度の書評を作成します。それにより、単に本から知識を吸収するだけでなく、それらを整理し、社会に向けて情報発信・活用していく、アカデミックな活動に必要な読書スキルを身に付けることができますと考えています。

日本で活躍するグローバル人材を育成

私が担当する専門基礎科目では、2年次生に「日本語コミュニケーションの基礎」として日本語学を取り上げています。日本語学概論の教科書を使いますが、その他に大学図書館の電子書籍を利用し、春学期は統語論、秋学期は応用言語学に関する入門書をグループごとに1冊を選び、LTＤによる予習とグループディスカッションで、読み解きます。読んだ本は学期の終わりにグループごとに発表し、本の内容について紹介し、薦めます。

日本語学で取り上げる文法項目の中に、例えば、授受表現（やる（あげる）「くれる」「もらう」）があります。「先生が私に本をくれた（The teacher gave me a book.）」も「先生が彼に本をあげた（The teacher gave him a

book」も、英語ではどちらも同じ「give」を使いますが、日本語では「くれる」と「あげる」の使い分けが必要です。授受動詞は日本語独特の表現で、誰が受け手になるか、話し手になるかによって使い分けるので、日本語上級の留学生でも間違ったり戸惑ったりすることも少なくありません。現在、本コースで学ぶ留学生の多くが日本企業への就職を希望していますが、4年間の学びを通して、彼らが日本語や日本文化に習熟し、同志社大学発のグローバル人材として活躍できるよう後押ししています。

思考力を育むドイツの言語教育

2023年度、私はドイツのケルン大学東アジア研究所で、1年間の在外研究の機会を得ました。日本の高等学校に相当するギムナジウムで行われるアビトゥア試験（卒業試験と大学入学資格試験を兼ねる）では、1科目につき4時間ほどの論述試験を3教科受験しなければなりません。では、その思考力はどのように育まれるのでしょうか。

例えば、ギムナジウムのドイツ語の授業では、3カ月で一つのテーマ（戯曲、詩等）を取り上げます。ある学期には、ゲーテの「ファウスト」についてひたすら向き合い、その作品に込められた意味や思想、世界観、登場人物への共感・反感などを深く考察することで、自分なりの意見を育んでいきます。こうした授業で学んだテーマの中から、アビトゥア試験の論述試験が作成されます。日本の大学入試の国語の問題は、生徒が今までに読んだことのない文章から出題さ

れ、選択肢の中から解答を見つけることが一般的です。しかし、アビトゥア試験は中等教育の卒業試験も兼ねるため、授業で学んだテーマ（授業で扱った内容ではない）の中から出題され、自分の意見を論理的に表明することが要求されます。今後はこうした在外研究の成果も踏まえながら、日本語におけるリーディング教育において、学生一人ひとりの思考力を伸ばし、自ら情報発信できる学生を育てていきたいと考えています。

西岡唯純(2018)『東大読書』東洋経済新報社 ビア活動報告 Aグループ		西岡唯純(2018)『東大読書』東洋経済新報社 ビア活動報告 Aグループ	
4月23日ピア活動記	氏名	5月/日ピア活動記	氏名
ファシリテーター	A	ファシリテーター	B
タイム・キーパー	R	タイム・キーパー	C
記録者	C	記録者	A
その他		その他	
話し合ったこと1 質問読みは同ですか？	「質問読み」とは、本を読む際に、まるで書者になつてみるつもりで、自分だけの想像を立てながら読み進める方法です。読書中に書者の主観に拘って著者の思考、その考えを探すことは、読解力や論理的思考力を養うことができます。	話し合ったこと1 自分の目標を設定した理由と今はどれくらい達成したか？	Aの場合、本を読む前に内容を時々忘れることがあったため書者と同じ目線にした。そして、少しづつでできている気がする。 Bの場合、今まで本を読む際に、本の内容を忘れている感覚が「自分が時々忘れている」というためこの目標を設定したのである。そして今は読書的な楽しみながら内容を忘れるなどのことで本の内容はほとんど理解していると思う。 Cの場合、本の帯などを見て「読む力」が「読解力」を身につけるのを意識した。そして、今は「読む力」を身につけていることができた。
話し合ったこと2 Set3で共通できたところはありますか？	「要約読み」が最も共通できる読み方です。難しい内容の書籍を読む際、重要な部分を簡潔にまとめて読むことで、理解力や論理的思考力も高められます。	話し合ったこと2 この本に対して「口分」の結論	A: 本を究極的に理解できる B: 本を読むにもいろいろな姿勢が必要 C: 自力で成長するための教科書
話し合ったこと3 Set4で共通できなかったところはありますか？	「検証読み」にはまだ十分共通できていません。本に書かれていることをそのまま読み進めようとするのではなく、著者の主張や論理の筋や事実を指摘することもありますが、そのために、情報を検証し、読者の読み方をつけたらいいと思っています。特に「共通できなかった部分」はありますが、自分の読書スタイルでは、本の内容を要約して「要約読み」が最も得意で、それは人文学や社会学、地理学といった分野の本を専ら読んで読むことにも関係しているかもしれません。	話し合ったこと3 この本1冊の内容をまとめよう。	読解力が不足している人も本の読み方を直せば果敢に行けるようになる
話し合ったこと4 東大生が必ず読書力を持つとは限らない	読書力一環「読み取って考える力があること」とは言いながら、もちろん東大生の中でも、読書が得意な人もいれば、読書が得意ではない人もいるかもしれないと思いました。	話し合ったこと4 書評	C: 「読書で思考を鍛える方法」を教える実践指南書。種別に決まらず、自分で学ぼうという人にも最適。読書が従来の道具として活用したのへ入るもの。 B: これまで未歩読んでも内容が全くの闇の中に入つてしまつたりする経験があることがないなどの悩みを抱えている、教科書以外にこれほど多量の情報を得ることができた。そのため、「東大読書」という本は私のようにただただ文字を追っているだけの人のために書いた。 A: 本を読む時に読書方法がどうなるか書者のか知らない人に薦める

図2 グループ別活動報告書



女子大学

実験動物を用いた薬物の体内動態解析

薬学部教授

きりやま
喜里山あきこ
暁子

からだの中の薬物の動きや働きを科学する

病院や薬局などで薬をもらったとき、一緒に添付されている説明文書に、薬物動態について詳しい情報が書かれているのをご存じでしょうか。

薬物動態とは、薬物がからだの中でどのように吸収され、体内の各組織に分布し、代謝、排泄されるかを表す経時的なプロセスのことを指します。すぐに効き目が表れる薬もあれば、時間をかけてゆっくりと効く薬もあります。外側からではよく分からないブラックボックスとなっていますが、そこに薬動学的な視点、すなわち投与された薬物の量や血中の薬物濃度、薬物が消失する時間や量など、体内での様々な薬の動きや働きをモデル化し、パラメーターとして定義・解析することで、薬物動態挙動を総合的に説明で

きるようになります。

薬を誤用すれば副作用が起こったり、時には毒になったりすることもあります。私の研究室では、主にラットを使った動物実験で、高血圧や糖尿病、アルツハイマーなど、私たちにとって汎用性が高い治療薬をターゲットに、それら薬物動態について基礎的研究を通して明らかにしていくと考えています。

ラットを使った実証実験で体内動態を解析

高血圧モデルのラットによる実験では、代表的な高血圧治療薬の一つ、ニフェジピンを30分程度かけてゆっくりと静脈に点滴投与していきます。血中濃度（血液内に取り込まれた薬の量）の上昇とともに薬の効果が現れますが、興味深いことに、まだ低濃度状態である最初の10分程度で急

激に血圧が低下し、その後は現状維持か、むしろ上昇に転じることが分かっています。

副作用はどうでしょうか。循環器系の治療薬の副作用として、心臓が発する電気伝達（Q波、T波）の間隔延長に起因する不整脈が知られています。ラットの場合、QT間隔の延長は血中濃度のピーク、つまり薬の効果が一番高いと考えられる30分くらいから起こり、同時に心拍数も低下していきます。時間経過とともに薬は体内から排泄され、血圧はゆっくりと元に戻っていきますが、心拍数は徐脈のままであり回復しません。

薬の相互作用についても、アルツハイマー型認知症の治療薬を使った動物実験に取り組んでいます。ドネペジルは脳内の神経伝達物質（アセチルコリン）の量を増やし認知症の進行を遅らせる効果があるとされていますが、シロスチアゾールという動脈閉塞疾患の治療薬を併用すると、ドネペジル単独投与時に比べて臓器移行性や分布容積が増加する、つまり薬の効果が高まる一方で、低用量の段階で心臓などへの副作用が発現することが明らかになりました。

そのほか、同志社が持つ総合力を活かした異分野連携にも取り組んでいます。例えば、同志社大学理工学部の北岸宏亮教授との共同研究では、北岸教授が開発を進める緊急

薬（火災時へモグロビンから一酸化炭素を奪って、素早く体内から除去する人工血液）が体内でどのように挙動し、一酸化炭素を尿中へ排泄するのか、ラットを使った動物実験で実証しました。

血中濃度と効果のモデリングで薬効を読み解く

では、ブラックボックスを読み解く鍵はあるのでしょうか？ 動物実験で得たデータから、クリアランス（薬物消失速度と薬物濃度の相関関係）や分布容積（体内の薬物量と血中濃度の関係性）、半減期（血中濃度が半分になるまでにかかる時間）などいくつかのパラメーターを導き出し、PK/PD解析という手法で解析することで、薬の効果と血中の薬物濃度の関係などを正しく評価できるようになります。薬物動態の変動要因を理解し、個々の動態パラメーターを変化させて計算すれば、相互作用による薬の効果、リスク等についても予測が可能となるでしょう。

今後は、これまで動物実験、あるいはin vitro試験等で構築してきたPK/PDモデルを基礎として、研究領域をヒトへと広げたいと考えています。実際の治療において、薬の投与量を倍にすれば、血中濃度が3倍、4倍になったというケースも決して珍しくありません。万一、副作用が

生じたとき、休薬期間はどれくらいで投与再開の量はどれくらいか？薬を科学的に理解し、一人ひとりの患者さんにとって最善の効果を提供する…。テーラーメイドの個別治療などが注目される今、まさに私たちの研究は社会的に大きな使命を担っていると言えるでしょう。

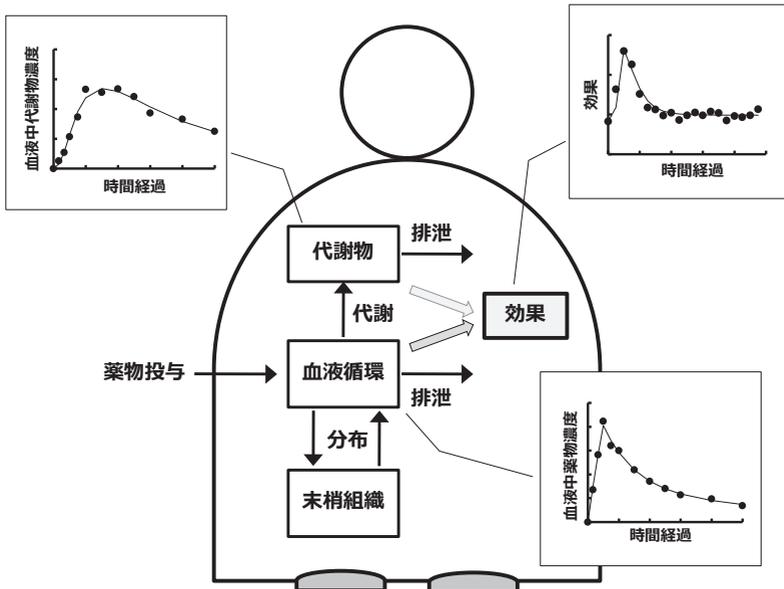
薬剤師に求められる資質を磨く

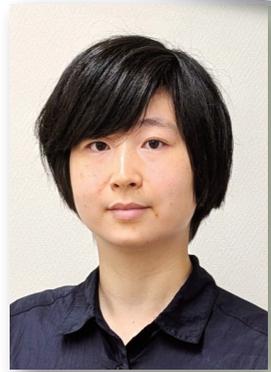
私の研究室では、薬剤師を目指す学生たちが多く在籍しています。薬剤師は地域医療の中で身近で頼れる存在です。薬物に関する知識はもちろんのこと、様々な悩みや不安を持つ患者さん一人ひとりに対して、薬の用法、効果などを分かりやすく伝えるコミュニケーション力が求められます。

薬学部では、学生たちは5年次生になると、病院と薬局でおよそ半年の間、実務実習を行います。実際に医療現場に立ってみると、薬剤師だけでなく、医師や看護師、栄養士、理学療法士などがそれぞれ役割を担いながら、チームで患者さんの治療にあたっていることが理解できるよう。実習を終えた学生の多くが、視野を大きく広げて研究室に戻り、問題意識を高めてその後の学びに活かしています。

私自身、薬物動態についてさらなる研究、実証等に取り

組むとともに、地域医療を担う次代の人材育成にも力を注いでいきたいと考えています。





国際中高

数学って面白い！

数学科教諭

やまさき
山崎

みゆき
美幸

ゲーム感覚で数学の苦手意識を克服

算数は得意だったのに、中学校に入學して初めて負の数や x 、 y という（正体不明の？）記号を見て、数学が苦手になる生徒も少なくありません。例えば、マイナスの概念を説明するとき、「負の数はゼロより小さい実数で…」と言ってもあまりピンとこないでしょう。

私が担当する中学1年生の授業では、正の数と負の数を書き入れたサイコロを使って、クラス全員ですごろくゲームを楽しむこともあります。例えば「12」という目が出れば2マス戻って、自己紹介や早口言葉などいろいろなお題で盛り上がりながらゴールを目指します。また、文字式の授業では、いろんな文字式が書かれたカードを用意し、「 $3x$ 」と「 $2x + x$ 」など同じ札を揃えて捨てていくババ抜きゲームを取り入れたり、最初はちょっと難しくても、で

きるだけ敷居を低く間口を広げることで、「数学って面白い！」と感じてほしいと考えています。

もう一つ重要なのは、理論と方法を切り離して説明すること。正負の乗法・除法の場合なら、正×正＝正、正×負＝負、負×負＝正というルールさえ知っていれば、テストで一定の得点を取ることができます。理屈は分からないけれど「計算ができた！」という体験を積み重ねることも大切で、最初に数学に対する小さな自信をどれだけ持つてもらうかで、中高6年間、あるいは大学での学びの姿勢や意欲が大きく変わってくるのではないかと思っています。

生徒一人ひとりの「わかる度」を高める教育

同志社国際中学校・高等学校では、大学に接続した一貫校ならではの強みを活かした数学教育に取り組んでいます。例えば、大学受験を目指す場合、テストの得点や偏差値な

どを上げることが目標になってしまいがちです。しかし本校では、少しでも解ける問題を増やすというよりも、解ける部分について十分に理解し習熟度を深める、つまり生徒一人ひとりの能力に応じて、「わかる度」の濃度・密度を高めていくことを目標とします。

同じように定期考査では、原則として問題集に載っている内容が出題の中心で、自分が学習した範囲をしっかり解くことができれば及第点がもらえるようになっていきます。一方で、発展問題などについては、普段の授業ではあえて最後まで教えないこともあります。なぜ?と思うかもしれませんが、テストでもっと良い点を取るためには、授業で習ったことをヒントに難しい問題と向き合い、分からなければ誰かに聞いたり調べたりして予習しなければなりません。もちろん意欲的な生徒には、教員が全面的にバックアップして応えます。授業やテストを通して、自主的に考える力、決してあきらめない力を養っていく。受験などに縛られない、生徒の個性を輝かせる数学教育と言えるでしょう。

選択教科「代数・幾何入門」の授業を振り返って

高等学校では、生徒の学びの意欲に応える様々な選択科目を用意しています。2024年度に初めて開講した「代数・幾何入門」もその一つで、高校数学の範疇を超えて、大学教養レベルの代数や幾何に親しもうという目標を掲げ

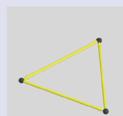
ています。今回、意欲あふれる13人の生徒が参加しました。大学で数学を難しいと感じる理由として、 ε ・ δ （イプシロン・デルタ）など抽象度が高くなるものが挙げられます。実は中学校で x や y などを習うときなど、高校までにも何度も抽象化をしています。それと同じように抽象化に対処できないかと考え、図や言葉、具体例を積極的に用いました。

授業では、例えば「群」という概念を理解してもらうために、私がオリジナルで考案した「ぶぶんぐんゲーム」をプレイしてもらいました。群を図で表したカードを使って、数の大小関係ではなく群の包含関係を用いて、トランプの大富豪と同じルールでゲームを進めていきます。実際に図を見ながらプレイしてみることで、 $\mathbb{Z}/3\mathbb{Z} = \langle a \mid a^3 \rangle$ や $\mathbb{Z}/6\mathbb{Z} = \langle a$

ぶぶんぐんゲーム

いわゆる大富豪で、トランプではなく群の書いてあるカードを使い、数の大小関係でなく群の包含関係を使ってプレイするゲーム。

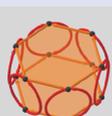
カード



$$\mathbb{Z}/3\mathbb{Z} = \langle a \mid a^3 \rangle$$



$$\mathbb{Z}/6\mathbb{Z} = \langle a \mid a^6 \rangle$$



$$\langle a, b \mid a^2, b^6, abab \rangle$$

★ぶぶんぐんゲーム

「 a^0 」などで表された群がどの部分群になっているか、一目で理解できるようになります。

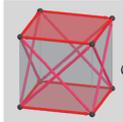
図以外の言葉や具体例でいうと、「 e が単位元とは、 $\langle a \cup \langle G \cdot a \cdot e \cdot a^{-1} \rangle$ が分からなくても、「どんな x に e をかけても変わらない」と言葉にすれば少し分かりますし、「例えばかけ算では、どんな数に1をかけても変わらないから1が単位元です。たし算では、どんな数に0をたしても変わらないから0が単位元です。」と具体例を出せばよく分かります。さらに、英語のレベルが高い本校では特に、英訳した方が分かりやすいこともあります。

「Bのすべての元bに対して、Aの元aが存在して $b=f(a)$ となる。」が分からなくとも、「For all b in B, there exists a in A such that b equals to f(a).」を英訳すると分かってくれました。これを「 $\forall b \in B, \exists a \in A$ s.t. $b=f(a)$.」と略

学年末考査の問題例3 (元の位数)



は



の部分群である。

$$\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$$

$$= \langle a, b \mid a^2, b^2, [a, b] \rangle$$

$$Q_8$$

$$= \langle a, b \mid a^4, a^2 b^{-2}, abab^{-1} \rangle$$

	理由
① 正しい	① 図より明らか。 ② $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ の位数4は Q_8 の位数8の約数だから。
② 正しくない	③ $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ には可換群だが、 Q_8 は非可換群だから。 ④ $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ には位数2の元が3個あるが、 Q_8 には位数2の元が1つしかないから。

学年末考査

すことで、「A」や「B」の記号も習得できました。

1学期と2学期では、解いてきた課題を発表してもらったり、学年末考査では生徒自身が考えてきた問題をアレンジして出題したり、必ずしもペーパーテストにこだわらない選択教科ならではの成績評価方法を取り入れました。当初は大学数学への入門と位置づけていましたが、群論についてはコーシーの定理、グラフ理論については5色定理の証明まで、生徒の意欲に応じて学びの幅はどんどん広がり、私自身、大きな手応えを感じる授業となりました。

無限に広がる数学の世界で遊んでみよう

数学の面白さって何でしょう？「500—100」はお釣りの計算など日常でもよく見かける数式ですが、「500₁₀₀—100₁₀₀」という世界は想像もできないでしょう。また、2乗して「—」になる数はあり得ないように思えますが、数学では「—」と表して、よく使っています。一見、かけ離れた数学の世界と現実世界を結びつけると、例えば虚数の理論は電気回路や量子力学など様々な分野で応用され、私たちの暮らしを支えていることに気づきます。

最初から数学が好きでなくても構いません。本校での6年間の授業や様々なプログラム、教員や友人との交流などを通して、自分だけの数学の楽しさ、面白さを見つけてほしいと願っています。



中学校・高等学校

ものづくりを足場にした学びのOS
 地に足がついた経験で、未来のインフラを自分事にく

技術科教諭

沼田 和也
ぬまた かずや

中学校の技術教育におけるブリッジコンテストを橋模型の製作と構造力学の先行経験というだけでなく社会インフラという切り口で、授業ならではの実感（地に足がついた）学びを展開しようとしています。それは今後、社会資本の在り方や住民自治のような抽象度の高い事柄を学んでいくにあたってのOSのような経験を提供し、未来のインフラの在り方をより自分事としてほしいと願っています。以下に一連の授業の流れを紹介します。

1. ブリッジコンテスト

技術教育の分野では定番となっているブリッジコンテストですが、バルサ材で作った橋の模型を製作し、バネばかりを用いて荷重を測定する簡素なものです。積載荷量を自重で割って、競うというゲーム性を持たせています。「より

軽く、より上部に！」を目標にして生徒たちはアイデアを形にしていきます。立体的な模型にすると製作時間もかかるので2Dの模型にして、強度試験も自分たちで行いますので、厳密な測定精度をわずかに犠牲にしていますが、生徒自身が手軽に強度試験を行え、強度の評価を自分たちでするようにしています。

「コスト」と「美しさ」の視点も評価目標に加えられ、iPadやロイロノートを活用



し、生徒による相互評価やプレゼンテーションが用意されています。工学的な最適化だけでなく、現実社会での総合的な価値判断も総合的に思考するきっかけにしています。

2. 乗っても大丈夫なアーチ橋

ブリッジコンテストでは、バルサ材の模型づくりにはすぎないので、本物の骨材を使った活動を取り入れて、本物感を味わってみる経験をしてもらいます。生徒は役割分担をしながらレンガと湿った砂を使ってアーチ橋を製作し完成したアーチ橋に乗ります。生徒は「本当に人が乗れるのか半信半疑だったけれど、大勢の人が乗ってもつぶれないアーチ橋をみて感動しました」と驚きを表現しました。また、



「真ん中のレンガ一つを下からコツンと蹴るだけで全てが崩れてしまったことが驚きでした」という経験からアーチの弱点に気づきます。さらに、「本物のアーチ橋を作る人はプレッシャーがすごいだ

ろうと思いました。：（中略）：身の回りには本当にアーチがたくさんあることがわかりました」と、日常の中にあるアーチ構造（校舎、橋、商店街のアーケード、自分の足など）への見方が変化しました。

3. モルタル強度試験

砂とセメントを固めたモルタルの試験片を製作しました。針金を鉄骨にして固めたものと、わざと不純物（塩、コーラ、コーヒールなど）を混ぜた試験片も製作し、強度比較試験を行いました。コーヒールやコーラを混ぜたものは型枠から外すときにすでに割れてしまうものもあり、予想通りの結果となります。引張りに弱いコンクリートを補強する鉄筋が錆びに弱い性質を持つこと、アルカリ性のコンクリートが鉄筋を保護する「筋金入り」の関係性も学びます。1週間後、型枠から取り外した強度試験用のモルタルは、それほど強そうには見えませんが、重りを載せて行くととても強く強い。モルタルですらこの強度だから、コンクリートがすごい強度を持っていることは想像に難くありません。また、不純物を入れた物は、塩の場合は意外と持ちこたえることができ、コーヒールやコーラ等は型枠を外した時点で崩れてしまいます。生徒たちの視点は、老朽化する社

会資本をどう保守していかに行きつきます。生徒からは「少しでも作り方を間違えると人が死んだり大変なことになる」、「セメントの設計通りの強度を出すためには成分管理とプロセスが大事だとわかった」、「公共事業は名前のとおりみんなが使う道等のことだからしっかり緻密に検査をしないといけない」、「いっぱい道路や橋を作ってもいつかは老朽化してしまうのだからあまり無計画に作ったら維持費等でとてつもないお金がかかってしまう」といった感想が寄せられ、コンクリート建造物への理解が深まっています。

さらに、「今ここにいる生徒、先生、物まで全ての体重がのしかかっているのにもかかわらず、割れずに耐えることができているなんて凄すぎると思います。今まで何事もないように生活していた家も、はじめは柔らかいジェラートのようなモルタルから作られているのかと考えると面白いと思います。」と、生活の中に溶け込んでいる技術を生き生きと表現してくる生徒もいます。モルタル試験片製作を通して表現が身体化された知識として獲得しているかのごときです。

これらは、実際の建設現場で使われる材料であるモルタルやレンガのワークを通して橋梁建設のイメージがより自

分の感覚の中に染み込んでいくように感じられます。生徒たちは、普段目にしていないが気にも留めないモルタルの景色の中に、建築物という構造の中で材料が圧縮されているというイメージが宿ることになります。それはブリッジコングレストの風景にすぎない木製の橋模型とて同じことでしょう。本物の橋をバルサのような木材で作ることは不可能であるし、接着剤で部材を接合することは、現実味に欠けた茶番劇のようなものであることは生徒も百も承知です。しかし実際の骨材に触れ合う体験、巨大プロジェクトのマネジメントのワークを通して、一歩ずつ本物の体験に近づくことができると考えられます。

4. 社会インフラのプロジェクトマネジメント と明石海峡大橋の見学

教室いっぱいの吊り橋の巨大模型製作を通じて、多数の会社に関わる巨大プロジェクトのマネジメントをお学ぶ活動では、生徒は「吊り橋を作るのは人手と時間が大切なことに気づきました。橋は弱く、すぐクリップが取れてしまったり、揺れて線路が外れてしまったり…今回は小さな電車でしたが、本来は本物の電車で人の命を預かっています。それに風などが加わり、もっと崩れる可能性が高くなる。

を提供しています。

5. まとめ

生徒たちが橋のような社会資本を見る目をどれだけ豊かに育むことができたかという点は今後の課題として残されていますが、生徒たちが日常生活の中で接するインフラを「自分事」として捉え、その背後にある技術や人々の努力、社会的な役割への理解も学びの範囲として授業実践をつかっていきたいと思っています。



橋作りは重要なことだと思えてきました。」といった感想を持ち、社会資本事業の重要性を実感しています。その後有志ではありますが、明石海峡大橋のワールドツアーにも引率していきます。普段は入れない橋桁のグレーチングの上を歩き、建設や設計に関わったシルバードラ

ンティアの方に工学的な解説をいただきながら、主塔のエレベーターを使って頂上まで登ります。そこは海面上約300m・360度パノラマの景色が広がっています。元エンジニアの解説や、授業で得たブリッジコンテストの体験を踏まえて、地上から見上げた明石海峡大橋の巨大な機能美に驚き、主塔の上に立つという文字どおり日本の土木技術の上に立つ感動を20名程度ではあるが本物に触れる機会



国際学院

個別最適な学びを目指す

同志社国際学院初等部の探究型学習

教諭

荒谷 あらたに達彦 たつひこ

国際学院開校当時の探究型学習と今

現在、本校で「探究」という言葉は年間6つの教科横断的なテーマを探究する Unit of Inquiry (以下、UOI) の授業と、6年生が探究型学習の集大成として個人でテーマを決め探究する PYP Exhibition (以下、Exhibition) の2つの場面で使われています。国際学院が開校した当時、現在認定されている国際バカロレアに一条校で認定させている学校はありませんでした。そのため、各学年で実施する UOI を、試行錯誤しながら毎年ブラッシュアップし、現在の形を作ってきました。2017年には、6年生で探究のサイクルが作られ、現在では全学年が探究を進める上のベースとなっています。

Exhibition については2014年度末に6年生が一条

校として初めて実施しました。以降、それを毎年見直しながら積み重ねて実施しており、その結果、他校が参考にしたいと見学に訪れるほどの取り組みとなりました。2018年度からは児童がお客さんと対話しながら進める形へとアップデートしました。原稿通りに発表し質疑応答を行なうって決まった時間に終わるような発表者主体の一方的な発表をするのではなく、より深いテーマの理解と高いコミュニケーション力求められる対話型の発表こそが、将来必要なスキルを育むと考えたからです。その当時、小学校で Exhibition のような児童が自らの興味関心や問題意識からテーマを決めて個人で「探究」する教育スタイルを実施している学校はほとんど聞いたことがなかったため、特別な教育をやっていると自負していました。

本校開校から14年が経った今、「探究」という言葉は当

たり前のように使われ、探究型学習を実践している学校は多数あります。たとえば高校では総合的な探究の時間のみならず、教科内に属する探究関連の科目があり、小学校では愛知県瀬戸市にある瀬戸SOLAN学園初等中等部において小学1年生から個人でテーマを設定する探究に取り組んでいます。東京都の葛飾区立東金町小学校では3年生から個人探究を実施しており、2024年度からは東京都渋谷区の公立小中学校で、探究「シブヤ未来科」をスタートさせ、午後の授業時間を中心に子ども主体の探究の学びを展開しています。

「探究」が当たり前となった今、15年目を迎えた本校が更に探究をカリキュラムの特長として掲げるためには何が必要になるのか。この4月から私が受け持つ6年生で実践している内容と、その成果や更なる課題についてご紹介いたします。

「個別最適な学び」を目指した現在の取り組み

2021年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指す」が示されました。答申を読んだ方も多いと思いますので、詳細は割愛させていただきます。4月から私が意識している「探究型学習」を通して、答申で示された「指導の個別化」と「学習の個性化」に分

けて整理されている「個別最適な学び」を目指した取り組みについて説明いたします。

「指導の個別化」については、UOIを含めた担当する授業で、めあてと授業での到達目標であるルーブリックを設定しています。ルーブリックを設定することで、学習目標が明確になり、指導や支援と評価を一体化することができます。話す・聞く・読む・書く等の表現をする授業では、教師の持っている基準と児童の理解にズレが生じることがあります。「○○を説明しよう」というめあてであれば、説明するとはどういうことなのか、児童の到達目標を具体化し、教師と児童が共通理解を持つことができます。ルーブリックを用いることで、児童は自分の学習状況を客観的に把握し、次の学習ステップにつなげることができます。また、教師はルーブリックに基づいて、児童の学習状況を評価し、個別の指導や支援に役立てることができるのです。年度始めより取り組んできたことで、児童の授業に対する学習意欲が高まり、どうすれば「より深い表現」ができるかを考える児童が増えてきました。児童同士の会話では足りない点や更に良くなる点などを、こちらが意図してデザインしていない中でもアドバイスし合う姿が見られます。

「学習の個性化」については、Exhibition 自体がその取り組みになります。現在は児童自らがめあてとルーブリ

ックを設定し、授業後はやったこと、できたこと、できなかったこと、次やることの4観点でふりかえりを行います。Exhibitionは自分で創り上げる授業で、教師は「伴奏者」として、声をかけたり相談に乗ったりする役割を担います。児童自身が何を目指し、どこまで到達したのか、何ができた／できなかったのか、その要因は何なのか。そういった授業や自分の分析を行うことで、メタ認知や自己調整力、そしてレジリエンスといった自己管理能力を身につけることにつながります。6月からはUOIの授業でも毎回児童がふりかえりを書いており、徐々にふりかえりを「課された課題」から「自分のためのもの」と認識する児童が増え、学習に対する主体性が上がってきています。

どちらの取り組みも真新しいものではないですが、主体的でより深い探究の実現を目標に取り組み、少しずつ成果が出てきていると実感しています。

今後の課題

〜カリキュラムマネージメントとスキル向上〜

前述は短期的な取り組みとして4月からすぐにスタートしたのですが、中長期的なものとしては、UOIのカリキュラムマネージメントと、国際バカロレアが示す Approaches to Learning (以下、ATL)と呼ばれるス

キルの系統的な取り組みによる向上です。

UOIの授業は学習指導要領の中でも生活科、社会科、理科を組み込んで構成しています。そこでどの単元にも関わってくるのが国語科の「思考力・判断力・表現力等」です。話す・聞く・書く・読むことの汎用的な資質・能力をUOIに組み込み、文脈のある教科横断的な場面で活かすことで、資質・能力がどういった場面で活用できるかを児童が実感し、それをExhibitionで自由に発揮できると考えています。

またATLにおける「思考、社会的、コミュニケーション、自己管理、リサーチ」の5つのスキルは、探究のみならず学んでいく上で欠かせないものになります。学習指導要領で学習の基盤として挙げられている言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等に含まれるものがほとんどです。そのため、教科やUOIを通して系統的に身につけられるように整理することで、より深い「探究型学習」の実現につながると考えています。

歴史ある同志社の法人内学校であるからこそ、日本の教育をリードするような質の高い教育を実現していきたいと考えています。

同志社創立150周年記念シンポジウム

同志社・慶應・早稲田が考える教育の未来 〜私学の役割と人材育成〜

主催：朝日新聞社 共催：学校法人同志社

2025年5月17日（土）、同志社大学今出川校地寒梅館ハーディーホールにおいて同志社創立150周年記念シンポジウムが開催された。参加者は609名、オンライン視聴者は常時200名程度あった。

本シンポジウムは、同志社創立150周年を記念し、私学の根幹をなす建学の精神を再確認するとともに、今後の私学教育の在り方や人材育成のあり方について、早稲田、慶應、同志社の各大学が共に議論する場として開催された。講演およびパネルディスカッションを通じ、多様な視点から現代教育の課題や未来への展望が語られ、参加者にとって非常に有益な議論の場となった。

当日のシンポジウムの様子並びに朝日新聞に掲載された採録記事についても、同志社創立150周年HPからご覧いただける。

1. 基調講演の概要

1. 1 学校法人早稲田大学：田中愛治総長による講演
田中総長は、「早稲田大学が目指す大学の姿 世界で輝く「WASEDA」と題し、同大学が国内外でリーダーを輩出するための教育理念を述べられた。講演では、三大学の創立者に共通する理念「すなわち学問・研究を通じた社会貢献の精神が強調され、特に「健全な野党を支え、国民形成に寄与する」考え方の重要性が指摘された。さらに、基礎教育の柱として日本語、英語、数学、統計、情報科学を挙げ、答えが存在しない複雑な問題に対峙するための教育の効率性を追求する姿勢が示された。



学校法人早稲田大学総長 田中 愛治氏

1. 2 学校法人慶應義塾…伊藤公平塾長による講演

伊藤塾長は、今の時代に求められる人材像として「志」を持つことの重要性を語られた。恵まれた環境にある者が自らの「学ぶこと」を再認識し、主体的に時間を確保して学びに取り組むことが必要であると提案。具体例として、福沢諭吉が14、15歳で本を読み、19歳で蘭学を学び、20歳で適塾に入塾、23歳で蘭学塾を開塾、24歳で英語に取り組



学校法人慶應義塾長 伊藤 公平氏

んだエピソードを紹介し、「志」を醸成するための時間の重要性を説かれた。

1. 3 学校法人同志社…八田英二総長・理事長による講演

八田総長は、同志社教育の特徴として「夢」を「志」に転換する良心教育の意義を強調された。同大の教育理念は「知育・徳育・体育」の三位一体に基づくバランスの取れた人材育成にあり、これを象徴する同志社の徽章や小学校の校歌にその根幹が反映されている。さらに、幼稚園から

大学・大学院に至る一貫

教育のシステムを通じた好循環—すなわち、良心教育を受けた学生が社会で「地の塩、世の光」として活躍し、次世代にも同志社教育を望む環境を構築することが、同志社の未来像として描かれた。

2. パネルディスカッション

基調講演後、事前に募集された質問をもとに、以下の7つのテーマについて大幅な議論が行われた。

①各校の取り組みや課題の再確認 基調講演を踏まえ、各大学の取り組みの共通点と個別の課題が議論され、教育体制やカリキュラムの課題が浮き彫りにされた。

②学部教育と新しい学部設置への取り組み データ科学の導入など、学部横断的な根柢ある議論を実現する取り組みが紹介され、各校で学部教育の質向上が図られている。

③私学の社会的役割 国際競争力の向上や国民形成に果たす役割について、各校の事例とともに私学の意義が論じ



学校法人同志社総長・理事長 八田 英二

られた。

④少子化への対応 少子化が深刻化する中、教育の充実や就学支援、そして大学の経営体制の見直しといった課題への対応策が議論された。

⑤格差と就学支援制度 教育格差是正のための施策や、国公立の連携のあり方が取り上げられ、質の高い教育環境の構築に向けた提言が行われた。

⑥人材育成と未来への展望 留学経験や国際感覚の重要性、また早期からの大学教育を実現するための制度など、未来の人材育成に向けた各校の具体的な施策が述べられた。

⑦大学の国際化 世界への視点を持った教育の推進や、海外経験を通じた視野拡大の効果について活発な議論が交わされた。

(パネルディスカッションでの主な発言)

・早稲田の田中総長は学部教育の枠を超えてデータ科学の導入など、根拠に基づいた議論ができる体制作りの重要性を強調。また、一度は留学を経験することで、日本と海外との視点の違いを感じ、次世代のリーダーを育成する意義に触れた。

・慶應の伊藤塾長は、大学院の拡充や、ダブルメジャー、さらには高校2年生からの早期大学入学制度など、時間を有効に活用した本質的な高等教育実現の必要性を述べ

た。福沢諭吉の世界を見なければならぬという考え方を引き合いに出し、国際的な視野を持つ人材育成に尽力する姿勢を示した。

・同志社の八田総長・理事長は、同志社の創立の背景にある資金調達や「志」による教育の重要性を語るとともに、「夢」は将来の一次的な幸福であるのに対し、「志」は生涯にわたって他者や社会に貢献するための根本的な価値であると強調した。

(3者は国公立大学と私学との違いについて)

・田中総長は、私学が日本の大学生の約80%を担う以上、建学の精神を厳守し、国際的な競争力を維持するための教育が必要だと述べた。

・伊藤塾長は、ヨーロッパとアメリカの例を挙げ、国公立と私学のバランスの重要性、さらに「安かろう悪かろう」からの脱却を訴え、国公立における個人負担が鍵であると指摘があった。

・八田総長・理事長は、国庫からの私学助成が限られている現状を踏まえ、収容定員に応じた教員数の問題など、私学運営における課題点について指摘された。

3. 総括と今後の展望

基調講演およびパネルディスカッションを通じ、三大学

いずれも創立者の建学の精神を共有しつつ、それぞれの教育アプローチや重点において特徴的な視点を示した。

・早稲田は、データ科学の活用や留学を通じた国際感覚の醸成を推進し、

・慶應は、時間をかけた本質的な高等教育の実現と、早期からの学びの充実に挑戦し、

・同志社は、夢と志の転換を核とした良心教育を重視することで、好循環を目指している。

各校とも、体系的な教育改革や国際化、小・中・高・大学・大学院に至る一貫教育の在り方など、未来の人材育成と私学の社会的役割を再定義する試みが見受けられた。本シンポジウムは、教育界における共通の理念と多様なアプローチを確認する貴重な機会となり、今後の政策づくりや大学運営に対しても大きな示唆を与えたといえる。

4. 結語

今回のシンポジウムは、3大学がそれぞれの歴史と伝統に根ざしながらも、未来の教育環境や社会における役割について鋭い洞察を示した。参加者は、私学が担う教育の使命、国際化や質の向上に向けた取り組み、そして「志」による人材育成という共通のビジョンを確認することで、これからの教育の可能性を改めて感じる事ができた。今後

も、各大学の取り組みが連携・発展し、日本全体の教育レベルの向上に貢献していくことが期待される。

(学校法人同志社 法人事務部
創立150周年記念事業事務局)



大学

「プラスチック汚染」ということば

経済学部准教授 原田 禎夫
はらだ さだお

世界的な環境問題を引き起こしているプラスチックをめぐって、特に日本国内では「プラスチックごみ問題（「プラスチックごみ問題）」という表現が用いられることが多いように感じます。しかし、近年の海外での報道や研究では、「プラスチック汚染（Plastic Pollution）」が広く使われています。

こうした表現の違いによって、問題の感じ方は大きく異なるのではないのでしょうか。現代の生活に欠かせないプラスチックですが、多くのマイナスの影響も私たちに及ぼしています。たとえばポイ捨てや大量に流れ着いたごみが町や海岸の景観を悪化させたり、生き物の命を奪ったりしています。「プラスチックごみ問題」という時には、そうした状況をイメージする人も多いかもしれません。

しかし、問題はそれだけにとどまりません。最近ではマイクロプラスチックの影響も懸念されています。プラスチックが波の力や紫外線により粉々になったものだけでなく、タイヤかすや化学繊維のほこりが無数に空気中や水中

を漂っています。あるいは熱や力を受けて容器から剥離したプラスチック片が食品の中に含まれています。これらのごく微細なプラスチックは呼吸や消化を通じてヒトの血液の中にも取り込まれ、生殖能力などに影響を及ぼしたり、心臓発作や脳卒中、認知症のリスクを高めたりすることも疑われています。そうした状況を見ると、もはや「プラスチックごみ問題」というよりは「プラスチック汚染」というべき状況であると誰もが感じるのではないのでしょうか。

日本国内では、プラスチック産業は重要な産業の一つです。海外の研究を中心に「プラスチック汚染」という用語が使われ始めた頃、特定の産業を敵視するような表現はかえって対策を遅らせるのではないかと、という声もあって、行政のみならずNGOの間ですら「プラスチック汚染」ということばを避けて、「プラスチックごみ問題」という表現を使い続けてきた経緯もあります。

プラスチック汚染は、その問題の構造がきわめて複雑で、何かひとつの方法だけで解決できるものではなく、個人から国際的なレベルまで、正確な情報にもとづいた「価値の共有」が欠かせません。そのためにも、ことばを正しく使うことは、問題を的確に捉え、社会と共有するために大切なことであると、研究を進める中で強く感じています。

女子大学

「いついつ…今、「芸術」と言ったか？」

表象文化学部日本語日本文学科助教

陰山 かげやま 涼 りょう

今年五月公開の映画『岸辺露伴は動かない 懺悔室』のなかで、主人公の人気マンガ家・岸辺露伴は自らの作品を「芸術」と呼ばれたことに強い憤りを表明している。曰く、「この岸辺露伴が芸術家を気取って漫画を描いていると思うのか」。高橋一生演じる実写版の露伴には原作マンガとはいくらか異なる部分もあるのだが、ともあれ不遜にして天才的なこのキャラクターにとって、マンガはあくまでマンガとして評価されなくてはならないらしい。一部の専門家ではなく多数の読者のために描くのだと語るその態度には、大衆文化の担い手としての矜持が示されている。

二〇世紀の日本において、マンガは長らく低級な子供向けの娯楽とみなされてきた。その描き手にとって社会的地位の向上は急務であり、自らの作品が「芸術」や「文学」として扱われることは名誉だったはずだ。実際、一九六〇年代末ごろからマンガの芸術性や文学性を認める声も聞かれるようになる。この頃のマンガは、より「高尚」なジャ

ナルからの承認を必要としていた。

岸辺露伴のセリフは、いまやマンガと芸術の関係がかつてとは異なることを端的に示している。とりわけ二一世紀に入ってから日本のポップカルチャーはその大衆的な広がり世界的な評価を背景に独自の地位を築いてきた。もはや他のジャンルから権威を借りる必要はなくなりつつある。マンガ史の研究者である私が今年度から本学で教鞭をとることになったのも、このような変化の結果に違いない。マンガを芸術や文化の一種とする見方が一般化したからこそ、それを大学のような場で扱うことも可能になる。

とすれば、いやしくも「専門家」であろうとしている自身、どうやら露伴に怒られるべき立場にあるようだ。たしかに、マンガを学術的な対象として慎重に取り扱うことが、大衆文化のもつ魅力やエネルギーを減じてしまうのではないかと不安になることも少なくない。それでも、マンガをマンガとして扱いつつながら、その歴史や表現の仕組みを明らかにすることが可能であり、また少なからぬ意義もあると信じている。たとえ学術の対象として扱われようとも、マンガがもつ独自の力は決して失われはしないだろう。この表現ジャンルが日本の近代とともに積み重ねてきた歴史は、「そんなチャチなもんじゃあ断じて」ないのだから。

小学校

「[F]」の先生

宗教科教諭

なかがわ 中川

よしゆき 好幸

ハーバード大学の留学生が理不尽な目に遭っていることが報道されている。国家とアカデミズムの状況はこれでもいいのかと憤りを覚えるとともに、それぞれの留学生の心情も思う。国際中・高在職時代、1999―2000年に学内中高ではおそらく初めて制度として創設していただいた、サバティカル期間に、ハーバード大学教育学部大学院修士課程 Technology & Education 専攻で学んだ。当時の学費は年間250万円ほど、アパートの家賃も15万円ほどであったが、給与からまかなうことができず、現在の学費はと調べてみると、25年でおよそ4倍の1000万円越えである。様々な状況と合わせて、今なら、留学は不可能であったらう。

ここ20年ほど、日本では留学を希望する学生自体が減少しているという統計がある。よく言われる「内向き志向」、世界への関心、興味よりは、身の周りの生活で精一杯というところもあるのかも知れない。また、就職活動への影響、経済的な負担などさまざまな理由が存在するであろう。も

し、自分が今大学を目指す年齢であればと想像し、関心を惹く大学がある。ミネルヴァ大学である。世界7地域（米国、インド、ドイツ、韓国、台湾、アルゼンチン、イギリス）にキャンパスをもち、半年ごとに移動しながら4年間を過ごすという。（2024年9月には東京も滞在場所として追加された。）さまざまな国から、多様な視点や文化的背景などを理解するにはとても魅力的な環境に映る。

グローバルizmとの二項対立とだけは考えたくないが、一方にある自国中心主義が隆盛である世界が、私たちの前には拡がっている。その中で、身近な所でも、人が他者を理解し、受け入れ、大切にすることは、ますます難しさを増している。ただ、思うことは、自らだけを正しい存在と考えること、いわば自分を絶対的な正義ととらえ、他者を間違いだとして否定することこそ、私たちの日常からそして世界の紛争に至るまでの最大の要因ではないかということである。自らの正しさを声高に主張することを余りにも目にする時代、自戒を込めて、「裸の王様」にならないように生きていきたいと心より願っている。肩の力を抜いて、自らの正しさというものを誇らず、時には手放し、落ち着いて物事を見ること、それでこそ、私たちは幸せに至る生活、世界をつくることのできるのではないだろうか。

(新)臨光館

2005年9月竣工
(同志社大学)

外観



渡り廊下



入口



1959年に日本電池株式会社(現・株式会社ジーエス・ユアサコーポレーション)の跡地を購入し、新町キャンパスとしました。当時の本社社屋を「臨光館(りんこうかん)」と命名し、増築・改造を加えながら活用してきましたが、社会学部と政策学部の教育が主に展開される新町キャンパスの教育環境を整備するため、(旧)臨光館等を解体し、2005年9月に(新)臨光館が建設されました。

(新)臨光館は鉄筋コンクリート造り、地上4階、地下1階建て、建築延床面積は8,038㎡となっています。地下に書庫、1階に学部・研究室事務室、ゼミ準備室、PCコーナー、食堂、コピー室、2・3階に大・中・小教室、情報教室、隣接する臨光館への渡り廊下にはラーニングテリア、自習室を備えた学習スペースが設けられています。渡り廊下からは、京都の夏の夜空を彩る五山送り火の大文字が見え、渡り廊下の外壁には、新島襄が遺した言葉「諸君ヨ、一人一人ハ大切ナリ」が刻まれています。



清心館は、設計を株式会社京都建築事務所、施工を株式会社ミラノ工務店がそれぞれ担当し、2002年3月に竣工しました。構造は鉄筋コンクリート造、地上2階建てで面積は739.38㎡の規模です。南門通路に沿った場所にあり、高校教室棟である尚志館とは渡り廊下で繋がっています。

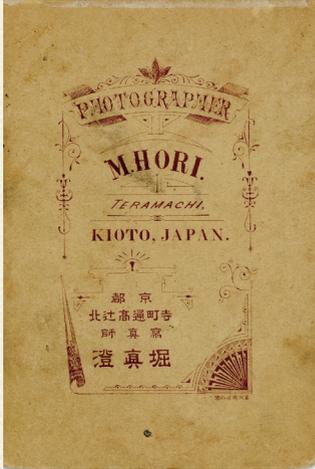
本校では2000年度より高等学校に国際コースが新設され、男子校から共学校になりましたが、さらに2002年4月から中学校が男女共学化されたことに伴い、中高完全共学化が実現しました。それに際して女子生徒の増加に備えるために建設されたのが清心館です。

建設当初は1階に中学校1年生専用の教員室、小教室があり、2階には二段式オートロック式ロッカーを配備した女子更衣室、付帯設備として洗面室やシャワー室などが配置されました。

その後、2011年4月に同志社香里創立60周年記念事業の一環として内装改修工事が行われ、1階に保健室、相談室などが整備され、2階には教職員休憩室が設置されました。

建物正面の窓は採光とプライバシーの確保を考慮したアーチ型となっており、窓からの景観は東側の森が森林浴の効果を与えてくれ、春には保健室から桜の花を眺めることもできます。また、建物近辺には果樹も植えられており、生徒の健康維持に資するとともにカウンセンシングや別室登校など生徒が安心して学校生活を送るための拠り所としての機能を担った建物となっています。

山岡家文書より
古写真「先生ト愛犬」



新島襄と犬（裏）



新島襄と犬（表）

「山岡家文書」とは、2025年2月7日に寄贈された、6460点の資料群を指す。

ここに登場する山岡家は、岸和田藩（現在の大阪府岸和田市）の上級藩士の家柄で、江戸末期から大正期までの当主である山岡尹方（ななかた）を中心に、その息子・邦三郎、娘・登茂と京、甥・田中兔毛と鈴木左馬次郎が初期の同志社に関係している（詳しくは第19回同志社ギャラリー企画展展示図録『近代の夜明けとキリスト教―岸和田と同志社』参照）。その交流を示す資料を8年かけて整理し、今春『山岡家文書目録』を刊行した（同志社大学学術リポジトリにて公開中）。私学と地域の関係性を紐解ききっかけとなる「山岡家文書」であるが、整理中にひとときわ目を引いた古写真があった。これまで新島襄と愛犬弁慶とされてきた写真のオリジナルである。それまで同志社には、写真の複製しか存在せず、オリジナルの所在や記載情報の有無が問題となっていた。早速確認してみたところ、裏面の印刷内容から京都の写真師堀真澄の名前入りの台紙が使用されていることがわかったが、他に情

報はない。被写体が新島と犬ということだけがわかる。

おそらくこの写真が最初に紹介されたのは新島の伝記と考えられる。新島の同僚 J. D. デイヴィスが 1891 年に出版した英語と日本語（村田勤・松浦政泰合訳）の伝記『新島襄先生伝』のうち、1903 年に補正再版した日本語の伝記『新島襄先生伝』（山本美越乃訳補）に、この写真が掲載された（142—143 頁の間に掲載）。写真のタイトルは「先生ト愛犬」である。

この写真が新島の愛犬弁慶と紹介した文献に『現代語で読む新島襄』（2000 年）がある。コラムの 1 つとして「10 愛犬」という記事があり（61 頁）、犬種がビーグルで名前が弁慶号と紹介されている。その根拠として中村栄助や鈴木彦馬の手紙が挙げられている。次のような内容である。

中村の場合、1887 年 1 月 10 日付の書簡の追伸にあたる箇所に「犬ハオトナシク致居候哉御申上候」（『新島襄全集』第 3 巻、436 頁）という一文だけが独立してある。新島が気持ちを寄せた犬がいたことはわかるが、新島の飼い犬か、中村の飼い犬か、判断できない。鈴木の場合は、同年 6 月 12 日付の手

紙に「小犬ベンケーヲ注意、門外ニ出サル様ニ、御バ、様ニ宜シ（ク）申上候」（同右、466 頁）とある。名前はカタカナである。

もう 1 点、コラムでは福土成豊宛新島八重書簡に「弁慶」という表現があることを指摘しているが、書簡全文及びその解説を見る限り、ここで言及している「弁慶」は犬ではなく歴史上の人物である。この手紙の受取人である福土本人が説明するには、新島の永眠を知って気が滅入ったところで「古武士の弁慶が如何なる事にも泣かなかったことを思ひ出し、我と心を取り直すために」、「弁慶は如何にせしや」と余白に書いたと説明している（根岸橋三郎『新島襄』警醒社、1923 年、188—189 頁）。

このように、資料を確認していくと、新島家でベンケー（漢字不明）と呼ばれた犬種不明の小犬を飼っていたことだけがわかる。さらなる事実関係を把握するために今後も資料調査を継続していく予定である。

（大学同志社社史資料センター）

※著者の所属・職名は執筆時のものです。

教育政策は、10年おきの学習指導要領の改訂を経て、大きく様変わりします。現行の学習指導要領は、児童生徒をより高次の自律的学習者に引き上げようとする「学びの個別最適化」を謳いあげ、個人・グループによる探究を軸とする「学びの深化（考え抜き）」と、学校と地域との協働・連携による教育提供（「学び超え」）によって、その具現化を目指すようにしています。こうした学習者を主語に政策体系を見直す機運が、教育実践の現場に十分浸透していません。事例も散見されず。

本書は、公教育供給をめぐる教育現場での受容の実態を検証した実証分析の結果をもとに、公教育の質の向上や学習機会の保障の観点から、政策変更の効果を評価し、公教育における運営・統制の改善の方向性について、公共経済学の分析枠組みを手掛かりに、筆者なりの見解を提示したものです。日々、政策・制度の変容に向き合う教育実践の現場にとって、教育供給の変容を現場がどのように受容し、どのような帰結を生んでいるのかといった、政策が教育供給主体に及ぼす影響の評価検証が重要であるにも関わらず、経済学の視点からそこに焦点をあてた理論実証分析の蓄積は乏しい状況にあります。本書は、そこを埋めるべく執筆されたものであり、教育政策の在り方について腰を据えて考えてみたい初学者の方に、まずは手にとっていただきたい内容となっています。

著者より



勤草書房
4,400円(税込)
刊行日 2024年10月20日

公教育における運営と統制の実証分析

田中 宏樹 (大学政策学部教授) 著



有斐閣
2,860円(税込)
刊行日 2024年12月10日

比較のなかの韓国政治

浅羽 祐樹 (大学グローバル地域文化学部教授) 著

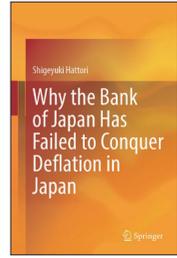
韓国政治を比較政治制度論のなかに位置づけた概説書である。憲法、大統領制、議会制度、選挙制度、政党システム、司法制度、中央・地方関係、メディア、社会運動、ジェンダー、階級、外交安保、国民/民族、政治経済を網羅した、韓国という「国のかたち」「憲政史」に関する「取扱説明書」である。特に、大法院（最高裁判所）と憲法裁判所という「2つの司法」について司法政治論の観点から分析し、その「注釈書」「判例集」を提供した。

「比較政治学者のS・M・リップセットは「ひとつの国しか知らない」ということはその国についても何も知らないということと同じことである(Those who know only one country know no country)」という警句を残した。韓国について単一事例研究をおこなう場合でも、多国間比較や時系列比較といった比較の枠組みのなかに位置づけることで初めて、その事例の特異性や一般性が明らかになるということである。(324頁)

「ときに「不可解に」映る言動も、その世界の人々にとってはそれなりに「合理的」である。地域研究の使命と醍醐味は、そうした地域特有の「現地語」と、アカデミアの「普通語」さらには一般読者の「日常語」のあいだで「翻訳・通訳」を務めること」(327頁)である。

「現代政治特講義3（現代韓国政治）（大学法学部）の講義録（2022年度・23年度）が土台になっている。教育、研究、アウトリーチのあいだで「翻訳・通訳」を続けていきたい。

著者より



Springer
15,729円(税込)
刊行日 2024年12月20日

**Why the Bank of Japan
Has Failed to Conquer
Deflation in Japan**

はっとり しげゆき
服部 茂幸 (大学商学部教授) 著

1990年代初めにバブルが崩壊した後、日本経済は今に至る長期停滞に陥っている。ベン・バーナンキ氏、ポール・クルーグマン氏など世界的にも著名な経済学者も巻き込んで、大きな議論となったのが日銀の金融政策だった。日本では、リフレ派が日銀が金融緩和によって、デフレを解決すれば、日本経済は復活すると主張した。2013年には安倍晋三首相の下で、黒田日銀がデフレ脱却を目指して金融政策を実施した。本書は黒田日銀の歴史的な失敗の必然性を理論的に明らかにするものである。

本書はまずカレツキの物価理論と計量分析によって、日本の消費者物価を動かしているのは金融政策ではなく、コスト、特に輸入物価であることを明らかにした。ただし、輸入物価が上昇すると、実質で賃金と所得が目減りし、消費が停滞する。2013年から日銀副総裁を務めていた岩田規久男氏はマネタリーベースを増加させれば、インフレ予想を上昇させることができると主張していた。この主張にも理論、実証の両面で根拠がないことを明らかにした。

黒田日銀は金融政策の力では、デフレ脱却をはたせなかったが、2022年から輸入物価が高騰し、その後、賃金が増えたと、物価上昇率は一時は4%を超えた。ところが、今、国民は物価上昇により賃金と所得が目減りして苦しんでいる。こうした結果は本書の主張を裏付けている。黒田日銀の歴史的失敗から何を学ぶのかを経済学は問われている。本書がこの課題に答えられたかどうかの判断は読者の皆様に委ねたい。

著者より



青弓社
2,640円(税込)
刊行日 2024年12月25日

図書館を学問に

なぜ図書館の本棚はこうなっているのか

佐藤翔 (大学図書館学センター教授) 著

「Q. なぜ図書館の本棚はいつばいにならないのか。」「A. 図書館は本を買うだけではなく捨ててもいいからです。ただし日本の公共図書館全体では年間1600万〜2000万冊の本を受け入れているのに、捨てているのは年間700〜1000万冊と捨てるペースが間に合っていない、今のままなら短く見積もって27年後には図書館はパンクします。」

「Q. 図書館の本棚、下の方の段で見づらいと思うのだが、どこに置いてあるかで使われやすさは変わらないのか。」「A. 使われやすさがどれくらい変わるかは検証中ですが、見られやすさには段によって著しい差があります。視線追尾装置を使って実験したところ、6〜7段の本棚であれば上から4段目くらいまでに視線の9割前後が集中しています。最下段が見られることはめったにないのでも、もし最下段に自著が置かれていたら、こそり上の段に入れ替えてしまっでは？」

実際には質問も、回答にあたる部分ももっと長いのですが、本書のエッセンスを濃縮するとこのような感じになります。図書館に関する14の素朴な疑問に実証的なアプローチで挑み、答えられたり失敗したりする図書館学者のありのままの姿を綴りました。素敵な表紙のおかげもあってか、おかげさまで同業者や図書館に限らず、本好き・読書好きの方等にも多く手に取っていただけているようです。その他の12の疑問も気になるという方は、ぜひ買ったり、図書館で借りたりして見ていただければ幸いです！

著者より



春風社
2,970円(税込)
刊行日 2024年12月25日

英国女性ガーデナー物語

白井 雅美 (大学文学部教授) 著

イギリスにおいて女性とガーデナーには長い歴史があるにも関わら

ず、女性とガーデナーという職業に関して歴史は短い。女性ガーデナーの誕生は、女性の高等教育への門戸開放、女性参政権運動、そして女性の専門職への参入と同じ時期に起こった。それは、ジェンダーと階級との対峙だったのである。

最初に、ギリシャ・ローマ神話から、中世修道院の庭園と女性、荘園領主の庭園に関わった女主人と女性労働者から、一八世紀における女性の自然科学への目覚めまでを紹介する。その上で、一九世紀から二〇世紀にかけて発展した女性とガーデナーとの関係を、園芸学の流行、植物学の発展、植物画家の誕生、そして園芸雑誌の刊行とガーデナー作家という点から論じている。そこには、アーツ・アンド・クラフツ運動の流行と、そこから生まれたコテージガーデニングのデザイン、ガートルード・ジーギルという女性ガーデナーの活躍があった。また、二〇世紀初めから女性高等教育の場としての園芸学校が創設され始め、中流階級の女性の間で園芸学が人気となり、園芸教育の基礎ができた。園芸学校は、ガーデニング指導、苗木栽培、品種改良、造園作業、生産物の販売、ガーデナーの監督と指導、そして経営を総合的に学ぶ場であった。また、第一次世界大戦と第二次世界大戦中には、ウイメンズ・ランド・アミーが結成されて、若い女性たちが農業に従事する銃後の守りが組織化され、戦後も女性が農業や園芸に従事する可能性を広げた。また、一般家庭のガーデニングから公園地帯の景観設計にまで、女性ガーデナーが活躍し始めた。さらに、ガーデニングセラピィが再評価され、人種および民族、性的指向の多様性を表象する女性ヘッダガーデナーたちが活躍するようになった。

英国の女性ガーデナーの誕生秘話を、ガーデニングが一般的な趣味となつた現代において、ぜひ知っていただきたい。

著者より



青土社
2,860円(税込)
刊行日 2024年12月30日

刑務所に回復共同体をつくる

毛利 真弓 (大学心理学部教授) 著

本書は筆者が心理職として勤めた刑務所の話ですが、テーマは「本当の気持ち話を話す」ことと、「その場をつくること」の大事さです。誰しも心に傷を負う体験や気持ちを聴いてもらえなかったことはあるでしょう。しかし加害行為をした人と接していて思ったことは、彼らは声を聴いてもらうチャンスが幼い頃からことごとく失い、本当の気持ちを話して良いと教えてもらう体験が極端に少なかった人たちだということでした。罪を犯したことは本人の責任だとしても、今度は刑務所の中で「犯罪者」として再び抑圧され、説教をされ、声を出す機会を奪われ続けま

す。そうして、自他を傷つけるのではなく本当の気持ちに気が付き、言葉で伝え、喧嘩したら仲直りし、相手を赦し自分の欠点も赦すという学習の機会を失っていく負の連鎖が生じていました。そんな中では、人は自分のしたこと本当に向きあうことはできません。加えて、声を聴くはずの支援職もまた、その組織構造に吞まれ自身の声も出せなくなっていく現実もありました。

舞台は2008年10月に開所した官民協働刑務所「島根あさひ社会復帰促進センター」のT.C (Therapeutic Community: 回復共同体) ユニットで、刑務所の中で「対話の場」を立ち上げるまでを書きました。場所は違えど、エピソードの中には「そういう暴力的な関わりや沈黙を強いる雰囲気ってどこにも転がっている」と思っていただけのものもあると思います。世界全体を変えられなくても、まずは自分や自分の周りの人が、安心・安全に本当の気持ちを話せるようになるには何が必要なのか、本書を通じて一緒に考えていただけたら嬉しいです。

著者より



池田書店
1,760円(税込)
刊行日 2025年1月25日

糖と脂で体は壊れる

米井 嘉一 (よしかず) 著
大学生命医科学部教授

この作品は、私たちの主要研究テーマである糖化ストレス(GS)について、最新の研究成果を一般向けにわかりやすく紹介することを目的に執筆しました。昔前のコマシャル「おいしい物は糖と脂でできている」のインパクトの大きさにあやかっ、過激なタイトルにしました。お陰様で、これまで執筆した本の中でもっとも売れているようです。はじめに酸化と糖化について、生体防御の立場から説明します。酸化ストレス防御にはSOD、カララーゼ、ペロキシダーゼが、GS防御にはアルデヒド脱水素酵素(GAPDHを含む)、グリオキサラゼが備わっています。肝臓や腎臓は、細胞質内蛋白の20%以上をこれらの酵素が占めており、GSから身体を守る守護神として働いています。GSは、アルデヒド過剰によって血液中や細胞内外の蛋白質を終末糖化産物(AGEs)に変えることで、身体に様々な病的変化を起こします。きっかけは食後高血糖(血糖値スパイク)で、続いて連鎖反動的に多種類の糖質由来アルデヒドが産生されます。高脂肪食やメタボリックシンドロームによって血中の脂肪酸濃度が高まると、脂肪酸由来アルデヒドがこの連鎖反応に加わるので、まさに「糖と脂がダブルパンチで身体を蝕む!」のです。研究成果は科学誌「Nature」からも注目され、記事は紙面(2025年3月13日号)及びWEB(<https://www.nature.com/articles/d42473-024-00416-5>)でも紹介されました。

著者より



講談社
3,080円(税込)
刊行日 2025年1月28日

コンピュータとネットワーク

土屋 誠司 (つちや せいじ) 著
大学理工学部教授

本書は、理系の専門家だけでなく、新しい教養として老若男女が知っておくべきコンピュータとネットワークについて書いています。大学生だけでなく高校生、リカレント教育としての社会人にも、文系理系を問わず多くの方が「本質」を理解できるよう、身近な例を挙げながら解説し、概念として捉えられる工夫をしています。国家試験・資格であるITパスポートや基本情報技術者試験の補助教材としてもご利用いただけます。

情報技術の内容に幼少期から触れることで抵抗感を減らし、誰もがごく自然に理解している状況としたいと考え、2018年度に人工知能工学研究センターを立ち上げ、人工知能ならびに関連する情報技術の研究と普及・啓蒙活動を行っています。その中で、小学低学年から読める「AI時代を生き抜くプログラミングの思考が身につくシリーズ①〜⑨」、小学高学年以上を対象とした「はじめてのAI」、中学生以上を対象とした「NASAのロボット蜂・偉大な発明でたどるロボティクスとAIの歴史」、高校において2022年度から開始の新科目「情報I」、「情報II」に準拠した「身近なモノやサービスから学ぶ「情報」教室シリーズ①〜⑤」も出版してきました。

物事の「本質」と「基本」を理解しさえしていれば、今後も進む情報化の波に飲み込まれることはないと思います。本書を通じて、新しい教養である情報技術を楽しみながら理解し、身につけていただきたいと思います。

著者より



岩波書店
3,740円(税込)
刊行日 2025年1月29日

精神保健福祉法入門

大谷 實 著
第17代総長 著

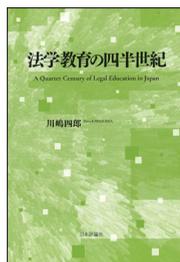
前同志社総長の著者は、昨年に卒寿を迎えられた。研究活動は継続しておられて、「刑法講義総論新版」の第6版を今年の3月に刊行されている。

本書は、永年にわたって著者が取り組まれてきた精神保健福祉法（以下、同法と略す）の入門書である。同法は、1950年に制定された精神衛生法が、1987年に改正されて精神保健法となり、さらに1995年に福祉政策が組み込まれ、精神保健福祉法となっており、さらに1995年に同法は数次の改正が行われ、令和4年にも大きな改正が施されている。そのためか、同法は理解がかなり困難なものになっている。同法の解説については、大部な逐条解説書はあるが、法律学の観点からの解説は、著者による「新版精神保健福祉法講義」が刊行されていただけであった。そこで、令和4年の同法大改正を受けて、新たに入門書として上梓されたのが本書である。

我が国において、精神疾患を有する者の数は、600万人を超えており、その中には、薬物・アルコールの依存症や認知症、統合失調症など、その治療が大きな課題となっているものが含まれている。本書のあとがきに示されている著者の願いは、「一般の人や精神障害者及びその家族の方々にも改正法を広く理解してもらいたい」というものである。

本書では、難解な同法について、その歴史から、法令の趣旨・内容・最新の法改正状況が、簡にして要を得た明快な表現で説明されている。本書の帯に「類書なき基礎読本」とされている所以である。門下生として、素晴らしい道案内の書が誕生したことにより感謝を申し上げたい。

川本哲郎（元法学部教授）



日本評論社
9,570円(税込)
刊行日 2025年1月30日

法学教育の四半世紀

ある「鎮魂歌」

川嶋 四郎 著
（元法学部教授） 著

この四半世紀は、大学や学問の世界にとって受難の時代でした。それは現在も続いています。本書は、前任校（九州大学）で法科大学院の創設に深く関わり、多くの法学部・法科大学院等で法学教育・法曹養成教育等を実践し、そして研究者を育成してきた経験から、そのプロセスをいわば一次資料を用いた論考の形式で残すことを試みたものです。友人の研究者たちへ出版を勧められたものであり、書下しも含めてまとめました。

この激動期に亡くなった友人たちのことも想起せざるを得ませんでしたので、本書はある意味レクイエムでもあります。

今世紀初頭から始まった司法制度改革は、単に司法制度の改善だけではなく、プロセスを通じた法曹養成を主眼に、法科大学院制度も創設しました。それと同時に、法学教育等にも多大な影響（悪影響も含む）をもたらすことになりました。本書では、国立大学の疲弊を招来させてしまった法人化問題を背景に、学問・学術の世界に政治権力が介入することの恐ろしさをクローズアップさせた日本学術会議会員任命拒否問題（そして、それを糊塗するために現学術会議の解体を企図する新法案の制定過程の問題）を近景に、現在の大学・大学院・法科大学院における課題とその解決方法（実は存在する特效薬！副作用なし！）について様々な角度から論じています。

私は、かつて、『アメリカ・ロースクール教育論考』（弘文堂、2009年）を公刊する機会を得ましたが、これからも、ささやかながらも希望を抱きつつ、「人のために法を生かす人材の育成プロセス」を、研究し実践し続けたいと考えています。

著者より



春風社
5,280円(税込)
刊行日 2025年2月14日

幸田露伴の「知」の世界

西川 貴子 (たの あつこ)
大学文学部教授 著

学生時代に偶然、幸田露伴の随想「沙糖」を読んだのが私と露伴との出会いだっただけ。そこでは日本に砂糖が入ってきたのはいつかという問いを端緒に、白糖や甘蔗等が記載された文献の数々が披瀝され考察されていた。砂糖という身近なものから話が広がり、時代も場所も性質も異なる様々な書の逸話が結びつけられていく様が魅力的だった。それは何かにすぐ役立つような知識ではなかったが、砂糖からここまで世界が広がるのか!という驚きや、どんなありふれたものにも背後にはたくさん物語があり、また見方によって「もの」の価値は変わると教えてくれた。本書はその時、私が感じた衝撃を出発点にしている。

慶応三年に生まれ、明治二〇年代から昭和二二年まで文筆活動を続けた露伴は、同世代の夏目漱石が国家の教育制度に則り進学したのとは異なり、中学校中退後、電信技手となるものの、突如、職を捨て、その後文筆活動を行ったという経歴を持つ。露伴の「知」は、アカデミズムの枠内で培われたものではなく、ほぼ独学を基盤としており、その内実が掴みにくい。露伴のテキストが難しそうだと敬遠されがちなのも、古今東西の書、同時代の話題、議論など膨大な多種多様のテキストが取り入れられて成立していることに起因しているだろう。しかし、テキストを丹念に読み解いていくと、一つの思考のパターンにとらわれない露伴の「知」のあり様が、近代日本の中でも特異なあり方が見えてくる。本書を契機に一人でも多くの人が露伴の作品に興味を持って読んでくれば幸いです。

著者より



現代書館
6,050円(税込)
刊行日 2025年2月20日

知的障害者の施設解体の試み

障害者自立支援法制定期における自立規範の変容と再編

鈴木良 (すずき りょう)
大学社会学部教授 著

現代社会には、自立能力が達成されたときに社会一般と同等の生活条件が得られるが、達成されないときには得られないという規範があります。この自立規範によって、日本では、未だに多くの知的障害者が地域から離れた入所施設での集団生活を余儀なくされる現実があります。入所施設から地域生活への移行を目指す施設化の取り組みは、世界と同様、日本でも行われてきました。しかしこれは、施設閉鎖を目標にするのではなく、維持するかたちで行われてきました。2016年7月26日に神奈川県相模原市で起きた障害者施設殺傷事件後の津久井やまゆり園(知的障害者入所施設)の生活再建築でも、施設居住者とその家族の大多数は、施設生活を引き続き選択しました。2022年8月に行われた国連障害者権利委員会による初回の対日審査では、施設化が停滞する日本の状況が厳しく批判されています。

こうした中で、知的障害者の入所施設を閉鎖して、地域のグループホームなどへ完全移行する社会福祉法人が近年、現れてきました。本書は、2000年代初期の障害者自立支援法制定期の歴史的・制度的構造において、どのように入所施設の閉鎖が行われ、この結果、施設を規定する自立規範はどのように変容し、再編されたのかを、北海道におけるM町の社会福祉法人による施設解体プロジェクトを丹念に調査したフィールドワークから明らかにしたものです。

当法人を対象とした研究成果は、今後の日本における施設化政策を進める上での有益な考え方や方法論を提供できるでしょう。

著者より

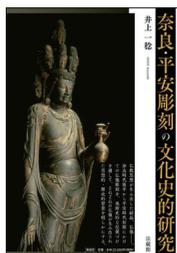


和泉書院
12,100円(税込)
刊行日 2025年2月20日
研究叢書576

和漢混淆文の成立と展開
藤井俊博 (ふじい しゅんろく)
著 (大学文学部教授)

本書では、中世の覚一本『平家物語』を典型とする和漢混淆文の歴史について、翻読語の観点から明らかにした。分析の手法として、翻読語の中でも特に漢語特有の語構成である同義字の結合(連文)の漢語を翻訳した複合動詞に着目し、これによって各時代の文体を辿った。『万葉集』では、連文の漢語による翻読語を悉皆的に調査し「見れど飽かず(飽き足らず)」「春されば(春さり来れば)」など人麻呂作とされる有名な表現に漢詩文の影響があることを指摘した。中古になると一般には和文とされている「源氏物語」においても、正史や特に『白氏文集』の用語が和らげて多く取り入れられていることを指摘した。有名な冒頭の「いづれの御時にか」という表現が漢詩の「何時」の翻読語であると指摘したのもこれまでに気づかれていない観点からの指摘である。『打聞集』では、翻読語の知識が漢字表記に現れることを指摘した。これは本学の授業で学生と共に本作品を読んだ成果を含んでいる。「今昔物語集」では、この種の翻読語が多く、「かなしびたふとぶ」のような翻読語擬きの独自の複合動詞まで生じていると指摘した。これらの流れの集大成となるのが、中世の覚一本『平家物語』である。覚一本『平家物語』では、延慶本『平家物語』に多い記録語的な翻読語「いできたる」を避ける一方、「おしはかられてあはれなり」「をめきさげびてせめたたかふ」などが見え、和語的な語句による文学的表現に高められた翻読語が使用されていることを指摘した。古典文学の文体の歴史を新たな観点から捉え直す一書である。

著者より



法蔵館
24,200円(税込)
刊行日 2025年2月28日

奈良・平安彫刻の文化史的研究
井上一穂 (いのうえ かずこ)
著 (大学文学部教授)

「形と心」——魅力的な視角だと今も思っている。この視角を意識したのは、同志社大学に入学して間もなくの頃。本学文学部に文化史学専攻を設ける中心となった石田一良氏の『形と心 日本美術史入門』に出会ったからであった。奇しくもこの本は私の入学年一九七五年に芸艸堂から出版された。拙著のタイトルに「文化史的研究」と名付けた真意は、この視角にある。

美術作品における形と心、どちらが先か? 答えは、心の方が先であることは明らかだろう。しかし仏像研究において心と形を先に研究すると形がおろそかになる。心は、形にしか宿らないのだから、まず形を丁寧に捉えなければならぬ。幸いにして、学芸員として博物館で過ごした二〇年弱のあいだに、仏像を細部まで調査する機会に恵まれ、作品研究の基礎を築くことができた。本書は、筆者在形と心とを求め続けた記録である。

内容は二部構成で、I部は奈良時代をあつかい、戒律文化に関する仏像として鑑真和尚の肖像や和上が造らせた唐招提寺木彫群、古密教の観音菩薩像として聖林寺十一面観音立像や石山寺如意輪観音半跏像などの考察からなる。II部は平安時代初期の天台・真言密教の仏像をあつかい、神護寺薬師如来立像、向源寺(渡岸寺)観音堂十一面観音立像一表紙写真一、観心寺如意輪観音坐像 新出の福知山市観音寺不動明王立像などの名品をとりあげている。

なお本書は、同志社大学研究成果刊行助成を受けて世に出ることができた。本学に甚深い感謝を表したい。

著者より



中央経済社
4,290円(税込)
刊行日 2025年4月20日

財務会計の思考法
田口 聡志 (たぐち さとし) 著
（大学商学部教授）

本書は、ますます複雑で混沌とする現行の企業会計を読み解くために、その背後にある会計理論は何かという点に焦点を置き、様々な考え方を相対化しつつ紐解いていくことを目的としたものである。

本書の基本コンセプトは、「自分の頭で考える」「仕訳で考える」「行間を埋める」という3つである。第1の「自分の頭で考える」については、複雑で混沌とする（そして変化の早い）会計制度と正しく向き合うには、それを無批判に受け入れる（条文や会計処理の丸暗記をする）のではなく、その背後にある「考え方」はなにかということを、自分の頭で、そして他の考え方の相対化のなかで捉える必要がある。

第2の「仕訳で考える」について、本書は、「考える」ツールとして、仕訳を重視する。仕訳は、しばしば「会計の屈辱さ」の元凶のように捉えられることがあるが、しかしこれは誤解である。仕訳は、会計理論を相対化し「考える」ために有益なツールであり、仕訳を考え比較することで、理論に対するより深い理解が得られる。

第3の「行間を埋める」について、本書は、行間を埋める丁寧な説明を心がけた。たとえば、欧米の会計科目のテキストは得てして分厚いが、行間を埋めるような丁寧な解説がなされているのが特徴であるし、思えば、筆者が会計学を勉強し始めた頃、当時の日本語の「テキスト」も得てして分厚かった。もちろん時代は変わり、eラーニングで調べれば便利で手軽な情報は入手できる。しかし、読者には、本書と「対話」しながら、考え悩み、ゆっくりと読み進めてほしいし、かつそのことを意識して、本書は書かれている。

著者より



鳥影社
1,980円(税込)
刊行日 2025年6月14日

石川能登
里山里海の観光復興
山上 徹 (やまじょう てる) 著
（女子大学現代社会学部名誉教授）

2024（令和6）年元日、能登に「千年に一度」の大地震が襲った。被災地・奥能登は人口減少が激しく、消滅するとも危惧されています。

本書は15章、404頁で編成され、5章までの前半では、能登の地理的風土、風習、北前船の交易、世界農業遺産、ユネスコ無形文化遺産等を解説しています。例えば、「能登はやさしくや土までも」と、それは昔から貧しくとも人情味豊かな人が能登に多く、旅人に優しい風土を意味します。また、祭では、一見の観光客でも親戚と同じようにもてなす「ヨバレ」という風習があります。さらに、義理の親子関係を結ぶ「よぼし親制度」が能登にあり、本書ではそれを能登の関係人口の増加策として活用することを提唱しています。

一方、6章では能登への起終点の金沢駅舎は新幹線開業により、雨の多い金沢ゆえに乗客に傘を差し出すかの如く「もてなしドーム」が建っています。「伝統と革新」では金沢と京都は遜色ないと云えます。

しかし、7章以降、日本で初めて世界農業遺産「里山里海」に認定された能登の9市町の観光資源は京都と比較して知名度で雲泥の差があり、能登には超一級の有形な遺産もありません。能登には里山里海の原因、豊かさ食文化、京都の祭礼の流れをくむ祭、無形文化遺産の年中行事、伝統工芸のワザが凝縮して高密度に残っています。それゆえ、能登固有の観光力「光Ⅱ宝」を発掘し、体験型の「する観光」へと、磨き上げる必要性を提案しています。

以上、本書では能登の震災前の観光は「待ちの観光」が主流となっていました。しかし、震災から能登が復興するには「攻めの観光」への戦略転換が必要なことを提起した書です。

著者より



同志社カレッジ・ソング 解説

同志社女子大学名誉教授

こだま さねひで
児玉 実英

同志社カレッジ・ソングは、新島精神を源流とする「同志社精神」を、力強く、また典雅に、うたいあげています。実は、その英語の歌詩には、ウィリアム・M・ヴォーリズがこれを書いた1908年頃の英米の詩人たちがよく心得ていた伝統的な詩語が使われていたり、修辭法がふまえられたりしているのです。また当時、英語文化圏の多くの人たちが手にしていた英訳聖書の影響も見られます。カレッジ・ソングの歌詩の文法的な説明とともに、英語の歴史や、英米詩の流れの中で見るといふ視点などもおりまぜて、解説してみたいと思います。

第1連の解説

最初の4行から読んでみましょう。

One purpose, Doshisha, thy name

Doth signify one lofty aim;

To train thy sons in heart and hand

To live for God and Native Land.

1行目の Doshisha は、呼びかけで、「同志社よ」といっています。次にくる thy name は、「この文章の主語です。「汝の名は」という意味です。thy は代名詞 your の古い形。16世紀ぐらいの英語の歴史の中で、よく使われてきました。ここでも、古風で典雅な雰囲気や詩全体に漂わせるように使われています。いわゆる詩語 (poetic diction) として用いられています。同時に thy name は、「Hallowed be thy name” (AV, Matt, 6, ix 欽定訳聖書)「御名があがめられますように」(マタイによる福音書6章9節)という有名な主の祈りの一節を想起させます。それによってキリスト教的な含みを感じさせています。

動詞は Doth signify じゃ。Doth は、助動詞 do の3人

Doshisha College Song

Words by W.M. Vories
Music by Carl Wilhelm

1.
One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!
2.
We came to Doshisha to find
The broader culture of the mind;
We tarried here to learn anew
The value of a purpose true;
Dear Alma Mater, ours the part
To face the future staunch of heart,
Since thou hast taught us with high aim to stand
For God, for Doshisha, and Native Land!
3.
When war clouds bring their dark alarms,
Ten thousand patriots rush to arms,
But we would through long years of peace
Our Country's name and fame increase.
Dear Alma Mater, sons of thine
Will hold their lives a trust divine.
Steadfast in purpose we will ever stand
For God, for Doshisha, and Native Land!
4.
Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!

同志社 校歌

(児玉 実英 訳)

1.
同志社よ、その名は一つの目的を意味する
その学徒の精神的、肉体的に
神のため、祖国のため
生きんという、一つの崇高な目的を。
親愛なる母校よ。同志社の学徒は
ぶどうの枝のごとく連りゆくであろう。
たとえ世界くまなく、広くはるかに
われらさまようとも、汝の教訓は
われわれの心に、とわに生き続けるであろう。
2.
われわれが同志社にきたのは、
心のより広き糧を求めてだ。
われわれは真の目的の価値を
新たなる意味において学ぼうとし
ここにとどまった。
親愛なる母校よ。われわれのつとめは
堅い心をもって未来に立ち向かうことである。
なぜなら同志社は、
神のため、同志社のため、また祖国のために
高い目的をもって、立てよと、
われわれに教えてきたからである。
3.
戦雲がその陰悪な動向を示すとき、
いく千の愛国者は武器をもってはせ参ずる。
しかしわれわれは
久しきにわたる平和の年月のうちに
祖国の名と名声を
いやましにしたいと思う。
親愛なる母校よ。その学徒は
その生涯をとおし、
神を信頼し続けて、歩むことであろう。
確固不動の目的をもってわれわれは
たえず神のため、同志社のため、
また祖国のために立たんとするものである。
4.
われわれが生まれた国よりも、
さらに広い世界といえども、
それは、一つであることを
われわれは学んだ。
自己愛よりもいや高き人類愛と
奉仕の精神を、われわれは会得する。
親愛なる母校よ。その学徒は
聖なる生涯を送らんがため
励もうとしている。
重ねゆく年とともに
神のため、同志社のため、同胞のため
かえりみて悔いながらんがために。

称単数現在形 *does* の古い形です。ここでは、強調語として使われています。「意味するのである」といったところでしょうか。

目的語は、冒頭の *One purpose* 「ひとつの目的、志」です。とくに強調するために、語順を変え、弱強調 (*iambic*) のリズムもこわし、目的語を文頭にもってきています。英詩でよく使う手法です。ここでは短くいい尽くせていないので、改めて2行目で *one lofty aim* 「ひとつの高尚な目的」といいなおして補い、それを動詞の後の所定の位置に置いています。

One purpose には、もうひとつ特別な意味が含まれています。「同志社の性格は、その名のワンパーパスです。そこに詩想の根拠をおいて書き続けました」(『同志社タイムス』一九二五年二月二八日、二ページ) というヴォーリズのことばから浮かび上がってくるのですが、彼の理解では、同志社の基本的性格は、「その名」のとおり「同じ志」であり、それがワンパーパスに含まれた意味だということです。つまり、ワンパーパスには、確固不動の一つの目的に向かって、決意をもって立ち向かう同じ志の人たちの姿勢が含まれている、ということなのです。この作詩者の意図は、尊重されてよいと思われれます。

(付記)

なお *aim* は *purpose* と同じように「目的」という意味ですが、距離感が違います。「ねらい」を定めて達成可能なほど近いところにある「目標」といったニュアンスです。だから *lofty aim* は、パラドックス的表現です。「高尚な」「目標」は一見矛盾しているようにみえるけれども、実は一つの真理をさし示している、という表現です。高尚な目的は遠くにあるように見えるが、実は近い所にあるといったニュアンスでしょう。ただ、このようなニュアンスや、先ほどのような意味の重層は、残念ながら、翻訳は困難というより、不可能です。

2行目の終わりのセミコロンは、現在のスタイルシートでは、コロン：を用いるところでしょう。「すなわち」といった意味で使われています。ですから、3行目から4行目にかけて、*To gain* 以下は、高尚なる目的とはなにか、すなわち、と次にさらに具体的に書いていくわけです。

train は動詞で「訓練する、育成する、はぐくむ」。*train* の *to* は、スクール・グラマーという不定詞で、ここでは「～すること」といいかえればよいでしょう。

sons は *son* 「息子」あるいは「息子のような関係の者」の複数形ですが、複数形の *sons* は、しばしば男女を問わ

ず「子どもたち」、「子孫」を指します。例えば、the sons of Abraham といえば、「アブラハムの子孫」です。ここでは、thy sons であり、thy は「同志社の」の意味ですから、thy sons は当然「同志社で学んでいる、あるいは、学んだ人たち」、つまり男も女も含めて「同志社の学徒たち」を指すといっただけでしょう。

(付記)

1980年代から90年代にかけて、sons には女性が含まれないから、sons をやめて、かわりに heirs (相続人) に変更したらよい、という主張がありました。しかし、以上のようなわけで、その必要はありません。逆に heirs には、heirness という女性形があり、heir は基本的に男性を想定していることばと考えられていますから、問題の解決策としては不適切と思われます。

in heart and hand は「心も手も」ですが、「精神的にも肉体的にも」「心もからだも、全身全霊」の意とった方がよいでしょう。hand は通常「腕」ではなく手首から先の「手」ですが、西洋ではしばしば hand は修辭的に使われます。ここでは、「一部でもって全体を表わす」というシネクドキー synecdoche として使われている、と見てよいでしょう。したがって、手は「肉体」を意味してい

ます。実はそういう表現方法は、日本でも「提喻法」といわれていて、日常的にも使われています。たとえば、自動車のことをクルマというのが、それにあたります。なお、ヴォーリズがアメリカで主事をつとめていた Y M C A、近江八幡に設立した日本の Y M C A の逆三角形の略章は、spirit, mind, body を示しますが、ここで body とせず hand とした今ひとつの理由は、次行の Land と韻をあわすため、と思われまゝ。しかし、ここで見落としてはいけないのは、hand には、もう一つ、別の意味が内包されているということ。それは、「技術」とか「技芸」といった含みです。

4行目 To live の to は、先ほどもありました不定詞ですが、ここでは目的をあらわすととり、to live は「生きるため、生きるように」と。そして for God and Native Land 「神のため、祖国のため」と続きます。大文字の G で始まる God は、いうまでもなくキリスト教の神をさします。

Native Land 「祖国」は、即「日本」ととつてもよいと思う人もあると思いますが、作詩者ヴォーリズの意図としては、もっと広く、普遍的に、世界の国々の人にとつての祖国を含めたもの、というニュアンスで使っていたと思

われます。その理由は、ひとつには、19世紀の欧米では、ネオプラトニズムの思想が底流にあり、ヴォーリスもその流れの中にあつた、と思われるからです。その証拠に、頭文字をNとIという大文字を使っていますが、それはネオプラトニズムの慣例にならって、イデアとしての祖国という意味を示すためです。つまり、具体的な個々の祖国ではなく、これは観念としての祖国であることを示そうとしているのでしよう。でも、もうひとつの大切なことは、ヴォーリスが当時日本だけでなく欧米各国において「祖国」ということが国粹主義的傾向をはらみ始め、それが排外的で危険な思想につながると見ていたことでしょう。彼は国家主義とかかわりのない純粹な姿の「祖国」を思い描いていたと思われます。それは新島精神とつながるものです。ここまでの部分の大意は、散文的な訳ですが次のようになります。

同志社よ、その名はひとつの目的を意味しているのだからある。

その生徒を、精神的、身体的に導き

神のため祖国のために生きていくように願うという

ひとつの崇高な目的を。

次の4行の解説に移ります。

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!

Dear Alma Mater は「親愛なる母校よ」という呼びかけです。もともと alma (アルマ) はラテン語で almus (アルムス) という形容詞の女性形。意味は「養育してくれた、やさしい、親切な」。mater (マター) もラテン語で「母」。したがってアルマ・マター (英語よみ) は「養育してくれた母」、転じて「母校」。

sons of thine の thine [daun] は thou 「汝」の所有格、つまり yours の古い形。いくつかの意味があります。ひとつは「汝のもの」。もうひとつは thy と同じ「汝の」ですが、次にくることはが母音で始まるときに使います。ここでは of をともない of thine で、雅語的に thy と同じ「汝の」の意。つまり「同志社の」です。似ているような言い方ですが father of thine といえば、「汝の父」の意です。sons は「学生、生徒たち、学徒たち」。shall be 「(きっと) なるであろう」。語り手の強い願望、というより決意がこめられた表現です。

as branches to the vine 「ぶどうの枝がその幹につながるように」。5行目から6行目の大意は、「親愛なる母校よ、汝の学徒はぶどうの枝のように母校につながりゆき、豊かな実を結んでゆくことだろう」。このぶどうの枝の比喻は、有名な聖書のことばが下敷きになっています。

I am the vine, ye are the branches. (AV, John, 15, v)

わたしはぶどうの木、あなたがたは、その枝である。(ヨハネによる福音書15章5節)

このことばの前後の文脈をたどると、ぶどうの枝がその幹につながっていれば、その枝には豊かにぶどうが実る。そのように人々もキリストにつながっていれば豊かな生をえられる。そういった含みが、この歌詩の奥に二重うつつになっているのです。翻訳では、そのような二重うつつは残念ながら、うまく移しだせません。

(付記一)

聖書を含め古典などにたいし、暗に言及して意味の層をふくらませる手法は、西洋修辞法でアリユージョン allusion (引喩) といえます。先ほどの thy name も Hallowed be thy name のアリユージョンと見てよいでしょう。ちなみに、日本文学にもこれに似た技法が

あります。短歌の「本歌どり」は、この一種です。

(付記二)

この2行の韻のふみかたは、注目に値します。sons of thine と vine と韻をあわせていますが、意味の上でつながりのあることばで韻をふんでいくのは、一種の超絶技法です。押韻された2つのことばを並べるだけでなくこのイメージを浮かび上がらせることができるからです。第2連の anew と true。第3連の alarms と arms, peace と increase, name と fame など、押韻で有名なアレクサンダー・ポープには及ばないとしても、かなり高度な技術を意識して書いていると思われまします。しかしヴォーリスのすぐれているところは、その技術をあまリ目立たないように、run-on lines—詩の意味や構文が行末をこえて続くこと—などを使い、巧みに伏せている点です。『花伝書』の「秘すれば花」と同じ心です。

第1連最後の2行へと続きます。最終行の文頭 Sit は副詞で、「これから先もなお、この後もずっと」。想像以上に長く続くというニュアンスがあります。Tho' は Thought の省略形。ここでは even though 「たとえ……とも」の意。through the world は、文字どおり「世界中」、世界へまなく。wander [wɪndə] 「歩みまわす」。far and wide 「遠

くまた広く」。主語は *thy precepts* 「汝の教訓」です。複数形に注意。「汝」は同志社ですから、「同志社で学んだいろいろな教え」。動詞は *shall abide* 「生き続けることだろう」。散文的ではありませんが、この4行の訳はこうなります。

親愛なる母校よ、同志社の学徒はぶどうの枝のごとく
つながりゆくであろう。

たとえわれわれが、世界くまなく、遠くまた広く、
さまざまい歩こうとも、

同志社で学んだいろいろな教訓はわれわれの心の中に、
この後もずっと生き続けることだろう。

第2連の解説

We came to Doshisha to find

The broader culture of the mind;

We tarried here to learn anew

The value of a purpose true;

第2連の最初の4行です。ここで大切なのは、2行目、
The broader culture of the mind *びこまろ*。broader
は形容詞の比較級で「*ひろ*」。culture は *こびこび* 「文

化」と訳されていますが、ここでは「教養」。「より幅広い教養を求めて、われわれは同志社へきた」となります。同志社で、アーモスト大学などのリベラル・アーツ教育の伝統が受けつがれていることが、うたわれています。

tarried は *tarry* 「*ふみとどまる*」の過去形。anew は「もう一度、改めて」。第2連の前半の4行の訳は、次のようになります。

われわれが同志社にきたのは、
心のより広き糧を求めてだ。

われわれは、真の目的の価値を、
新たな意味において学ぼうとし、

ここにふみとどまっているのだ。
続いて第2連の後半をあげます。

Dear Alma Mater, ours the part

To face the future staunch of heart,

Since thou hast taught us with high aim to stand

For God, for Doshisha, and Native Land!

5行目の *ours the part* ですが、散文的にいいかえると *our part is* です。語順をかえ、*is* を省いて、力強い文章とつづきます。「われわれのつとめは、・・・である。」

9行目の *staunch of heart* も粹な表現です。staunch

は形容詞で「堅固な、ゆるぎない」という意味ですが、ここでは詩の中ですので詩的な慣例で副詞扱いをしています。「堅固に、ゆるぎなく」です。ofは状態を表わしtoに近いニュアンスで、strong in heartに似た副詞句になっています。「心は堅固に」とか「ゆるぎない心をもって」といった意味です。

7行目の hast は have の二人称単数の古語。だから thou hast は you have と同じ意味なのですが、ニュアンスが異なり、重厚で雅な学風の気配を感じさせています。

7行目から8行目 stand For は「賛成の態度を示す、支持する、・・・のために立つ、役立つ、戦う」の意。

(付記)

作詩者ヴォーリズは、当時、同志社に来ていた3人のアーモスト大学出身者たちと親しくしていました。アーモスト大学の校歌「ジェフリー・アーモスト卿」の歌詞を教わっていたかどうか、わかりません。しかし可能性はあります。とこののは、校歌“Lord Jeffrey Amherst”の最終行で stand for とこの熟語を同じように使っているように使っているからです。

he's the noblest and the best,

To the end we will stand fast for him.

卿こそは最も高潔で最高位。われわれは、

いつまでも、しっかり卿の志を称え続けよう。

この stand for という熟語は、ヴォーリズが、同志社カレッジ・ソングの第3連でも使っています。また第4連では、may have stood for という未来完了の形で現われます。

第2連後半の訳をそえておきます。

親愛なる母校よ、われわれのつとめは、

堅き心をもって、未来に立ち向かうことである。

なぜなら同志社は、

神のため、同志社のため、また祖国のために

役に立てよと、高い目的をもって

われわれに教えてきたからである。

第3連の解説

第3連前半の4行です。

When war clouds bring their dark alarms,

Ten thousand patriots rush to arms,

But we would through long years of peace

Our Country's name and fame increase.

1行目の war clouds は「戦雲」。戦争のきやうのじよ。 alarms は「警報、警鐘」。2行目の arms は、通常、複数形の場合同「武器、兵器」の意。この2行の大意は、「戦争のきざしが漂い、陰うつな警鐘がうち鳴らされるとき、多くの愛国者はすばやく武器を手にとろうとする」。

大切なのは、その次の3行目と4行目でしよう。「しかしわれわれは、長年の平和をとおして……」と続きます。

3行目の主語は we。動詞は would…increase「…を増やしたいと思う」。目的語は Our Country's name and fame「われわれの祖国の名声」。3、4行目の大意は、「しかしわれわれは、長年にわたる平和をとおして、祖国の名声を高めたいと思う」といったところでしょう。

戦雲がその険悪な動向を示すとき、

いく千の愛国者は武器をもつてはせ参する。

しかしわれわれは

久しきにわたる平和の年月のうちに

祖国の名と名声を

いやましにまじたいと思う。

第3連の後半部

Dear Alma Mater, sons of thine

Will hold their lives a trust divine.

Steadfast in purpose we will ever stand

For God, for Doshisha, and Native Land!

5行目から6行目の主語は sons of thine「同志社で学ぶ人たち、学んだ人たち」。動詞は will hold「考えを抱いてほしい、考えて学んでもらいたい」。will は指図に近い強い願望。their lives は目的語で「その生、その生涯」。a trust divine は目的補語。a は通常「ひく」の意味ですが、このjでは、抽象名詞を普通名詞化して可視化する用法。divine は「神の」。形容詞で前の trust にかかる。trust は「信頼、信託、ゆだねること」。このjでは "In God is our trust"（アメリカ国歌第4連）の "I trust in thee" (AV, Ps, 25:1)「わたしはあなたに依り頼みます」詩篇第25篇2節）、"In God we trust"（アメリカのナショナル・モットーでドル紙幣やコインに書かれたり刻まれたりしている「我々はすべてを神に託す」）などと共鳴していると思われる。a trust divine「神を信頼すること」。

Steadfast は「確固とした、迷いのない、不動の」の形容詞。Steadfast in purpose は「スクール・グラマ―でいう「分詞構文」で、その前に Being を補うと分かりやすくなります。「確固とした目的をもつて」の意。

5、8行の大意は「親愛なる母校よ。その学徒は、そ

の生涯をおし、神への信頼をもって、歩みゆくことだろう。確固不動の目的をもって、たえず、われわれは、神のため、同志社のため、また祖国のために、立とうとするものである」。

第4連の解説

Still broader than our land of birth,

We've learned the oneness of our Earth;

Still higher than self-love we find

The love and service of mankind.

文頭の Still は副詞ですが、この二語は接続詞の機能も兼ねさせられています。「やらに・・・とはいえ、・・・だけども」。broader は「広い」の比較級「より広い」。意味上の主語は2行目の our Earth、動詞にあたるのは being ですが、ともに省かれています。1行目は、スクール・グラマーでいう「独立分詞構文」です。Our Earth being broader than our land of birth、大意は「われわれの地球は、われわれの祖国より、さらに広いとはいえず」。

2行目 We've learned = We have learned. 現在完了形で「われわれは学んだ」。the oneness of our Earth「わ

れわれの地球（に住む人類）がひとつであること」。この句は聖書のことばをふまえています。

that we may be one. (AV, John, 17, xxi)

これみなひとつならんためなり。(ヨハネによる福音書17章21節)

この聖句は、ヴォーリズが大切にしていた Y M C A の motto でもあります。ここでは、次の3から4行目の詩行で展開される人類愛の精神や国際主義を引き出すことばとして置かれています。

3行目から4行目にかけての文章の主語は we が、動詞は find が、目的語句が the love and service of mankind です。3行目の文頭に置かれている Still higher than self-love は目的補語です。この Still higher は、1行目の Still broader と対句の形に整えられています。Still の意味はちがいます。3行目の Still は形容詞 higher にかかる副詞で、その意味は「なお、いっそう」。最初の4行の訳は次のようになります。

われわれが生まれた国よりも
さらに広い世界といえども、

それは一つであることを、われわれは学んだ。

自己愛よりもいや高き人類愛と奉仕の精神を

われわれは会得した。

第4連の後半部に移ります。最後の4行です。

Dear Alma Mater, sons of thine

Would strive to live the life divine;

That we may with increasing years have stood

For God, for Doshisha, and Brotherhood!

主語は sons of thine。動詞は Would strive 「努力したいと思ふ」。to live the life divine 「神にある生涯を送るため」。

7行目の that 以下は副詞節。That...may... は「・・・せんがために」。with increasing years 「重ねゆく年ととも」。Stand for... は先ほども出ましたが「・・・に賛意を示す」のために立ちあがる「・・・のために戦う」。may have stood for は強い可能性を含めた未来完了形で、「・・・のために戦い尽くしたといえるために」。Brotherhood 「男女を含めた人類同胞たち」。ヴォーリズのことばでは「世界同胞」。

(付記)

Brotherhood は、ヴォーリズの強い思い入れのあることばです。「ワンパーパスの回顧」の中で、彼は次のように語っています。

三節までは、神のため、同志社のため、祖国のためと

歌ったが、最後の四節において世界同胞のためにとうたひました。廣い世界的な物の見方が同志社のためにはほしいとの念願からです。

世界同胞のためということは、皆がよく解っているのですが、なかなか実行がむづかしい。同志社の諸君こそその実行者であってほしいと思います。だから合唱するときは必ず四節もうたって下さい。(『同志社タイムス』1952年2月28日号、p.2)

近江兄弟社の英語名は Omi Brotherhood。ヴォーリズが書いた「近江兄弟社校歌」(Om Brotherhood School Song) の「原詩」は、

The life of peace and brotherhood

In love of neighbor and of God.

でしめくくられています。(『東と西の詩集』、本文 p.144、翻訳と注 p.115 参) 彼のいう「世界同胞」は、「愛」と「平和」につながる概念なのです。

近年の文学理論では、作品の客観的な「意味」と、作者の「意図」とは、一応わけて考えるのが一般的なのですが、(作者の「意図」や「心」を探る批評は、intentional fallacy—意図を重視する語謬—といわれています)しかし、作者の「思い」や「願い」は、まったく無視してよい

ものではないでしょう。このケースでは特に、ヴォーリズの「念願」は、充分あたたためて解釈に含める重みがあると思われます。ただそのようなことは翻訳に入れかねますので、注釈として補足しました。

以下、第4連の最後の4行の訳を掲載します。

親愛なる母校よ、その学徒は

聖なる生涯を送らんがため、励もうとしている。

重ねゆく年とともに、

神のため、同志社のため、同胞のため、

かえりみて悔いながらんがために。

同志社のカレッジ・ソングは、この第4連で終わっていますが、改めて見なおすと、この歌詩全体の構成が、みごとに整っていることに気づきます。各連の前半4行では、同志社教育の基本―キリスト教主義、教養主義、平和主義、良心主義、国際主義―が語られます。そして後半の4行では、どの連も Dear Alma Mater で始まり、同志社の学生・生徒たちのあるべき理想的な生き方が示されています。

その上、またこの詩には、無駄なことばがありません。隙のない強固な構造の中に、圧縮されたことばが埋めこまれています。つまり、形式そのものが意味をもっているの

です。「形式」が「内容」、つまり同志社の存在意義の、堅実・堅牢さを象徴的に表わしている、と思われます。

あとがき

約10年前、2015年春のことでした。東京新島研究会の赤松龍会長（当時）にお招きいただき、同志社東京オフィスでの講演会に出かけたときのことです。私がカレッジ・ソングの日本語訳や解説をしたあと、この歌詩は詩としてすばらしい、といった話をしたことがありました。そのことを多田直彦さんが要約して『同志社ファン・レポート』に掲載され、さらにその話をもっと詳しく書いてほしい旨、氏から長年にわたりご依頼をいただいております。遅くなって申し訳ありません。おわび申し上げます。

その後本稿を書くにあたって、杉野徹氏ご夫妻や村上みか氏にはいろいろご教示いただきました。また本井康博氏、押本年真氏の解説も参考にさせていただきました。大鉢忠氏、辻友子氏からは、貴重な資料の提供をいただきました。厚く御礼申し上げます。

同志社創立150周年記念講演会（函館／札幌）

法人部

法人事務部 創立150周年記念事業事務室

2025年6月14日（土）

9時10分 同志社創立150周年記念礼拝

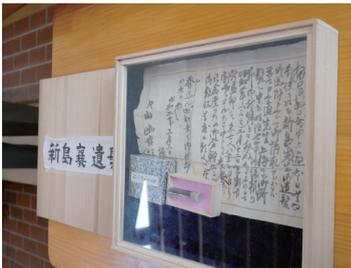
函館千歳教会において同志社創立150周年記念礼拝が行われた。一同で賛美歌を斉唱後、柴田もゆる牧師から「種をまく」と題したメッセージが述べられた。種をまき、物が育つまで時間がかかるのと同じように教育についても、しっかりと時間をかけて丁寧に関心を育てる点では共通しているといったお話があり、八田英二総長・理事長による挨拶で締めくくられた。礼拝後、当教会に寄贈された校祖新島の遺髪についての説明と教会再建の歴史についてのお話があり、当時再建に奔走した片山幽吉牧師の決心に思いを寄せた。



函館 礼拝

11時 「同志社創立者新島襄海外渡航の地」碑前祭

函館市大町の「新島襄海外渡航の地」碑の前で式典が行われた。当日は天候にも恵まれ、校友、函館市関係者など約40名が参列した。式典では、柳井望法人事務部長による司会のもと、一同で賛美歌を斉唱後、八田英二総長・理事長による式辞、次に高井暁函館市観光部次長によるご挨拶があり、続いて一同でDoshisha College Songを斉唱の後、献花が行われた。1



函館 遺髪

60年前にこの地から密出国を計った校祖新島の激動の人生に思いを馳せ、同志社の今を託されている我々ひとり一人が、新島の熱い志である200年の大計に向けて、一同が決意を新たにすることとなった。

14時 同志社創立150周年記念講演会③ 函館

講演①

「同志社の志を継ぐ、良心教育と社会へのメッセージ」と題し、八田英二総長・理事長による講演が行われた。同志社創立150周年を迎えるにあたり、新島襄が掲げた志とは何だったのか。そして、同志社が、これから社会の中で果たすべき役割とは何か、その原点と未来についての話があった。150周年というのは単なる通過点ではなく、過去からの積み重ねを振り返り、現在の課題を明確化し、そして未来へのビジョンを描く好機と捉えたい。節目の年を迎える今、創立者新島襄が、この学校からいかなる日本の未来を描こうとしたのかに思いを馳せ、教職員が連携をより一層深めて参りたいと述べられた。これまでの伝統と信頼の積み重ねが、同志社という学び舎の本質であり、新島襄が理想とした教育が今日まで脈々と生きていることが感じられる時間となった。

講演②

続いて、ノンフィクション作家・評論家の保坂正康氏による「近現代史における同志社人脈を見つめて」と題した講演が行われた。1875年に同志社英学校としてスター

トした同志社は、開校して4年後に第一期卒業生15人を送り出して以来、実に35万人を超える同志社人を輩出してきた。その中でも、5つの特長にジャンル分けしながら、特筆すべき人物を選び、各人物の点描を辿りつつ、創立者新島襄に接した人物がその生き方によつたような影響を与えられ、メッセージを残していったのか、今に生きる我々は、新島の考え方を知らずして、その思いを知り伝えることで、同志社の歴史を紡いでいく必要があることを再認識する機会となった。

2025年6月15日(日)

13時20分 同志社創立150周年記念講演会③ 札幌

同志社創立150周年と同志社校友会北海道支部創設100周年を記念して講演会が、ホテルポールスター札幌で執り行われた。

プログラム冒頭、北海道大学混声合唱団と同志社グリーンクラブによるジョイントコンサートで、会の雰囲気は一気に盛り上がりを見せた。八田英二総長・理事長による挨拶



函館 保坂氏



札幌 講演

の後、2つの講演が執り行われた。

1つ目は、北海道大
学理事・副学長で、最
高サステイナビリティ
責任者の横田篤氏によ
る「北海道大学のサス
ティナビリティ追求の
歴史と現在地」と題し
た講演で、2026年
に創基150周年を迎

える北海道大学のこれまでの歩みについての紹介があった。「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」を基本理念とする北海道大学は、2014～2026年まで近未来戦略150「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」をかかげており、2022～2027年の第4期中期目標・中期計画を牽引するために2021年にサステイナビリティ推進機構を立ち上げている。現在は、持続可能なWell-being社会の実現を目指して、HUVISION 2030を策定し、そこでは、2030年をターゲットイヤーとし、科学技術における教育と研究の卓越性(II Excellence)と同時に社会課題の解決やSDGs達成の



札幌 ジョイントコンサート

貢献(=Extension)
に注力していることが
説明された。

2つ目は、同志社大
学同志社社史資料セン
ター社史資料調査員の
小枝弘和氏による
「William Smith Clark
と新島襄・両者が紡い
だ北海道と京都の縁」
と題した講演が行われ

た。はじめに、W・Sクラークと新島襄とのキリスト教を介した関係性について、札幌バンド、札幌独立基督教会、熊本バンドといったキーワードを交え、二人の関係性が同志社関係者へも広がり、互恵関係を築いていく様子が詳しく示された。なかでも、同志社大学設立運動に札幌独立基督教会や北海道毎日新聞が協力的な対応であったことは、札幌と京都の縁をあらためて認識すべき印象深いエピソードであった。

会は、同志社校友会北海道支部長の草野賀文氏による閉会の挨拶により、盛会のうちに幕を閉じた。

リッチモンド・ラグビー・クラブ ラグビー国際交流試合

大学

スポーツ支援課

5月10日(土)、京田辺キャンパスラグビー場にイングラランドの名門リッチモンド・ラグビー・クラブを招き、体育会ラグビー部と国際交流試合を行った。リッチモンド・ラグビー・クラブは1861年に創立されたチームで、かつては本学ラグビー部OBで、ラグビー日本代表で活躍し、日本代表監督も務めた平尾誠二氏(故人)も同クラブでプレーしていた。試合は体格で勝るリッチモンドの選手に屈することなく、本学ラグビー部が果敢に挑んだ。終始、主導権を握った本学ラグビー部が後半に突き放し、42対19で快





勝した。試合後はキャンパス内でアフターマッチ・ファンクションを行い、交流を深めた。選手たちは記念盾やユニフォームの贈呈を行い、お互いの健闘をたたえ合った。試合に出場したラグビー部員たちは「体格の大きい選手にチャレンジできた」「走り勝つことができた」と話し、今シーズンの飛躍に向けて手ごたえを感じていた。

本学ラグビー部ともゆかりの深いリッチモンド・ラグビー・クラブとの交流戦は、海外チームに果敢にチャレンジし、また平尾氏にまつわる同志社大学ラグビー部の歴史を知る良い機会となった。

多世代で生きがいを創造！「ワンダフル・エイジング」の取組

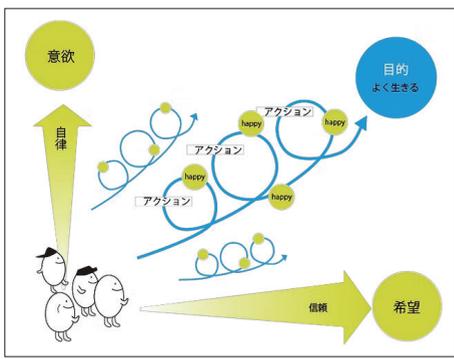
女子大学

強みを活かした生きがいづくり、居場所づくり

多くの人が長生きできる時代になりました。そんな今年をとることに喜びを感じられれば、長寿の未来に希望がわいてくるのではないのでしょうか。老いには、体力の低下や認知症のリスクといったシビアな側面もあります。しかし最近の加齢研究では、高齢になるほど日常の満足感の高まり、幸福を感じやすくなることが示されています。人生のさまざまな困難を乗り越える中で、生きる喜びと希望を見出す力が高まることを、高齢者の生き方から学べます。年をとるほど幸福感が高まる傾向は、エイジング・パラドックス（老いの逆転現象）と呼ばれます。喪失が強調されがちな高齢期に幸福感が高まる理由は、価値観の転換にあります。たとえば、お金や体力などを個人が得ることを重視する価値観は、いずれ失われるため、老後の不安を強

めます。一方で、美しさや喜びといった感情の豊かさを目指す。一方で、どんな時にも幸せを感じながら生きることが出来ます。限界に気づく高齢期だからこそ、「得る (Get)」から「与える (Give)」への価値転換が起り、自分や周囲の幸福に向かう力が生まれるのです。こうした年をとることの良さ、素晴らしさを広めたいと、私は、臨床心理学の立場から多領域の専門家や当事者の方々と協力して、一人ひとりが強みを発揮し、年をとる喜びに貢献し合う社会の実現をめざ

現代社会学部社会学システム学科教授
 日下 菜穂子
くさか なほこ



す実践研究を行っています。その中心が、生きがい創造プロジェクト「ワンダフル・エイジング」の取組です。

教え合い、学び合いが循環するものづくりのコミュニティ

ワンダフル・エイジングは、一人ひとりの目標をみんな
で共有・理解し、それぞれが持つ強みを活かしてその目標
を支え合い、達成していくという協同・共創のプログラム
です。



現在、シニアから若い世代まで数多くのメンバーが参加し、①人生後半を豊かに生きること
を目的とした長寿時代のライフ
デザインの教室「生きがい創造
教室」、②高齢者が教授（プロ
フェッサー）になって学び合う
人生の大学院「ワンダフル大学
院」、③食とテクノロジーによ
るワンダフル・エイジングの社
会実装「シェアダイニング」を
中心に、様々なコミュニティで

活動を行っています。例えば、シェアダイニングは、高齢者や大学生、地域の人たちが食材を持ち寄り、オリジナルの料理を作って一緒に食べるという食空間創出のプロジェクトです。2024年2月には、ゼミ生が中心となって「天神橋筋商店街の人と作る・水辺のシェアダイニング」を実施しました。共通の目標（喜び）は「美味しい料理を食べること」ですが、多世代グループで料理を作っていくプロセスの中で、包丁で野菜を刻むのは苦手だけれど、お米を炊いたり食器を洗ったりはできる…というように、できることとできないこと（能力の個人差）に気づいて、どうすればその隙間を埋められるのかを考えながら、自分が貢献できることに意識を向けるようになります。

シェアダイニングのほかにも、「ワンダフル大学院」では京田辺市や大阪市、様々な企業等と連携し、高齢者と大学生が地域の小学生にロボットプログラミングを教えるプロジェクトに取り組んでいます。こうした教え合い、学び合いが循環するコミュニティの創造を通して、社会全体の価値観を変える後押しができればと考えています。

大阪・関西万博で描くワンダフル・エイジングの世界

多世代でのものづくりを通して、老いの価値、高齢者とともにいる社会の素晴らしさを、世界の人たちに発信したい！そんな思いで、2025年5月24日には、大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場クラゲ館」で多世代共創ワークショップを開催しました。工作用モーターと紙コップ、マジックペンを使って、来場した子どもたちと一緒に絵描きマシンを手づくりし、それを大きな模造紙の上で思いのままに走らせていきます。例えばモーターが壊れて動かなくなっても、マシンを捨てたり交換したりするのではなく、リペアセンターで修理してもらう。一度お絵描きにチャレンジしてもらうなど、子どもたち自身があれこれ考え、手を動かし、トライ&エラーを繰り返しながら1枚のアート作品を完成させる喜びを感じてもらいました。

今回、運営メンバーとして、4年次生のゼミ生20人と、最高年齢85歳のシニア5人が参加。そのほか、会場には来られなかったメンバーも、古い着物や洋服の端切れを美しいリボンにリメイクし、多世代共創による再生の象徴とし

て、学生たちが会場やマシンに飾りつけました。イベントでは、子どもたちに学生が寄り添い、それをシニア世代が優しく支える共創の場が自然に生まれました。学生たちはバックヤードを体験し、企画・運営の楽しさや難しさを実感する中で、そこに関わるすべての人の努力を想像し、感謝の気持ちをもつきっかけになったと思います。

ワンダフル・エイジングは、それぞれの人が持つ強みに注目し、お互いに行えることを求め合っている世界です。そこには年齢など関係ありません。高齢社会を迎えた今、地域単位で様々な取組が行われていますが、このワンダフル・エイジングの理念が広がり、高齢者はもちろん、多世代の人が人生を豊かに過ごせるような場がいろんなところに生まれればと思っています。



語源俳句時報 Etymology and Haiku Project

中学校・高等学校

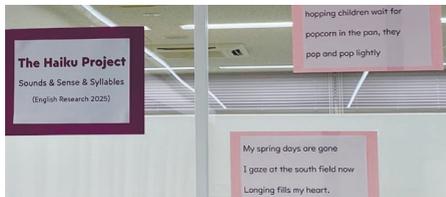
英語科教諭

ゲイブリエル フロスト ジョーンソン
Gabriel Frost Johnson

同志社高校には三年生の選択科目の一つに英語研究という科目がある。主に文学や映画を通じてアメリカの文化を学び、作文の構成や発表のやり方を磨く。年度初めには英語の歴史について研究する。最近この授業で英語で俳句をつくるプロジェクトを行った。



授業で歴史の話をし、生徒は気になる英単語の語源を Chambers Dictionary of Etymology (1988) などの英語の語源辞典を使って調べ授業中にディスカッションや発表をする。語彙力の向上とともに、英語はいろんな言語と繋がっていることを感じることも目的としている。(実は日本語の親戚言語についても少し触れる)。それを終えると英語のスペルと意味が結びついているだろうといういくつかのパターンを勉強する。つまり同じ音を持ち、似たような意味を持つが、擬音語かどうかわからないというパターンを学ぶ。例えば、母音-shで終わる単語 (crush, flash, splash など) は速い又は強い動きを表す傾向がある。また、gl-で始まる単語 (gloss, glad, glare) は艶、光を表す傾向がある。古来の言語で gl- の部分は「光」という意味があるが、これらの語はそこから来ている語なのか擬音語かは分からない。-sh は「突然」という意味だった



か擬音語だったかも知れない。実は偶然である可能性もある。こういうパターンをいくつか覚えることで英語的な「感」が身に付くことを願っている。

英語歴史のプロジェクトの最後には、言葉の遊びで俳句を通じて自己表現をするという楽しい課題をやる。英語の

俳句作成の目標は新しい知識や感覚を發揮するだけではない。俳句の五七五をめざすのに英語の「syllable」(音節) 感覚を持つ必要がある。日本語のカナでは各一文字は一音節を表すが、英語は違

う。Syllableの数え方は実は日本人にとっては簡単ではない。母音という文字の数ではなく、母音の音の数になる。いくつかの例を考えよう。Englishという単語はいくつの音節でできているだろうか。答えは二つである。カタカナで読めばイングリッシュは六つの音節になる。この講座の受講生は英語の能力や発音が優れており、カタカナでは考えていないと思われるが、多くの生徒は「ngl」という子音の塊の中に一音節を入れたがる。Poolという単語は、母音の「o」は二つ書いてあるが、音節は一つとして数えられる。Appleには母音は二つあるが「e」は発音しないから音節は一つとここまで読んだ人は思うだろうが、母音の音の数を数えるなら、「p」は「pu」に聞こえるので計二音節になる。Placeという単語は、同じく発音する「ai」一つと発音しない「e」一つと「pl」で成り立っているから、同じく二音節だろうか。実は最初の「pl」は声を出さないから、Englishの「gl」の部分と同様に音節ではないので、placeは一音節の単語とカウントになる。Eveningとこの単語の場合、真ん中の「e」は普段は発音しないが発音してもよいので音節は二つもしくは三つである。こういうことを考えながら生徒は自分の詩を作る。Syllablesを練習していくと、英語のイントネーションがより納得できる

ことにもなる。

最後に生徒の作品を紹介する。一つだけ留意してほしいのは、英語での Haiku (ちなみに二音節) は日本語の俳句とは形式が異なる。日本の俳句は五七五だという定型詩だとアメリカの授業では教わるが、Haiku はそもそも「五七五」に従う必要はない。三つの短い行で成り立ってはいればよいとされている。

生徒の新鮮な世界観を味わい、その中の音節がどのようになっているか数えてみてくだろ。

Summer festival

By the rows of food stalls

My heart dances

hopping children wait for

popcorn popping in the pan, they

pop and pop lightly

Homework is haiku

Better than a report for me

But it takes more time

My spring days are gone

I gaze at the south field now

Longing fills my heart.

A single red leaf

floats down with no need to rush

goodbyes can be soft

台湾で出会った学びと絆 — 初の語学研修を終えて

香里中学校・高等学校

英語科教諭

植田うえだ

阿津子あつこ

同志社香里ではこれまでに多くの語学研修を実施してきたが、近年は英語以外の外国語に関心を持つ生徒も増えてきている。そうした中、二〇二五年三月二十六日から二十九日までの春休み期間を利用し、本校として初となる台湾語学研修が実現した。参加したのは中学一年生から高校二年生までの九名であり、その中には語学研修への参加自体が初めてという生徒や、海外渡航自体が初となる生徒も含まれていた。また、「個人的に中国語を勉強しており、自分の実力を試してみたい」と語る生徒もおり、参加の動機は多様であった。

今回の語学研修は、単なる言葉の習得ではなく、台湾の歴史・文化を学び、現地の人々と交流することを目的として企画された。そのため、渡航前には校内で事前学習の機会を設け、台湾で国際交流に携わる講師をオンラインで招いて、台湾の歴史や文化、民族構成についての講義を受けた。生徒たちはこの学習に熱心に取り組み、学んだ中国語の基本単語を自宅で復習する姿も見られた。

山間の街 九份

初日は、新北市の山間部にある九份を訪問した。かつて金の採掘で栄えたこの街は、現在では台湾を代表する観光地の一つだ。長い石段を登ると、赤い提灯が連なるノスタルジックな街並みが広がり、美しい山の景観と相まって印象的な風景を生み出していた。生徒たちはウーロン茶やパイナップルケーキを味わったり、筆を使った絵を描いても良かったりと、初の台湾体験に緊張しながらも楽しんでいた様子であった。



九份の街並み



中国語レッスンの様子

初めての中国語レッスン

二日目は、淡江大学が開講する中国語レッスンに参加した。台湾では台湾語や客家語など様々な言語が存在するが、中国語が主に共通語として使用されている。授業では、先生は体を使って言葉を表現し、ゲームを通じて中国語を習得できるように促し、生徒たちは数字、色、食べ物などの基本語彙や、店での注文の仕方などを楽しみながら学んだ。

現地の大学生と台北市内観光

午後は日本語を学ぶ台湾の大学生がガイド役を務め、市内観光に出かけた。地下鉄MRTを利用し、中正紀念堂や龍山寺を訪問した。中正紀念堂では、生徒たちは蒋介石が生きた年齢と同じ数だといわれる階段を、習ったばかりの中国語で数えながら登り、歳の近い大学生の台湾に関する話にも興味深く耳を傾けた。夕食後は台北のシンボルである台北一〇一からの夜景を満喫し、台湾についての理解が深まった一日であった。

淡江高級中学との交流

三日目は研修の中心である淡江高級中学との学校交流が行われた。淡水にあるこの学校はジョージ・レスリー・マカイ宣教師を創設者とする百年以上の歴史のあるキリスト教主義の一貫校である。同志社との関わりはとても古く、一九二〇年代には同志社大学を卒業した陳清忠氏が、淡水

中学（現・淡江高級中学）の英語教師となり、台湾初のラグビー部と合唱部を組織した。当時から残るラグビー場にはその記念碑が建てられている。

当日、校門では本校生徒一人ひとりの名前が書かれたカードを持った淡江の生徒たちが出迎えてくれ、歓迎ムードは最高潮であった。歓迎会では、校長の挨拶を日本語学科の生徒が通訳し、淡水名物の阿給や魚丸湯と一緒に味わった。その後は美術や英語などの授業に参加し、日本語学科の生徒が丁寧にサポートしてくれた。先生方も本校生徒のために特別に授業内容を工夫してくださっていたようだ。最後には連絡先を交換し、台湾に友人ができた喜びを分かち合った。短い時間ではあったが、言葉や文化を越えた心の通じ合いを実感できる貴重な交流であった。

今回の研修を終えた生徒たちは、想像以上の学びと出会いがあったと語っていた。中国語に対する学習意欲が高まったという声も多く、次は自らの力で台湾を再訪したいと話していた。淡江高級中学との縁を今後も大切にし、より深い交流へとつなげていきたいと強く感じた。



台北101



淡江の校舎

「中一修養会」新プログラム

女子中学校・高等学校

宗教部副主任・国語科教諭

小谷 祐介
こたに ゆうすけ

「教会学校のキャンプ」のようじ

5月の連休明け、本校の中一生徒は全員で丹波篠山に向かう。「中一修養会」を行うためである。この行事のプログラムを刷新して今年で2年目となる。新プログラムの基本コンセプトは「教会学校のキャンプ」。教会に通う子どもたちのキャンプを模して、皆で歌を歌い、食事を共にし、火を囲んで祈る。これらを通じて、「隣人になる」とはどのようなことを身につけていくという行事になっている。

初日はクラスタイムの中で、「なんでもバスケット」のゲームをクラスの仲間と楽しむ。その中で、クラスメイトとの共通点や違いに自然と目を向けていく。また、「エゴエイミーカード」という名札に、この修養会中と呼んでほしい名前を記す。自分がどのような人なのかをその名前に込め、期間中その名前で互いに声をかけあう。

初日の夜には、「SLS -Secret Live Service-」と題して、歌とメッセージの時間を持った。「Secret」というだけあって、生徒たちにはギリギリまでその内容は伏せていた。担任団も含めた教員たちのバンド演奏や讚美歌を皆で楽しみ、メッセージを心に留める。まるでキャンプファイアーのひとつときのような。普段教室で目にする姿とは違った教員の一面を目にして、生徒たちもたいそう喜んでた。

二日目には飯盒炊爨はんごうすいざえに取り組む。初日のクラスタイムで偶然できたグループで協力し、一つの鍋を囲む。起こした炎に巨大な鍋を乗せてのドタバタの作業ではあったが、とてもおいしいカレーをいただくことができた。

その日の夜には、また違った炎と向き合う。「CIS -Candle Light Service-」・蝋燭の灯りで行う礼拝の時間だ。ここでは学年全員が、聖書の朗読や讚美歌の歌唱などそれぞれの役割を果たし、静かで神秘的な礼拝の時間を過



Secret Live Service

「ごす。生徒たちにも「このCLSを経て、本当に学年みんなが同女の生徒になったと言えるんだよ」と話したりする。ともに同じ炎を見つめて、学年全員が同女生となる瞬間である。」

最終日にはさすがに疲れも見えたが、それぞれ満足した表情で学校へ帰り着いた。あとは最終日の朝に記した「自分への手紙」が届くのを待つばかりである。



Candle Light Service

「ワールド・スカラース・カップ2025」にチャレンジする生徒たち

国際中学校・高等学校

英語科教諭 サイモンゴダードウィドン

中高生が英語で教養を競う総合競技

世界50か国以上、約2万人の中高生が参加する英語の国際大会「ワールド・スカラース・カップ (The World Scholar's Cup : WSC)」をご存じでしょうか。ただ英語力を競う大会ではありません。3人が一つのチームとなり、科学や理科、芸術、音楽など特別な6教科について、①60分の制限時間で120問を解くペーパーテスト、②チーム一丸となって作文を完成させるコラボレートライティング、③テーマに沿って相手チームと議論を戦わせるディベート、④正確さとともに解答スピードも要求されるクイズの4種目で教養を競い合います。

国内では、毎年GW期間中に東京、関西、九州の各地区で予選が開催され、上位入賞チームには世界大会 (Global Round) に出場する権利が与えられ、さらにその世界大会で上位に入ると、Yale 大学 (アメリカ) で行われるチ

ャンピオン大会に参加できます。同志社国際中学・高等学校は2016年に初めてWSCに参加し、翌2017年には世界大会やチャンピオン大会に出場、それ以降も毎年たくさんの生徒がチャレンジして輝かしい成績を収めています。本校にとつては、先輩から代々受け継がれる伝統の大会と言えるかもしれません。

2025年は5月3・4日に関西ラウンドが行われ、本校から30チーム90人が参加。そのうち6チーム18人が7月26日から始まる韓国・ソウルでの世界大会に挑みます。今回は、関西ラウンドでチーム総合1位、2位、個人総合1位を獲得した生徒たち (高校2年生) にインタビューし、WSCを通して学んだこと、成長したこと、気づいたことなどをまとめてレポートします。

※取材は2025年7月。

大会レポート〜関西ラウンドを振り返って〜

【参加のきっかけ】

本校は帰国子女が多く、なかには日本の学校生活に馴れるのに時間がかかったり、勉強やスポーツが苦手だったりする生徒もいます。「世界大会や国際交流に関心がある」という理由だけでなく、「得意の英語力を活かし、主役として輝きたい」「上位入賞してみんなから注目されたい」など、自分自身の変化を求めてWSCに参加する生徒も少なくありません。チームメイトを募集するときに、友だちの長所（記憶力が良い、ムードメーカーなど）を見つけて積極的に声をかけたり、放課後や休みのときに集まって一緒に問題を解いたり、くじけそうなときはお互いに励まし合ったり；、WSCに向けた取組を通して学校内で仲間が増え、刺激を受け合い、コミュニケーションが自然に広がっていったように思います。

【学習の姿勢】

Yale大学のチャンピオン大会に出場経験がある先輩から、オンラインで勉強方法を教えてもらうなど、チームによっていろんな工夫が見られました。出題されるテーマやセクション（スタディーガイド）は事前に発表されますが、例えばオ



ーストラリアのネットワークシステムやメガプロジェクト、占いやミュージカル、エンジンやモーターについての設問など、今まで触れたことがない問題ばかりで、これまでの知識や経験だけではとても対応できません。メンバー同士が協力し、14あるセクションを6分割してドキュ

メントにまとめ、ChatGPTなど新しい技術を使って問題を予想したり、関連する英単語を暗記シートに書き出して、通学の行き帰りにひたすら覚えたり；、生徒一人ひとりができることを考え、自主的に勉強に取り組んでいました。

【大会の様子】

コラボレートライティングでは、「未来の科学技術」をテーマにした問題が出題されました。本校出場チームの一つが書いた、世界を石化しようとする博士と、それをやめさせようとする友人がe-mailでやり取りし合うという、生徒が好きなアニメから発想した斬新なエッセイは印象的で、その若者らしい豊かな感性に改めて驚かされました。

ディベートについて、実は関西ラウンドが開催される数



チャレンジで得られる学びの価値

日前、私が対戦相手となって大会出場予定の生徒たちと模擬練習を行い、彼らは何も言い返すことができないくらいに論破しました。もちろん、自分はネイティブだからという慢心、これくらいで大丈夫という気の緩みを引き締める意味もあります。それだけではありません。本番では違う相手と3回連続でディベートを行います。必ずしもその時々の勝ち負けが評価につながるわけではなく、ディベートの内容なども総合的に考慮されるため、どんな相手と当たっても強い気持ちで臨まなければなりません。実際の大会では、個人ディベートで1位を獲得するようなメンバーがいる強敵と初戦で当たりましたが、「サイモン先生より強い相手はいない!」という意気込みでひるまず戦い抜き、本校出場チームが総合優勝から3位までを獲得しました。

WSCの大会に出場し、結果が出るまで、生徒たちはたくさん不安や失敗を乗り越えてきたに違いありません。もしかして負けるかもしれない、恥をかいてもいけないと、その場で踏みとどまっていたは何も始まらないで

しよう。今回も、昨年の大会で不本意な成績だった本校のチームがリベンジを期して再出場し、関西ラウンドで見事2位を獲得しました。いろんなことに関心を持って、チャレンジを続けることが大切。学校では経験できない貴重な学びが、皆さんの成長を後押ししてくれるでしょう。ぜひ、ソウルでの世界大会、そしてその後に続くチャンピオン大会での皆さんの健闘に期待したいと思います。

ソウル大会の結果報告

2025年7月に韓国・ソウルで開催された世界大会には、33か国から約1,100人の中高生が参加しました。本校から出場した5チームのうち、4チームが見事、Yale大学(アメリカ)で開催されるチャンピオン大会への出場権を獲得しました。ランキングでは、総合23位、個人17位という好成績を収めています。世界の舞台で堂々と戦い抜いた生徒たちの努力と成長に、心から拍手を送りたいと思います。



探究する子どもを育てる…英語イマージョン教育の現場から

国際学院

初等部教諭

Robert Kent STUMBLE

2019年、本校の英語イマージョンプログラムが、実証に基づいた革新的な改善を加え、内容を大きく充実させました。

恵まれた英語環境の中で、日本語を母語とする児童が第二言語である英語を通じて探究的な学びに挑戦する毎日、彼らだけでなく教員にとっても新たな挑戦と可能性に満ちています。私が目指すのは、「英語を教えること」だけではなく、「英語で考える力を育てること」です。

本校の英語イマージョン教育は、同志社の原点である良心教育や三つの教育理念——自由主義、国際主義、キリスト教主義——と深く結びついています。英語を通じて世界の課題に向き合い、自分にできることを模索する姿勢は、「良心に従って行動する力」を育てる良心教育の核心をなしています。また言語や文化の壁を越えて、自らの考えを表現し、多様な価値観を尊重する力を育むことは、まさに

「国際主義」の実践に他なりません。さらに、子どもたち自身がテーマを選び、主体的に学ぶ姿勢は、「自由に学び、自由に考える」力を重視する自由主義の教育精神とも響き合います。さらに、英語を通して他者への思いやりや奉仕の





心を育むことは、「隣人愛」や「すべての人に仕える」精神を重んじるキリスト教主義の理念とも通じています。

本校では、フォニックスを基盤としたリテラシープログラムと、I Bの探究学習を組み合わせた独自のカリキュラムを実施しています。教室では、英語を「学ぶ」のではなく、「使いながら学ぶ」ことが重視され、学年が進むごとに子どもたちは英語で質問し、議論し、自分の考えを発信する力を身につけていきます。

この成長の一つの節目となるのが、6年生によるPYPエキシビションです。児童は自ら選んだ社会的テーマについて調査し、英語と日本語でその成果を発表します。印象的だったのは、入学当初は全く英語が話せなかった生徒が、自分の言葉でしっかりと考えを述べ、他の生徒からの英語の質問にも対応していた姿でした。

実際のエキシビションや児童の振り返りの様子は、以下の学校公式動画でもご覧いただけます。

<https://www.dia.doshisha.ac.jp/schoollife/movie/>

・2025年3月10日

同志社国際学院初等部 2025 PYP Exhibition - 折り紙 / Origami

▼ 英語力の成長と探究プロセスをバイリンガルで振り返っています。

・2025年4月9日

学生制作の Exhibition 振り返りビデオ: 「折り紙」 / Student-Made Exhibition Reflection Video: "Origami"

▼ 探究と学びのプロセスについて、児童自身が英語で振り返るビデオです。

このような実践を通して私が感じているのは、「間違いや行き詰まり」こそが、学びの本質だということです。

子どもたちは、完璧な文法よりも「伝えたい思い」を優先しながら、言葉とともに思考力も育てていきます。また、英語を通して異文化に触れ、世界とつながる経験は、子どもたちの視野を広げ、自信と誇りを育てる機会となります。

今後の展望と教育的意義

近年、日本の初等英語教育において「実用的な言語運用能力」や「探究を通じた言語習得」の重要性が注目される中、本校の取り組みはその一つの具体的なモデルとして貢献できると考えています。

本校の英語イマージョン教育は、児童一人ひとりの言語力の育成にとどまらず、国際的な視野と批判的思考力を養う実践として、着実な成果を上げています。近年では、在学中に※CEFR B1レベルに到達する児童が大半を占め、英語で自分の意見を表現する姿が日常的に見られるようになりました。こうした成長は、単なる語学力の向上を超えた、言語と探究の統合的な学びの結果と捉えています。

今後は、児童の発達段階に応じた英語教育の在り方をさらに追究し、体系的な記録や分析を通じて、より効果的な教育実践のモデルを構築していきたいと考えています。個

人情報の保護と倫理的配慮を十分に行った上で、本プログラムの成果を、同志社の教育理念を体現して広く社会に貢献する研究として発信できることを願っています。

また、本校の取り組みは、良心教育および同志社が掲げる国際主義、自由主義、キリスト教主義の理念を初等教育段階から具現化するものとして、同志社ブランドの価値を高める重要な実践であると信じています。

初等段階から英語で思考する力を育てることは、同志社大学における国際的、学際的な学びへのスムーズな接続を促し、将来の高度な学術的探究や国際的な貢献の基盤となると考えています。

こうした学びの在り方を同志社内の諸学校や大学部門とも共有しつつ、今後の初等英語教育や探究学習の発展に貢献していければと願っております。



国際交流を通じて

—同志社小学校の取り組み—

小学校

本校では創立以来、同志社の基本理念において国際主義に基づき、国際人の育成を教育理念の一つに掲げ取り組んでまいりました。

この5月には、創立者・新島襄が学んだアメリカ・アーモスト大学から同志社大学に來られた研究者のご家族が約1週間本校において児童と交流をされ、6月には、香港GTカレッジの児童30名が來校し、授業参加を通じ交流を深めました。

また、こうした実際の交流活動に加えて6年生はオンラインで台湾・タイ・オーストラリアの学校とつながり、季節の過ごし方や日常生活について英語で紹介し合っています。回を重ねるごとに、子どもたちは自信をもって積極的に伝えようとする姿を見せており、交流をしている学校からは「同志社の子どもたちはフレンドリーでまた来たくなる」との嬉しい声も届いています。「英語を使うこと」以

上に、相手と心を通わせることにこそ国際交流の意義があると感じています。そして思いやりをもって世界と向き合う子どもたちの姿に、「英語が「教科」ではなく「思いを伝えることば」として根づいていくことを願ってやみません。

同志社小学校では、国際交流の活動を通じて英語を学ぶとする子どもたちの意欲を自然な形で育むことはもちろん、世界を学び、世界のさまざまな国の人々や文化と自然な形でふれ合うことにより、自国の暮らしや文化、あるいは自己をしっかりと見つめなおすことのできる幅広い視野を養ってまいります。そして「人ひとりの大切さ」を基盤として、自分とは異なる意見や少数意見に耳を傾け、互いに違うことを認め合える、真の国際人の育成を目指します。

副校長

石川

いしかわ

博三

ひろみ



毎日が探求活動

見る、触る、作る、試す、考える、一日中探求する子どもたち

幼稚園

園長 矢田 貴美代

幼稚園の生活

幼稚園の子どもたちは、朝9時過ぎから、保護者の方と一緒に登園します。かばん等の持ち物を所定の場所に片付けたら、各々が園庭や保育室で自分の好きな遊びをし始めます。

園庭では虫探しや草花摘み、草花を使った色水遊び、砂場での山づくりやごちそうづくり、遊具を使ったごっこ遊びなど、園庭の様々な場所で遊びを繰り広げます。また保育室では、積木にままごと、空き箱や段ボール等を用いての製作活動をし、保育室という限られた空間の中で、友達と密に関わり合い、遊びを展開します。そのあとは、各クラスにおいて礼拝を行い、クラスみんなで歌を歌ったり、絵画製作をしたり、運動遊びをしたりするなど、クラスでのまとまりのある活動を行います。これらの遊びを中心と

した活動のどこに「教育」があるのでしょいか。幼児教育はその成果を数値で表すことができず、なかなか理解されにくいことが現状です。しかしながら、私たち幼児教育実践者においては、この自由に遊んでいる時間も、クラスでまとまりのある活動もすべて、保育計画に基づき、保育者による学びのしかけや教育的意図が盛り込まれ、学校の授業と同様であると考えています。

「環境」(ひと・もの・こと)を通して行う 幼児教育

幼児期は、知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、様々なことを学んでいく時期であるとされています。ですから、幼稚園では子どもが発達段階をふまえて、保育計画に基づきながら様々



年少組保育室
梅雨の時期の絵本や図鑑を構成



年中組保育室
飼育しているカブトムシとその成長が
わかる図鑑を構成

な「環境」を準備し、子どもが興味・関心をもつように、目の前の物事にかかわりたくなるように、試してみたいくなるように、自由な空間の中に教育的意図を盛り込んでいきます。「環境」とは物的環境・人的環境・様々な事象を指します。ですから、保育室の子どもの目につきやすい場所にはその季節ならではの動植物を置き、より興味・関心を掻き立てることを狙い、そばには図鑑や写真などを掲示します。時には地域に向くことで、園内ではできない貴重な経験をすることができ、子どもたちはクラスみんなで共通の感動体験を得ることができるのです。

このような環境のもと、毎日、子どもたちは登園時に花や虫を見つめたり、園庭で懸命に虫探しをしては、図鑑で調べたりと、個々の探求活動が始まるのです。



年長組
子どもが見つけた花に名称をつけて



年長組
近くの商店街につばめの巣を見に行く

〇〇博士、〇〇名人がたくさん！ 探求し続ける子どもたち

本園には、虫博士に物づくり名人、四葉のクローバー見つけ名人、ふしぎ発見名人など、様々な博士や名人がいます。子どもたちは、自分の好きな遊びをする時間（「自由遊び」や「好きな遊び」と言いますが、「探求の時間」とも言えます）は、個々の興味・関心を存分に味わいます。

年長組は、空き箱や発泡スチロールの皿など、保護者にご協力をいただき、各家庭から様々な廃材を持ってきていただいています。子どもたちは、自分たちの遊びに必要なものをイメージして、廃材などを用いて製作をします。

自分たちが作った帽子や剣、宝箱は大切に抱えながら遊び、壊れると修理をし、さらに工夫をこらして改良し、遊びが継続されます。この遊びの中では、様々な道具や素材

子どもが登園する前から環境を準備する。子どもが自らやりたくなるようなしかけづくりをする。



年長組 「花の日礼拝」で持ち寄った花の花びらが散ったので、その花びらを使っての色水遊び。すり鉢とすり棒で花びらをこすると、鮮やかな色水となり、「わあ！」と歓声があがる。その姿を年少組が見て、自分たちも試したくなる。



年長組 ごっこ遊びに必要なものを製作し、身に付けて遊ぶ



年長組 たこやき屋さんごっこ

と出会い、物の性質、道具や素材の扱い方を知り、物を媒介に友達と共通のイメージを持ち、ごっこ遊びを通して協同の学びを体験します。楽しいからこそ真剣で、ぼろぼろになった製作物をも大事に扱います。

「無自覚な学び」の時期

幼児期の子どもたちは、発達段階から見ると、「無自覚な学び」の時期と言ったり、「学びの芽生え」の時期と言ったりもします。どのようなことかと言いますと、子どもは学ぶことを意識していないということです。楽しいことや好きなことに集中することを通して学ぶ時期です。特に個々の興味・関心に応じて探求をしている時間、子どもたちは真剣です。楽しいから少々の困難を乗り越えますし、もつと知りたいから図鑑を懸命に見ます。もつと楽しく遊びたいから友達とぶつかりながらもくっついて遊びを続けます。

私たちは、この「無自覚な学び」という幼児期の特性を大切にしながら保育を展開し、幼稚園の3年間で、一人一人が自信をもって「○○が好き」、「○○が得意」と言えるよう、探求の時間を豊かな時間にしていきたいと考えています。

世代を超えた同志社の皆様にも、ぜひとも幼稚園にお越しただき、子どもが真剣に遊ぶ姿をみていただけたらと思います。皆様のお越しをお待ちしております。

同志社の 一貫教育

hitohito-Li

同志社一貫教育探求センター

ダイバーシティ推進に関する検討部会部長

さかた まみこ
阪田 真己子

同志社の良心とダイバーシティ

同志社のダイバーシティマインドの原点

新島襄とともに同志社の設立に尽力した

山本覚馬は、視覚障害と肢体不自由という

重複障害を抱えていた人物でした。また、

新島のパートナーである八重は、男装して銃を手に戦場を

駆けた先駆的な女性であり、その生き方は当時のジェンダ

ー規範にとらわれない自由な精神を体現していました。さ

らに、同志社英学校の最初の教員2名のうちの1人はアメ

リカ人宣教師のJ. D. デイヴィスであり、創立当初から

国籍や文化の異なる者との協働が実践されていました。新

島とデイヴィスはともに、キリスト教の中でも自由と多様

性を重んじてきた「会衆派」に属していたことも特筆すべ

き点です。

このように新島襄を取り巻く人物や環境に、同志社のダ

イバーシティマイン

ドの原点があるよう

に思います。多様性

の尊重は、同志社に

おいてまさに草創期

から脈々と受け継が

れてきた価値観であ

り、この精神は、現

代におけるダイバー

シティ推進の理念と

も深く響き合うもの

です。

2025年度より、学校法人同志社において新たな取り

組みが始まりました。それが、一貫教育探求センター内に

新設された「ダイバーシティ推進に関する検討部会」です。

これまで法人内の各学校では、それぞれの特色を活かしな

がら独自にダイバーシティに関する取り組みを進めてきま

したが、今年度からは、同志社の一貫教育を担うすべての

諸学校が連携し、「同志社らしいダイバーシティ」の実現

に向けて、法人全体で取り組む体制がスタートしました。



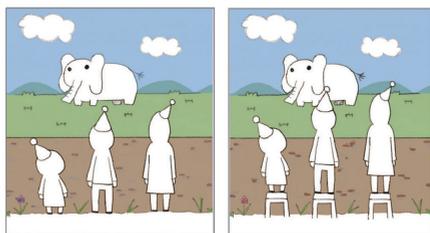
全盲の山本覚馬が口述筆記させた建白書
(同志社大学図書館所蔵)

ダイバーシティに必要なDEIの考え方

近年、ダイバーシティ推進においては「DEI (Diversity, Equity, Inclusion)」という枠組みが広く用いられるようになっていきます。

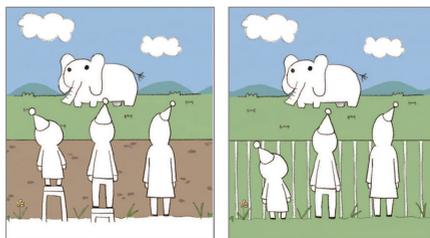
まず「D」は Diversity (多様性) を指します。ダイバーシティとは、異なる背景や価値観をもつ人々が共に存在する状態のことですが、たとえば「本当にいろいろな人がいるよね」という言葉には、しばしばネガティブなニュアンスが含まれてしまうことがあります。多様性を単なる「状態」として受け入れるのではなく、互いを尊重しながら協働できる関係性を築くことが求められています。

次に「E」は Equity (公正性) です。これは、すべての人が等しく参画する機会を得られるように、それぞれに必要な支援が提供されている状態を意味します。たとえば、図のように象を見学したいのに、高い塀があるために背の低い人が象を見ることができないとします。このとき、全員に同じ高さの台を配布するのは「平等 (equality)」ですが、それではまだ小さな子どもは象を見ることができませんし、背の高い人に台は不要です。公正 (equity) とは、それぞれの状況に応じて異なる支援を行い、すべての人に公



配慮なし

平等な配慮



公正な配慮

ユニバーサルデザイン

平な機会を提供することを意味します。近年では、こうした個別的な対応に加え、そもそも誰もがはじめからその場に参加できること、すなわちアクセシビリティ (accessibility) の確保が重要だとされています。先ほどの例で言えば、高い塀そのものを取り払って柵にすれば、背の高い人も低い人も区別なく象を見ることがができます。このように、あらかじめ誰にとっても利用しやすい環境を目指す設計思想のことを「ユニバーサルデザイン」と呼びます。この記事の文字フォントも見やすく読み間違えにくいUDフォント (ユニバーサルデザインフォント) を使用して

います。

そして、「I」はInclusion（包摂性）です。制度や環境が整っているだけでなく、構成員一人ひとりが「自分はここにいていい」と実感できることが重要です。つまり、自らの存在を肯定され、自分のままで安心して過ごせる「居場所」があると思えること——それがインクルージョンの本質です。

同志社らしいダイバーシティとは

冒頭で述べたとおり、同志社は長い歴史の中で多様な人々を受け入れ、共に学ぶ環境を整えてきました。たとえば、英学校開校の翌年にあたる1876年には女子塾が開設され、同志社における女子教育が始まったわけですが、草創期に学んだ女子生徒のうち3名が、1878年に同志社英学校で学ぶ機会を得ています。同志社における「男女共学」の始まりは、まさにこの時点にまでさかのぼることができるわけです。また、1949年には同志社大学が、国内で初めて点字入試を実施しました（同年、日本大学や早稲田大学も実施）。「国内で初めて」という事実は、それまで視覚障害者にとってほぼ閉ざされていた大学進学への道を、本学が先んじて切り拓いたことを意味しています。

このように、同志社は常に時代に先駆けた取り組みを積み重ねてきましたが、その根底には、創立以来一貫して受け継がれてきた「良心に基づく教育」という理念が脈々と息づいています。

ここで強調したいのは、

同志社がこうした先駆的な実践を行ってきたのは、「先進的であること」を目指してきたからではなく、「人一人ハ大切ナリ」という精神を基盤とし、その思いを教育の場で丁寧積み重ねてきた結果にほかならないという点です。近年、ダイバーシティ推進がイノベーションの創出や利益の拡大、あるいは組織のブランディング向上の手段として語られる場面が増えていきます。しかし、本来ダイバーシティの推進は「人権」の問題であり、その中心には一人ひとりの存在をかけがえのないものとして捉える視点こそが重要です。同志社における取り組みも、まさにそのような教育理念の実践の延長線上にあったのです。



点字用タイプライター（同志社大学チューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室所蔵）



2011年Challengedキャンプの様子
(画像提供：同志社大学スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室)

たことから始まります。障害学生と学生スタッフが、共に海を眺め、潮風を感じ、共に海水に足をつける——そうした体験を通じて、「支援する／支援される」という関係性が、「友人」という関係へと自然に変化していったと聞きます。まさにインクルージョンを体現する実践です。学生の何気ない一言に端を発して始まった取り組みが、同志社マイノリの継承として今なお大切に守られていることに、同志社のダイバーシティの本質があると思います。

ここで、同志社大学で20年以上続く「Challenged キャンプ」をご紹介しますと思います。Challenged キャンプは、車椅子ユーザーの学生がふと漏らした「海は遠くから見るもの」という言葉をきっかけに、障がい学生支援室（当時）コーディネーターが「海に連れて行きたい」と企画し

Learn to Live, Live to Learn

同志社大学第二代学長D・W・ラーネットが愛誦した「Learn to Live, Live to Learn (生きるために学び、学ぶために生きる)」という言葉もまた、同志社の教育理念を象徴するものです。同志社で学ぶすべての児童・生徒・学生が、「人一人ハ大切ナリ」の精神のもと、生きることと学ぶことを往還しながら成長していけるように、同志社の良心に基づいたダイバーシティマインドを一貫教育の中で共に育んでまいりたいと考えています。



ラーネット図書館正面玄関より

同志社研修・交流会

6月25日(水)に、授業内容・方法の改善と向上に努めるとともに、教員間で教学上の課題を共有し、解決策を模索する機会を提供することを目的とした同志社研修・交流会を開催しました。

阪田部会長による基調講演『同志社のダイバーシティ推進―本当に大切なことは何か―』に引き続き、各自希望の分科会に参加しました。詳細については同志社一貫教育探求センターウェブサイトを参照してください
<https://www.doshisha-ikkan.info/>

第一分科会

テーマ…現代こども学科の学修サイクル ―多様性と調和―

発表者…勝浦眞仁・吉永紀子(同志社女子大学現代社会学部現代子ども学科教授)

発表内容…現代こども学科で大切にしている学修サイクルの模範的体験と実践報告

第二分科会

テーマ…音楽Ⅲで取り進むジャンル融合バンド ―表

現力を育む授業作りを目指して―

発表者…佐川 淳(同志社中学校・高等学校芸術科教師)

発表内容…自由選択科目音楽Ⅲでの実践内容の紹介

第三分科会

テーマ…同志社女子高校の地学教育

発表者…北野功治(同志社女子中学校・高等学校理科教師)

発表内容…高校地学の授業内容を紹介する

第四分科会

テーマ…1年生から始める図的表現力の育成 ―図の「値

値」をもち込む姿を目指して―

発表者…南大我(同志社小学校教師)

発表内容…算数科における図的表現力の育成について

第五分科会

テーマ…皆で話そう!!ダイバーシティ推進のために必要

なこと・難しいこと・乗り越えたいこと

発表者…阪田真己子(同志社大学文化情報学部教授・同

学部長・ダイバーシティ推進に関する検討部会

部会長)

発表内容…各学校で抱えている課題を共有するためのワー

クショップ

(文責 同志社一貫教育探求センター所長 大久保雅史)



2025年11月29日(土) 同志社創立150周年記念日スケジュール

新島襄とJerome D. Davisの教師2名と生徒8名により、1875年11月29日、同志社英学校は京都の地にて産声をあげました。新島の懇篤なる祈禱とともに出発した同志社は本年で創立150年を迎えます。現在は2つの大学、4つの中学・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園を擁するわが国屈指の私立総合学園に発展し、学生、生徒、児童、園児の総数は約43,000名に上ります。また、同窓・卒業生は国内外、各界で目覚ましい活躍をされています。

同志社は2025年11月29日に創立150周年式などを以下のとおり開催します。ぜひ多くの皆様と一緒に、同志社の先人たちのお働きに感謝し、同志社人の絆を深める機会としていただいています。9月中旬に同志社創立150周年記念ホームページに、特設サイトを設けますので、そちらをご覧ください。

9:00~9:30 場所:同志社墓地
創立150周年同志社創立記念祈禱会
*参加無料・申込不要

10:00~13:30 場所:同志社中学校・高等学校(住所:京都市左京区岩倉大鷲町89)
同志社創立150周年記念フェスティバル in IWAKURA
*参加無料・要申込
(現時点で想定しているプログラム)
①講演会 講師:佐藤 優氏(作家・同志社大学東京特別顧問(担当))
②落語 桂 笑金氏
③チャリティーコンサート
④子ども・ファミリー向けのワークショップ(同志社大学、同志社女子大学などのサークルによる)
⑤同志社内4中学校・高等学校、小学校、国際学院初等部・国際部の資料展示コーナー
*その他、キッチンカーも複数出店予定です。

14:00~16:30 場所:国立京都国際会館(住所:京都市左京区岩倉大鷲町422)
同志社創立150周年記念式など
*参加無料・要申込
(主な内容)

- ・同志社創立150周年記念献茶式/裏千家第16代・家元 千 宗室氏
- ・同志社創立150周年記念式
- ・創立200周年に向けてのメッセージ(仮題)/同志社総長・理事長 八田 英二
- ・「同志社ルネサンス」へ(仮題)/同志社大学長 小原 克博
- ・新島襄に関するアニメーション『二百年の夢を見た。』第1部上映
- ・書家 川尾 朋子氏による題字制作動画

お問い合わせ先:学校法人同志社 創立150周年記念事業事務局
TEL:075-251-2710 E-mail:ji-150th@mail.doshisha.ac.jp

ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

第36回企画展 同志社創立150周年・アーモスト大学創立200周年記念特別展

「未来を切り拓くーアーモスト大学と同志社の交流史ー」

An Exchange of Consequence - The History of Amherst College and Doshisha

期 間：2025年10月1日（水）～12月7日（日）

場 所：2階 企画展示室

共 催：アーモスト大学・同志社大学

本展は、創立者新島襄が修了したアーモスト大学創立200周年と同志社創立150周年を記念した初の共催展です。100年以上にわたって教職員、学生や有形無形の事柄の交流によって培われた「国際主義」を両校所蔵の資料を通じて紹介します。

【常設展】

同志社創立150周年記念特別常設展

新島襄 召命と志

期 間：第1部 志

10月7日(火)～11月30日(日)

第2部 キリスト教

12月2日(火)～2026年1月31日(土)

第3部 起業

8月5日(火)～10月5日(日)、2026年2月3日(火)～3月28日(土)

場 所：1階 常設展示室

「同志社のあゆみ」「新島襄の人と思想」

主 催：同志社大学同志社社史資料センター

新島襄が同志社を結社し、英学校を開校してから150年。節目を迎える今こそ、新島が何を志して、キリスト教の重要性を如何に考え、教育事業に邁進したのかを資料で振り返ります。

【入 場 料】 無料

【開館時間】 10：00～17：00（最終入館 16：30まで）

【閉 館 日】 日曜日（企画展開催中を除く）・月曜日・祝日・4月30日～5月2日・夏期休暇中の一定期間・年末年始

【場 所】 同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。



アンドーヴァー神学校時代の
新島襄 1872年



お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局

HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を公家華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸を賃借して一部を仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸の土地を入手して自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開しています。

【公開期間】 4～7月、9～11月、3月

①通常公開 毎週火・木曜日（祝日は閉館）

②特別公開 毎週土曜日

春の特別公開（2025年度分は終了）

第34回企画展開催期間（4月15日～6月15日）の火・木・土曜日（終了）

オープンキャンパス（2025年度分は終了）

秋の特別公開 10月1～5日

ホームカミングデー 11月9日

創立記念日 11月29日

大学卒業式 2026年3月20～22日

※公開日の詳細はHPをご覧ください。

https://archives.doshisha.ac.jp/archives/old_mansion/old_mansion.html



【公開時間】 10：00～16：00（入館受付は15：30まで）

【見学対象】 ①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。

②特別公開

旧邸周囲および建物内部（母屋1階と付属屋）に入場できます。

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入場料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10：00～16：30）。※日・月・祝日は閉室



お問合せ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室

HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail：n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



同志社女子大学史料センター 第29回企画展 同志社女子大学図書館のこれまでとこれから

同志社女子大学今出川図書館は、1977年にわが国最初の地下式図書館として開館しました。そして50年を経た2026年度に、創立150周年を記念してリニューアル・オープンを迎えます。またそれに先立つ2018年には、京田辺図書館がラーニング・コモンズと一体化した施設にリニューアルされました。こうした変化を踏まえ、今回の企画展では、私立の女子教育機関として1876年に設立された本学が、どのように蔵書をコレクションし図書館の設立に至ったか、改めてその歴史を振り返るとともに、デジタル技術の著しい発展に直面するなか、本学の図書館が今後どのような展開を志向すべきか問う機会にしたいと考えています。

期 間：2025年11月21日(金)～2026年7月31日(金)

時 間：10：00～16：00

閉室日：土・日・祝日および2025年12月25日、29日～2026年1月2日

(ただし、2025年11月22日～24日、2026年4月29日、7月20日は開室しております。)

場 所：同志社女子大学史料センター

(今出川キャンパス ジェームズ館1階展示室)

主 催：同志社女子大学

★公開講演会★

日 時：2026年2月7日(土) 14：00～15：00

講演者：村木美紀准教授（本学学芸学部メディア創造学科）

会 場：同志社女子大学今出川キャンパス

※詳細は決まり次第、同志社女子大学ホームページやチラシなどでお知らせいたします。



今出川図書館（1977年竣工時）



京田辺図書館（聡恵館地下1階～2階）

お問い合わせ：同志社女子大学史料センター

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201

E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

同志社校友会からのお知らせ



1885年「アルムニ会」として発足したのが、同志社校友会の始まりで、140年の間に約38万人の会員が存在するまでになりました。活動の目的は、卒業生の親睦と同志社の発展に寄与することです。

コロナ禍においてはアルバイトができず経済的に困窮している学生の食生活サポートを行いました。

2023年度、コロナ前の状態に戻りつつあったため、食支援については、経済支援から栄養バランスを考えた支援へと切り替え、大学内の食堂で補食として小鉢の提供をしました。2024年度からは、2015年以降実施していた100円朝食を再開させ、朝食摂取を通じて、規則正しい学生生活を送ってもらえるよう支援をしています。

今後も学生に寄り添った支援を実施していく予定です。

活動の概要

①卒業生と繋がる同志社校友会

2025年7月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在しています。現地の校友会が卒業生のみならず学生へのサポートも行っています。

連絡先は、二次元コードまたは、 で検索してください。



②大学と繋がる同志社校友会

同志社大学が掲げるリーダー育成、グローバル化への支援、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の推進など大学と連携した活動を行っています。

③学生を支える同志社校友会

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて学生生活が充実するようサポートを行っています。

同志社校友会本部事務局

TEL 075-251-4393

E-mail info00@doshisha-alumni.org

同志社女子部と同志社同窓会

<同志社女子部の創立>

同志社は1875年同志社英学校の開校をもって誕生し、創立150年を迎えました。そして同志社女子部は1876年女子塾の開設を始まりとして、翌年同志社女学校となり同志社英学校とともに同志社の歩みを進めてきました。



同志社同窓会寄贈



陶板レリーフ（同志社女子中高 ガリラヤ食堂 壁面）

<同志社同窓会とは>

同志社同窓会は1893年に同志社女学校の同窓会として設立されました。それは1876年の女学校創立より17年後のことで、96名の母校愛あふれる卒業生と有志らによるものでした。制定された規約の第1条には「会員たるものは相互の交誼を密にし且同志社女学校の益を図るを目的とする」とあります。

同志社同窓会は女子大学、大学院、女子高校および中学、旧制女専、高女の卒業生・修了生を会員として、同志社女子大学《Vineの会》と同志社女子中高同窓会「同志社ゆかり会」もふくめ、同志社女子部全体の同窓会です。

年間活動と行事・事業

春（5月）と秋（9月）の幹事会

7月 同志社同窓会総会（3年に1度は総会の前日に支部長会開催）

10月 バザー開催

11月 全同志社リユニオン（法人同志社、同志社大学、校友会と共催）
同窓会ルームで催物

12月 ミス・デントン永眠記念墓前礼拝（相国寺 長得院の墓前での礼拝）

2月 新島襄生誕記念会（学校法人同志社、同志社校友会と共催）

3月 女子高、女子大学卒業生対象入会式

その他、奨学金贈呈や会報の発行、同窓会館の運営（紫苑会講習としてヨーガ、華道、茶道、料理教室を開講）、貸室、女子中高購買・食堂の運営

* ホームページ <https://www.dojo-doso.org>

* E-Mail dojodoso@juno.ocn.ne.jp

本号では「教育のデジタル変革と可能性——同志社教育の未来を探る」と題した特集座談会の記事を掲載しています。その狙いは、ICTを含むデジタル技術の使い方を見極めて教育のデジタル変革を考えていくところにあります。教育のデジタルトランスフォーメーション、すなわち、教育DXは、デジタル技術を活用して教育の変革を推進していくための取り組みを指しています。記事によれば、近年の動向は、生成AIを積極的に使用していく方向に進んでいます。その一方で、行き過ぎたデジタル化を見直し教育のアナログ化を図るという動きもあります。しかしながら、ICTがわたしたちの生活を支える技術的基盤

になりつつある現在では、ICTを用いて教育のあり方を変えていくというのは、避けようが通れない流れではないでしょうか。この事実を認めつつも、記事が強調しているように、あくまでも子どもの成長を促すための重要な道具の一つとしてICTを位置づける必要があります。子どもは成長は、これまでの経験のみならず整理しながらそこから将来を描き直しているところにあります。すなわち、子どもの成長は、固有の経験の連続性を独自に紡ぎ出そうとしているときに起きます。

子どもを取り巻く環境は、子どもの成長にとって必須の要件になっています。子どもが日常の生活を送っている社会は、そのような環境の一つとして存在しています。学校とともに子どもの環境を形作っています。ほかの子どもたちも教師も学校の関係者も子どもの環境を成り立たせています。教育DXの脈絡を言えば、ICTも子どもとの環境を編成しています。このような観点からすれば、教育DXは、子どもの成長に欠かせない環境をICTによって変容させていくための試みである、と言えるでしょう。

ICTを始めとしたデジタル技術がコロナ禍を契機として広く普及したように、そうした技術は、子どもの周囲にある状況も変質させています。だから、記事の指摘にあるように、SNSを介した事件が後を絶たない中、子どもたちは、ICTから離れた生活を送れない以上、ICTについて理解を深めていかなければなりません。それは、子どもたちを教える側にも人たちがとつても同じであります。教育DXは、社会の現代的な変遷の中で子どもの成長を捉え直す機会をわたしたちに提供しています。

(新)

●同志社広報委員会小委員会委員

○印委員長

- | | | |
|-----------------------|-----|-----|
| ○大学文学部教授 | 新三宅 | 茂之仁 |
| 大学神学部教授 | 山月 | 一紀 |
| 大学社会学部教授 | 望月 | 詩史 |
| 大学法学部教授 | 原田 | 禎行 |
| 大学経済学部准教授 | 高橋 | 広実 |
| 大学商学部教授 | 多田 | 英仁 |
| 大学政策学部教授 | 星 | 弘一 |
| 大学文化情報学部准教授 | 近藤 | 真司 |
| 大学理工学部教授 | 高柳 | 好二郎 |
| 大学生命医科学部准教授 | 石井 | 卓真 |
| 大学スポーツ健康科学部教授 | 竹原 | 卓孝 |
| 大学心理学部教授 | 内宮 | 克裕 |
| 大学グローバル・コミュニケーション学部教授 | 宮寄 | 之柱 |
| 大学グローバル地域文化学部助教 | 牛渡 | 明和 |
| 女子大学学芸学部教授 | 金成 | 正和 |
| 女子大学現代社会学部助教 | 橋山 | 涼子 |
| 女子大学薬学部教授 | 陰山 | 祐一 |
| 女子大学看護学部教授 | 米田 | 伸作 |
| 女子大学表象文化学部助教 | 鎌田 | 信行 |
| 女子大学生活科学部准教授 | 池上 | 浩久 |
| 中学校・高等学校事務長 | 磯田 | 佳利 |
| 香里中学校・高等学校事務長 | 貴志 | 美代 |
| 女子中学校・高等学校事務長 | 川嶋 | 望裕 |
| 国際中学校・高等学校事務長 | 堀岡 | 邦裕 |
| 小学校事務長 | 矢井 | 裕一 |
| 国際学院事務長 | 柳朝 | 伸夫 |
| 幼稚園教諭 | 田中 | 健 |
| 法人事務部長 | 中原 | |
| 大学広報部長 | 前野 | |
| 法人事務部校友同窓課長 | | |
| 大学広報部広報課長 | | |
| 女子大学広報部広報室広報課長 | | |

※職名は同志社広報委員会小委員会発足時のものです。

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

・送料(ゆうメール着払い:1冊249円)のみのご負担で
ご購読いただけます。

・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学広報課

同志社時報 第160号

編集人 新 茂之

発行人 八田英二

発行 学校法人同志社

同志社大学広報課

電話 (075) 251-3120

印刷所 株式会社あおぞら印刷

2025年10月1日発行

【訂正】159号に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫びします。
「特別寄稿」88ページ2行目 ×「同志社時報」 ○「同志社大学広報」